

京都市内遺跡詳細分布調査報告

令和5年度

2024年3月

京都市文化市民局

京都市内遺跡詳細分布調査報告
令和5年度

二〇二四

京都市文化市民局

京都市内遺跡詳細分布調査報告

令和5年度

2024年3月

京都市文化市民局

例 言

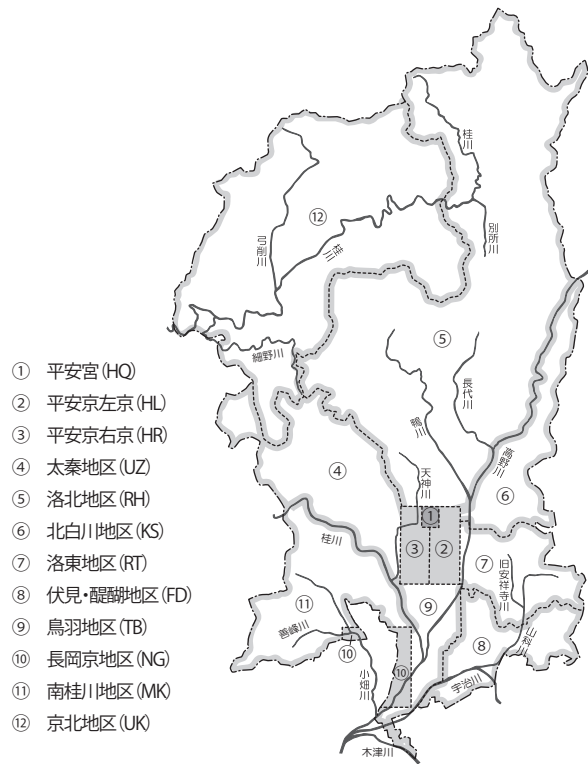
1. 本書は京都市が文化庁の国庫補助を得て実施した令和5年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。令和5年1月から令和5年12月まで実施した詳細分布調査のうち、重要な成果があったものを本文で報告し、その他のものを一覧表に列記している。
2. 本文の執筆分担は、本文の末尾に記している。
3. 本書報告の調査のうち、基準点測量した調査の方位および座標は、世界測地系平面直角座標系VIによる。標高はT.P.（東京湾平均海面高度）による。またこれ以外の場合は、既存公共物などを仮基準点（KBM）として用いている。
4. 本書で使用した調査位置図は京都市発行の都市計画基本図（縮尺1／2,500）と一部京都市公共物GISを調整し、作成したものである。このほか、巻末の図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。

図版1～13 1／8,000、図版14～28 1／10,000

5. 本書で使用した遺物の名称及び形式・型式は、一部を除き、平尾政幸「土師器再考」（『洛史』研究紀要 第12号、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2019年）に準拠する。

750	840	930	1020	1110	1170	1260	1350	1410	1500	1590	1680	1740	1800	1860
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	

6. 本書で使用した土色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』2016年度版に準じる。
7. 調査一覧表では各時代の「時代」は省略し、調査日も簡略に記している。遺跡名は、平安宮跡、平安京跡、長岡京跡については、官衙・条坊を優先して記載した。西暦も年を省略している。
8. 調査及び整理にあたっては、飯沼 俊哉、上茶谷 美保、上別府 亜紀、早川 仁志、林 友紀、松本 和子、吉本 健吾の協力を得た。
9. 調査及び本書作成は、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課が担当し、（公財）京都市埋蔵文化財研究所の協力を得た。



地区設定概念図

本文目次

I 調査概要	1
II 平安京左京	6
1 平安京左京北辺二坊六町跡 (22H507)	6
2 平安京左京五条一坊六町跡 (22H347)	9
III その他の遺跡	12
1 名勝 東福寺本坊庭園、法性寺跡 (4N018、21S276)	12
2 西飯食町遺跡 (22S379)	23
3 外畑城跡、外畑遺跡 (22S435)	26
IV 調査一覧表	32

報告書抄録

挿図目次

地区設定概念図	i
I 調査概要	
図1 詳細分布調査の年間件数推移	2
II - 1 平安京左京北辺二坊六町跡	
図2 調査位置図	6
図3 調査地点位置図	6
図4 No.2 地点全景 (南から)	6
図5 遺構平面・断面・柱状図	8
II - 2 平安京左京五条一坊六町跡	
図6 調査位置図	9
図7 調査地点位置図	9
図8 No.1・2 地点平面・断面・柱状図	10
図9 出土遺物実測図	10

図 10	井戸跡検出状況（西から）	11
Ⅲ - 1 名勝 東福寺本坊庭園、法性寺跡		
図 11	調査位置図	12
図 12	調査地点配置図	14
図 13	令和 3～5 年調査地点断面図	15
図 14	名勝範囲内の調査地点及び復元図	16
図 15	A 地点全景（北から）	17
図 16	名勝範囲内の調査地点断面・柱状図	17
図 17	出土瓦実測図及び拓影	18
Ⅲ - 2 西飯食町遺跡		
図 18	調査位置図	23
図 19	調査地点配置図	24
図 20	No.1 地点平面・立面・断面図	24
図 21	No.2 地点平面・断面図	25
図 22	石組み溝の推定ライン図	25
Ⅲ - 3 外畑城跡、外畑遺跡		
図 23	調査位置図	27
図 24	外畑城周辺赤色立体図	28
図 25	遺構分布図【外畑城跡部分】	28
図 26	No.1 地点堀切部分断面図、No.4・6 地点柱状図、No.5 地点竪堀部分断面図	29
図 27	No.1 地点堀切遺構	29
図 28	No.8 地点東城遺構	29
図 29	No.7 地点西城遺構	29
図 30	遺構分布図【外畑遺跡部分】	30
図 31	No.2 地点石積土壇（東から）	30
図 32	No.3 地点石列遺構（東から）	30

表 目 次

表 1	令和 5 年の詳細分布調査件数	1
表 2	出土遺物概要表	5
表 3	令和 3・4 年調査成果一覧表	21
表 4	令和 5 年調査成果一覧表	22

図 版 目 次

図版 1～28 調査位置図

図版 1	平安宮
図版 2	平安京左京北辺～三条一・二坊
図版 3	平安京左京北辺～三条三・四坊
図版 4	平安京左京四～六条一・二坊
図版 5	平安京左京四～六条三・四坊
図版 6	平安京左京七～九条一・二坊
図版 7	平安京左京七～九条三・四坊
図版 8	平安京右京北辺～三条三・四坊
図版 9	平安京右京北辺～三条一・二坊
図版 10	平安京右京四～六条三・四坊
図版 11	平安京右京四～六条一・二坊
図版 12	平安京右京七～九条三・四坊
図版 13	平安京右京七～九条一・二坊
図版 14	伏見城跡、板橋廢寺、金森出雲遺跡、御香宮廢寺、指月城跡
図版 15	伏見城跡、中山遺跡
図版 16	御土居跡、史跡 大徳寺境内、大徳寺旧境内、雲林院跡、引接寺境内、北野廢寺、北野遺跡、上京遺跡、寺ノ内旧域
図版 17	1 大雲寺跡 2 御土居跡 3 雲林院跡、寺ノ内旧域、上京遺跡、相国寺旧境内、公家町遺跡、内膳町遺跡
図版 18	1 松尾十三塚古墳群 2 革嶋館跡、革嶋遺跡、下津林遺跡 3 上久世遺跡、中久世遺跡、下久世構跡、大藪遺跡、長岡京跡、東土川遺跡
図版 19	長岡京跡、東土川遺跡、久我殿遺跡
図版 20	三瓦山古墳群、鳴滝藤ノ木町古墳、仁和寺院家跡、円乗寺跡、森ヶ東瓦窯跡、

和泉式部町遺跡、一ノ井遺跡、上ノ段町遺跡、梅津坂本町遺跡

図版 21 上終町遺跡、北白川廃寺、小倉町別当町遺跡、池田町古墳群、田中関田町遺跡、
吉田泉殿町遺跡、白河街区跡、白河北殿跡、白河南殿跡、法勝寺跡、岡崎遺跡

図版 22 御土居跡、祇園遺跡、六波羅政庁跡、方広寺跡、法住寺殿跡、鳥部（辺）野、
清閑寺境内

図版 23 1 大覚寺古墳群、嵯峨遺跡、嵯峨折戸町遺跡 2 植物園北遺跡、御土居跡

図版 24 1 鳥羽離宮跡、鳥羽遺跡、竹田城跡 2 醍醐ノ森瓦窯跡、河上瓦窯跡
3 妙満寺窯跡、元稻荷窯跡、東幡枝遺跡、栗栖野瓦窯跡

図版 25 1 寺町旧域、法成寺跡、御土居跡
2 安朱遺跡、山階寺跡、四手井城跡、山科本願寺跡（寺内町遺跡）

3 中臣遺跡、稻荷塚古墳、中臣十三塚、坂上田村麻呂墓伝承地 4 福西古墳群

図版 26 1 平岡八幡宮窯跡 2 浄土寺七廻り町遺跡

3 名勝 東福寺本坊庭園、法性寺跡

4 芝町遺跡 5 山科本願寺南殿跡、大塚遺跡

6 大宅廃寺、大宅廃寺境内瓦窯跡、大宅遺跡

7 伏見稻荷大社境内、稻荷山古墳群、稻荷山坊崖遺跡

8 安楽行院跡、深草坊町遺跡

図版 27 1 小野廃寺 2 法界寺旧境内 3 中山遺跡 4 向島城跡

5 唐橋遺跡 6 西飯食町遺跡 7 富ノ森城跡 8 淀城跡

図版 28 1 長岡京跡、上里遺跡 2 檜原遺跡

3 史跡 乙訓古墳群（芝古墳）、芝古墳群

4 三鈷寺境内 5 外畑城跡、外畑遺跡

I 調査概要

本書は、文化庁国庫補助事業に伴う令和5年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。本書では令和5年1月4日から3月31日までの令和4年度分141件、令和5年4月3日から令和5年12月28日までの令和5年度分321件、計462件を報告する(表1)。

詳細分布調査の総件数は前年に比べて114件減少した(図1)。令和元年の645件をピークとして減少傾向が続き、4年間の減少幅は183件となった。114件という数字はこの中でも最大である。地区ごとの増減では、平安京右京地区(4件増)及び南桂川地区(12件増)以外の地区で減少している。平安京域では右京域の増加分もあり、9件の減少に留まっている。新型コロナウイルス感染症の影響拡大前と比べ、ホテル開発による件数の伸びは一服したものの、共同住宅開発がホテル開発の件数減を補っており、平安京域ではいまだに開発需要は高い。一方で周辺地区では105件も減少した。特に洛北地区では30件も減少し、次に太秦地区の19件減少、北白川地区の18件減少と続いている。平安京跡に近い北部域で件数の減少が顕著である。長岡京跡や南桂川地区を中心とした南部では、生産緑地法施行から30年が経過したことによる生産緑地指定の解除や、陸上交通の利便性を生かした物流施設の需要増加など、開発契機が北部と比べて高かったことで相対的に減少幅が小さかったものと推測する。

しかしながら全体としての件数減少傾向は否めない。新型コロナウイルス感染症の拡大を引き金に、世界的な金融緩和や国際紛争による流通の混乱等、複数の要因が絡まって物価の高騰が続いている。建築資材の価格も高騰し、さらには人手不足からの人件費高騰も伴ったことで、開発コストが高止まりし、開発件数そのものが減少傾向にあることが調査件数の減少にもつながっている。特に周辺地区の減少は、その影響が大きく現れている。

また、人材不足は、コストの上昇につながるだけでなく、これまで当たり前できていたことが、当たり前にはできなくなることもつながる。そのひとつが安全への意識付けであろう。令和5年は埋蔵文化財担当職員及び補助員に怪我が相次いだ一年であった。いずれも業務外での事故であり、調査現場での事故ではないものの、事故に至る過程において、どこかに気の弛みがあっ

表1 令和5年の詳細分布調査件数

地区	4年度1~3月	5年度4月~12月	小計	地区	4年度1~3月	5年度4月~12月	小計
平安宮(HQ)	26	49	75	洛東地区(RT)	16	29	45
平安京左京(HL)	35	69	104	伏見・醍醐地区(FD)	6	23	29
平安京右京(HR)	20	49	69	鳥羽地区(TB)	5	13	18
太秦地区(UZ)	2	17	19	長岡京地区(NG)	5	13	18
洛北地区(RH)	16	27	43	南桂川地区(MK)	4	17	21
北白川地区(KS)	6	15	21	京北地区(UK)	0	0	0
				合計	141	321	462

たのかもれない。埋蔵文化財の調査も命があってこそできるものである。埋蔵文化財の調査は常に危険と隣り合わせであることを改めて強く心に刻み、公私にわたって安全を意識して行動し、再発しないよう職員一同心がけたいものである。

詳細分布調査の件数は減少しているが、調査によって検出できた遺構、遺物は多数ある。以下、地区ごとの概要を述べる。

①平安宮（HQ）

平安宮域では、平安宮跡、鳳瑞遺跡、聚楽遺跡、聚楽第跡、二条城北遺跡と連続する工事で平安京右京三条一坊八・九・十町跡、壬生遺跡の7遺跡で75件の調査を行った。

左近衛府跡、聚楽第跡の調査（22K594）で平安時代後期の火災処理土坑を検出した。治部省・判事跡の調査（23K230）でも平安時代の遺物包含層を検出している。判事跡、右京三条一坊八・九・十町跡、壬生遺跡の調査（22K312）では平安時代の二条大路北側溝と考えられる層を検出している。

また近世の遺構は漆室跡の調査（22K520）、宴松原跡の調査（23K363）、掃部寮跡の調査（23K031）、左近衛府跡、聚楽第跡の調査（23K099）、判事跡の調査（23K002）の5箇所、近代の遺構は内舎人跡、聚楽遺跡の調査（23K163）で検出している。時期不明の遺構は東雅院跡、二条城北遺跡の調査（23K283）でピット、朝堂院跡、聚楽遺跡の調査（23K025）で遺物包含層を検出した。

②平安京左京（HL）

左京域では、平安京跡、上京遺跡、公家町遺跡、内膳町遺跡、京都新城跡、旧二条城跡、烏丸

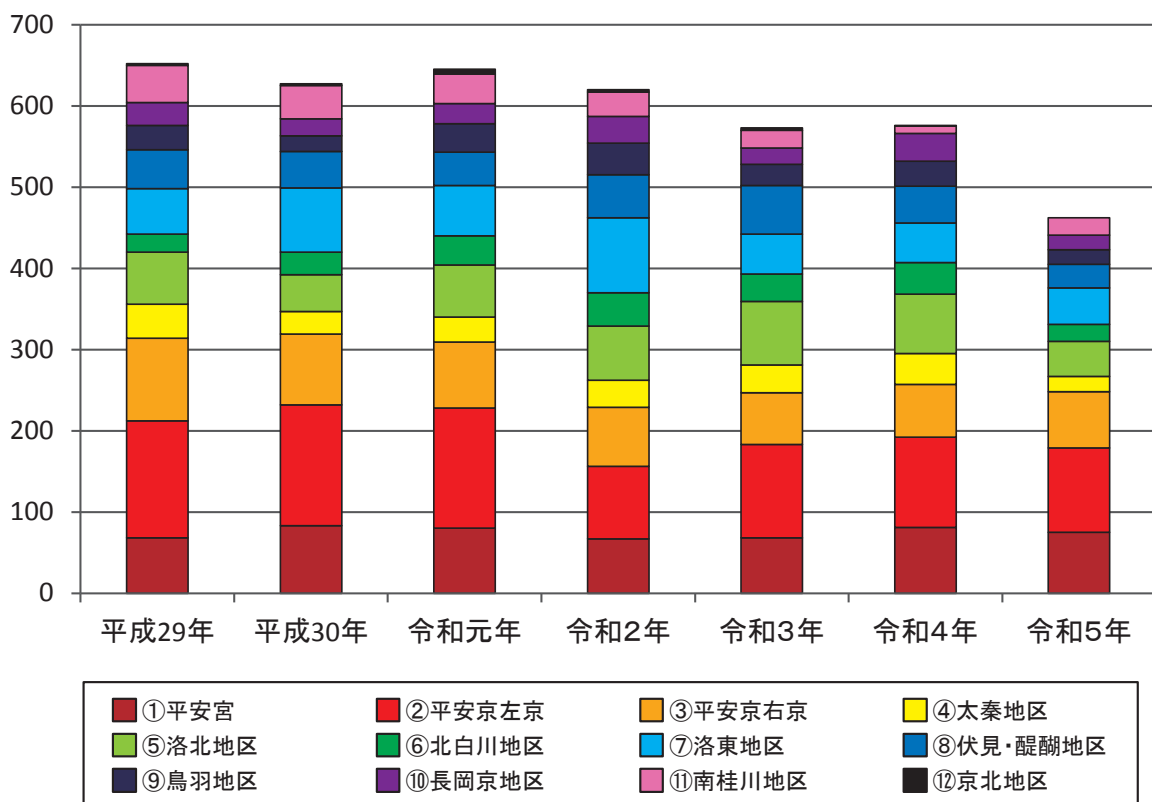


図1 詳細分布調査の年間件数推移

丸太町遺跡、二条殿御池城跡、史跡旧二条離宮（二条城）、烏丸御池遺跡、烏丸綾小路遺跡、堀川御池遺跡、妙顕寺城跡、妙覚寺城跡、等持寺跡、三条せと物や町遺跡、寺町旧域、旧本能寺の構え跡、本隆寺の構え跡、だいうすの城跡、中堂寺城跡、東市跡、御土居跡、東本願寺前古墓群、塩小路若山城跡、史跡教王護国寺境内、教王護国寺旧境内（東寺旧境内）、烏丸町遺跡の28遺跡で104件の調査を行った。

北辺二坊六町跡の調査（22H507）で平安時代後期～鎌倉時代の遺構群、五条一坊六町跡の調査（22H347）で平安時代後期の井戸を検出したので、本書ではこの2件を報告する。

この他、一条四坊十町跡、公家町遺跡、京都新城跡の調査（20H631）では、時期不明であるが南北方向の石組溝を検出した。二条四坊七町跡、烏丸丸太町遺跡、京都新城跡の調査（22H311）では室町時代の遺物包含層を検出した。三条二坊三町跡の調査（22H421）では平安時代末期と中世の整地層、時期不明の土坑を検出している。三条二坊九町跡、妙顕寺城跡、堀川御池遺跡の調査（22H537）では中世の遺物包含層を検出している。

三条二坊十一町跡、堀川御池遺跡の調査（23H115）で平安時代後期の井戸、室町時代の溝、四条三坊六町跡、烏丸綾小路遺跡の調査（22H439）で平安時代後期の整地層、平安時代後期～鎌倉時代の包含層、室町時代の土坑など、四条四坊七町跡の調査（22H534）で平安時代後期の整地層、五条二坊二町跡の調査（23H222）で鎌倉時代のピット、六条一坊十三町跡、中堂寺城跡の調査（22H628）で鎌倉時代の遺物包含層を検出した。

また六条四坊十五町跡では2箇所の調査（22H590、22H654）で鎌倉時代の遺物包含層を検出している。七条二坊十五町跡の調査（22H420）で中世の遺物包含層、九条二坊十四町跡、烏丸町遺跡の調査（23H171）では平安時代末期～鎌倉時代の土坑を検出した。

③平安京右京（HR）

右京域では、平安京跡、御土居跡、西ノ京遺跡、壬生遺跡、山ノ内遺跡、西院遺跡、西京極遺跡、衣田町遺跡、西市跡、史跡西寺跡、西寺跡、唐橋遺跡の12遺跡で69件の調査を行った。

一条三坊十一町跡の調査（22H358）で平安時代前期の土坑、一条三坊十五町跡の調査（23H266）で鎌倉時代の土坑と中世の遺物包含層を検出した。四条一坊十二町跡の調査（23H125）では平安時代の皇嘉門大路築地内溝、四条一坊十六町跡の調査（22H357）で中世の遺物包含層を検出している。五条三坊十三町、四坊四・六町跡、西京極遺跡の調査（22H572）では時期は不明であるが菖蒲小路西側溝の可能性のある溝を検出した。また九条二坊四町跡、唐橋遺跡の調査（22H490）では古墳時代と考えられるピットを検出している。

④太秦地区（UZ）

平岡八幡宮窯跡、大覚寺古墳群、嵯峨遺跡、嵯峨折戸町遺跡、三瓦山古墳群、鳴滝藤ノ木町古墳、円乗寺跡、仁和寺院家跡、森ヶ東瓦窯跡、和泉式部町遺跡、一ノ井遺跡、上ノ段町遺跡、梅津坂本町遺跡の13遺跡で19件の調査を行った。

森ヶ東瓦窯跡、和泉式部町遺跡の調査（23S018）で時期は不明であるが遺物包含層を検出している。

⑤洛北地区（RH）

大雲寺跡、醍醐ノ森瓦窯跡、河上瓦窯跡、妙満寺窯跡、元稻荷窯跡、東幡枝遺跡、栗栖野瓦窯跡、植物園北遺跡、御土居跡、史跡大徳寺境内、大徳寺旧境内、雲林院跡、引接寺境内、北野廃寺、北野遺跡、寺ノ内旧域、上京遺跡、相国寺旧境内、公家町遺跡の19遺跡で43件の調査を行った。

植物園北遺跡の調査（22S571）で時期は不明であるが南北方向の溝とピットを検出した。御土居跡の調査（22S608）では御土居の構築土を確認している。雲林院跡の調査（23S087）では明治時代の礎石を確認した後、発掘調査を行ったので『京都市内遺跡発掘調査報告 令和5年度』に報告する。上京遺跡、相国寺旧境内の調査（22S378）で中世の遺物包含層を検出した。公家町遺跡の調査（22S281）では江戸時代末期～近代の桂宮邸築地側溝の埋土を検出した。

⑥北白川地区（KS）

上終町遺跡、北白川廃寺、池田町古墳群、小倉町別当町遺跡、田中関田町遺跡、吉田泉殿町遺跡、白河街区跡、白河北殿跡、白河南殿跡、法勝寺跡、岡崎遺跡、浄土寺七廻り町遺跡、寺町旧域、御土居跡、法成寺跡の15遺跡で21件の調査を行った。

北白川廃寺の調査（22S535）で時期は不明であるが遺物包含層を検出している。浄土寺七廻り町遺跡の調査（23A003）では平安時代前期の土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦などを採集した。

⑦洛東地区（RT）

御土居跡、祇園遺跡、六波羅政庁跡、法住寺殿跡、方広寺跡、鳥部（辺）野、清閑寺境内、法性寺跡、名勝東福寺本坊庭園、芝町遺跡、安朱遺跡、山階寺跡、四手井城跡、山科本願寺跡（寺内町遺跡）、山科本願寺南殿跡、大塚遺跡、中臣遺跡、中臣十三塚、稻荷塚古墳、坂上田村麻呂墓伝承地、大宅廃寺、大宅廃寺境内窯跡、大宅遺跡の23遺跡で45件の調査を行った。

本書では法性寺跡、名勝東福寺本坊庭園の調査（21S276）で室町時代～近世の東福寺に伴う遺構群を検出したので報告する。

鳥部（辺）野、清閑寺境内の調査（22S496）で中世の遺物包含層を検出した。この他、いずれも時期不明であるが祇園遺跡（22S288）、山科本願寺跡（寺内町遺跡）（23S223）、大塚遺跡（23S158）の各調査で遺物包含層、中臣遺跡、中臣十三塚の調査（22N004）では土坑を検出している。

大宅廃寺、大宅廃寺境内窯跡、大宅遺跡の調査（21S384）では古代の溝、土坑を検出しているが『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和4年度』に報告している。

⑧伏見・醍醐地区（FD）

伏見稻荷大社境内、稻荷山古墳群、稻荷山坊崖遺跡、深草坊町遺跡、安楽行院跡、伏見城跡、板橋廃寺、金森出雲遺跡、御香宮廃寺、指月城跡、小野廃寺、法界寺旧境内、中山遺跡、向島城跡の14遺跡で29件の調査を行った。

伏見城跡に関連すると思われる遺構は、4箇所（20F556、22F084、23F198、23F149）で造成土と考えられる層を検出した。また別の調査（23F360）で時期は不明であるが遺物包含層を検出している。

⑨鳥羽地区（TB）

唐橋遺跡、西飯食町遺跡、鳥羽離宮跡、竹田城跡、鳥羽遺跡、久我殿遺跡、富ノ森城跡、淀城跡の8遺跡で18件の調査を行った。

本書では西飯食町遺跡の調査（22S379）で近代の石組み暗渠を検出したので報告する。

鳥羽離宮跡、竹田城跡、鳥羽遺跡の調査（23T037）で時期は不明であるが遺物包含層と溝を検出した。久我殿遺跡の調査（22S599）で中世の耕作土、富ノ森城跡の調査（19S141）では近世後期の遺物包含層を検出している。

⑩長岡京地区（NG）

長岡京跡、東土川遺跡、上里遺跡の3遺跡で18件の調査を行った。

左京一条四坊三・四町跡、東土川遺跡の調査（22NG595）と右京北辺三坊二町跡の調査（22NG662）で時期不明であるが遺物包含層を検出した。

⑪南桂川地区（MK）

松尾十三塚古墳群、革嶋館跡、革嶋遺跡、下津林遺跡、檜原遺跡、上久世遺跡、中久世遺跡、大藪遺跡、下久世構跡、福西古墳群、外畑城跡、外畑遺跡、史跡乙訓古墳群（芝古墳）、芝古墳群の14遺跡と三鈷寺境内の隣接地で21件の調査を行った。

本書では外畑城跡、外畑遺跡の調査（22S435）で城跡の堀切を確認、さらに遺跡の東側で祭祀遺跡（外畑遺跡）を発見したので報告する。

下津林遺跡の調査（22S430）では弥生時代の遺物包含層を検出した。上久世遺跡の調査（22S633）では弥生時代～古墳時代の遺物包含層と古墳時代の流路を検出している。中久世遺跡、大藪遺跡、下久世構跡の調査（23S054）では中世の耕作土、福西古墳群の調査（23S143）では近世の遺物包含層を検出した。

また時期不明であるが革嶋館跡の調査（23S045）でピットと遺物包含層、革嶋館跡、革嶋遺跡の調査（22S607）と上久世遺跡の調査（23S262）では遺物包含層を検出している。史跡乙訓古墳群（芝古墳）、芝古墳群の調査（4N030）では時期は不明であるがピットを検出し、埴輪、須恵器を表採している。

⑫京北地区（UK）

今回は対象となる調査は行っていない。

（吉本健吾・新田和央）

表2 出土遺物概要表

	Aランク点数 (箱数)	内訳	Bランク 箱数	Cランク 箱数	出土箱数 合計
点数 及び 箱数	23点 (2箱)	土師器8点、瓦器1点、 輸入磁器2点、木製品7点、 軒平瓦5点	1箱	4箱	7箱

Ⅱ - 1 平安京左京北辺二坊六町跡 (22H507)

1. 調査に至る経緯と経過

調査地は、堀川通と中立売通の交差点より南に位置する(図2)。平安京の条坊復原では左京北辺二坊六町跡の西辺に相当し、敷地の西端は堀川小路との境に近い。今回、この区画に共同住宅の建設が計画されたため、詳細分布調査を実施した。

工事掘削は、東から西へ向かって進められたため、その進捗に合わせて計5箇所の地点において断面観察を行った(図3)。その結果、鎌倉時代、室町時代の包含層と遺構の遺存を確認した。このためNo.2地点で、工事掘削を一時中断して平面検出を試みたところ、平安時代末～鎌倉時代初頭の遺構を複数検出した。本文ではその成果を報告する。

2. 周辺の調査状況

当該町域には平安時代前期に女官町、中期に加賀守源重文邸が置かれたとされる。源重文は光孝源氏のうち歌人を輩出する家柄で、娘の源式部は中宮彰子の女房として出仕したが、それ以後の地歴は不明である。

一方、埋蔵文化財の調査は、発掘調査、試掘調査、詳細分布調査が町内で複数行われている。昭和53年に町域東辺において実施された発掘調査(図2-調査①)では、GL-1.8～-2.5mの深度において、鎌倉時代の土坑、室町時代の溝、石室、埋甕土坑群、桃山期の瓦溜等が検出された。室町時代の遺構群は造酒遺構と推測されることから、手工業生産の場であったと考えられる。また桃山期の瓦溜から

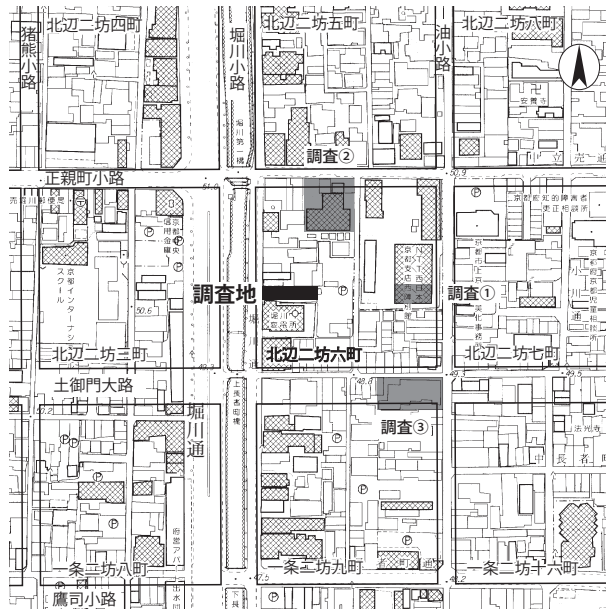


図2 調査位置図(1:5,000)

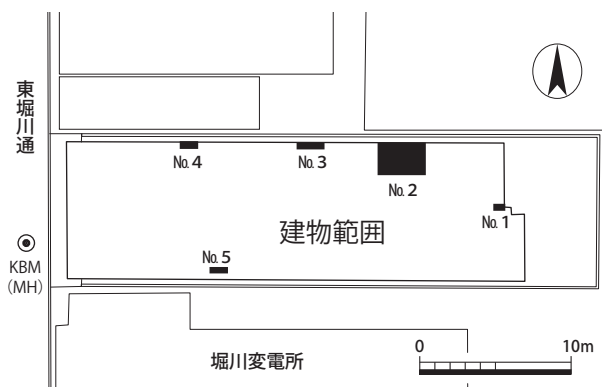


図3 調査地点位置図(1:500)



図4 No.2地点全景(南から)

は金箔軒丸瓦や飾瓦、熨斗瓦等が出土しており、近隣に有力者の邸宅が置かれたことを想起させる。

試掘調査では、町域北辺（同②）において大規模な落込みが確認されており、戦国期の構えに伴う堀である可能性が示されている。町域南東の土御門大路の推定地（同③）では、GL-1.2 mの深度において室町時代の土坑が複数確認されており、当該期に活発な土地利用が為されたことが看取される。ただし平安時代に遡る遺構は希薄であり、文献史料の首肯には至っていない。

3. 調査成果

調査地の地表面は中央北辺が最も高く、東と南へ向かって徐々に下がる。近世以後の火災処理による攪乱が点在するものの、それ以外の範囲では明瞭に層序を捉えることができた（図5）。

No.1 地点 盛土以下、GL-0.2 mで灰黄褐色砂泥、-0.35 mでにぶい黄橙色砂泥、0.55 mでにぶい黄橙色砂泥が堆積する。いずれも時期不明の包含層で、土師器の細片を僅かに含む。地山は確認できていない。盛土直下において、にぶい黄褐色砂泥を埋土とする土坑を1基検出した。

No.2 地点 盛土以下、GL-0.3 mで黒褐色粗砂混じり粘土質シルトの室町時代包含層、-0.7 mで暗灰黄色粗砂混じり粘土質シルトの時期不明包含層、-0.9 mで褐色礫混じり粘土質シルトの地山に至る。盛土直下において、桃山期～江戸時代初期の土坑を1基検出した。埋土は暗オリーブ褐色粗砂混じりシルトを主体とし、拳大の角礫を多く含む。層内から土師器皿（16世紀）が出土した。

地山上面では、土坑2基を検出した（土坑1・2）。平面形状は、ともに長径1.0 m程度の楕円形に復原される。切りあいがあり、先行する土坑2は、にぶい黄褐色粗砂混じり粘土質シルトを埋土とする。遺構内から土師器皿（12世紀）の小片が出土した。平安時代末～鎌倉時代初頭の遺構である。またこれを切って成立する土坑1は、ブロック土を含む暗灰黄色粗砂混じりシルトを埋土とする。遺物は確認できていないが、層序関係から鎌倉時代～室町時代の遺構と推測される。

No.3 地点 盛土以下、GL-0.2 mで灰黄褐色粗砂混じり粘土質シルトの室町時代包含層、-0.4 mで褐灰色シルトブロックと灰黄褐色粗砂混じりシルトブロックが混じる時期不明包含層、-0.55 mで黄褐色粗砂混じり粘土質シルトの地山に至る。盛土直下において、暗褐色粗砂混じりシルトを埋土とする桃山期の土坑を検出した。また、地山上面において時期不明のピットを1基検出した。

No.4 地点 盛土以下、GL-0.34 mで褐色粗砂混じりシルトブロックと灰褐色シルトブロックが混じる火災処理層、-0.53 mでにぶい黄褐色砂礫の河川堆積を確認した。河川堆積は無遺物層で、地山の一部と判断される。

No.5 地点 GL-1.0 mまで攪乱を受けており、直下に黄褐色細砂混じりシルトの河川堆積（地山）が存在する。地山上面で時期不明の落込みを検出したが、大きく削平を受けていると見られる。遺物の出土は確認できなかった。

4. まとめ

以上、調査成果を報告した。今回の調査では、平安時代末～鎌倉時代に遡る遺構を検出し、当該期における遺構面の遺存を認識することができた。また室町時代の包含層、桃山期の土坑を検

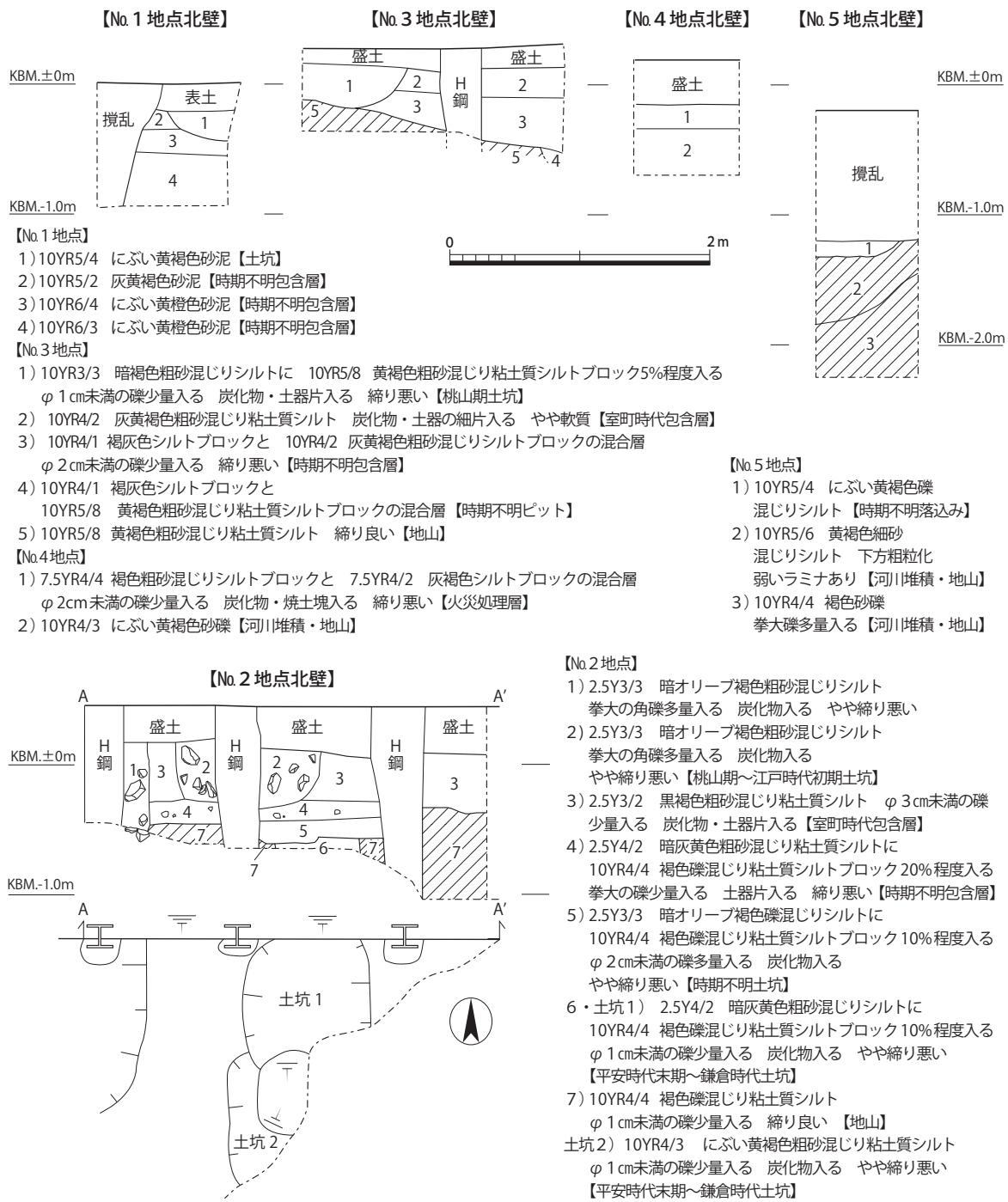


図5 遺構平面・断面・柱状図（1：50）

出したことから、既往の調査で報告された活発な土地利用を追認することができた。当該期の遺構が極めて浅い深度から発見されたことは、今後の周辺開発における留意点となるだろう。

（黒須亜希子）

引用文献

- 調査①：（財）京都市埋蔵文化財研究所 『昭和53年度 京都市埋蔵文化財調査概要』、2011年。
 調査②：京都市文化市民局 『京都市内遺跡試掘調査概報』平成13年度、2002年。
 調査③：京都市文化市民局 『京都市内遺跡試掘調査概報』平成6年度、1994年。

Ⅱ-2 平安京左京五条一坊六町跡 (22H347)

1. 調査の経緯 (図6)

本件は、中京区壬生相合町 69-6 における集合住宅建設に伴う調査である。調査地は、壬生川高辻の交差点西側に位置し、平安京左京五条一坊六町跡に該当する。六町に関する史料としては、平安時代後期に僧珍也の住坊が南東部に所在したとされる(『仁和寺所蔵古図』)。同町における調査では、調査地に南面する高辻通の配水管敷設工事に伴う立会調査で(調査1)、平安時代末期から江戸時代にかけての遺構を確認しているほか¹⁾、同町中央西部で試掘調査を実施しており(調査2)、中世に属する複数の土坑が確認されている²⁾。

調査は4月13・17日に実施し、平安時代末期の井戸を確認したため報告を行う。

2. 遺構 (図7・8)

調査地北東隅の2箇所調査を実施し、No.1地点で井戸、No.2地点で土坑を確認した。

井戸は、GL-1.7 mで地山となるにぶい黄褐色粗砂を掘り込んで成立する。工事掘削に伴い上部は大きく削平を受けている。検出時の掘方は一辺0.7～0.8 mの方形で、井戸枠は残存していなかったが、水溜として径0.5 mの曲物が一部残る。掘方埋土は明褐色泥土礫混じり、曲物内部は明緑灰色泥土で、12世紀代の土器類のほか木製品等が出土した。

土坑は、GL-0.95 mでにぶい黄褐色粗砂の地山を掘り込んで成立する。平面形状や規模は削平を受け不明であるが、深さ0.4 mを測る。遺物は出土しなかったため、時期は判然としない。

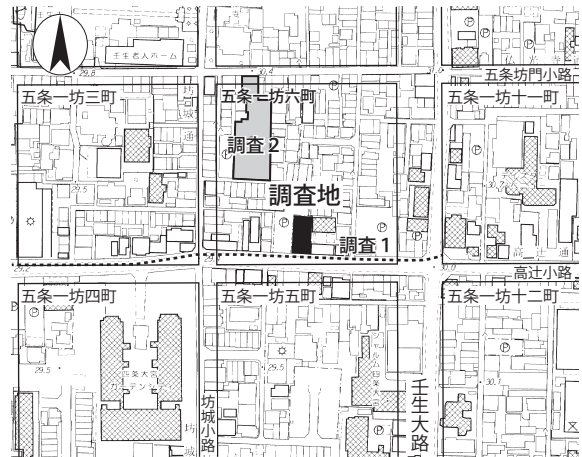


図6 調査位置図 (1 : 5,000)

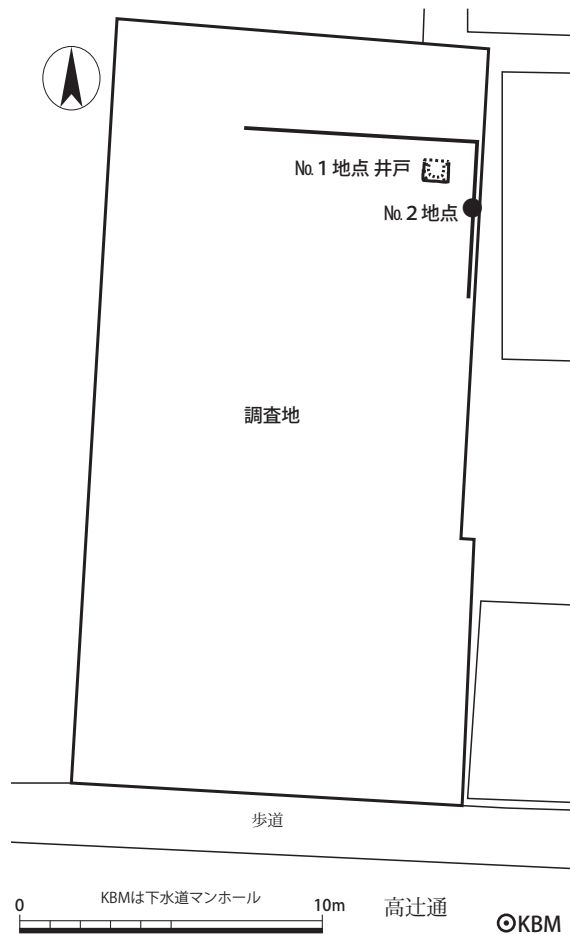


図7 調査地点位置図 (1 : 250)

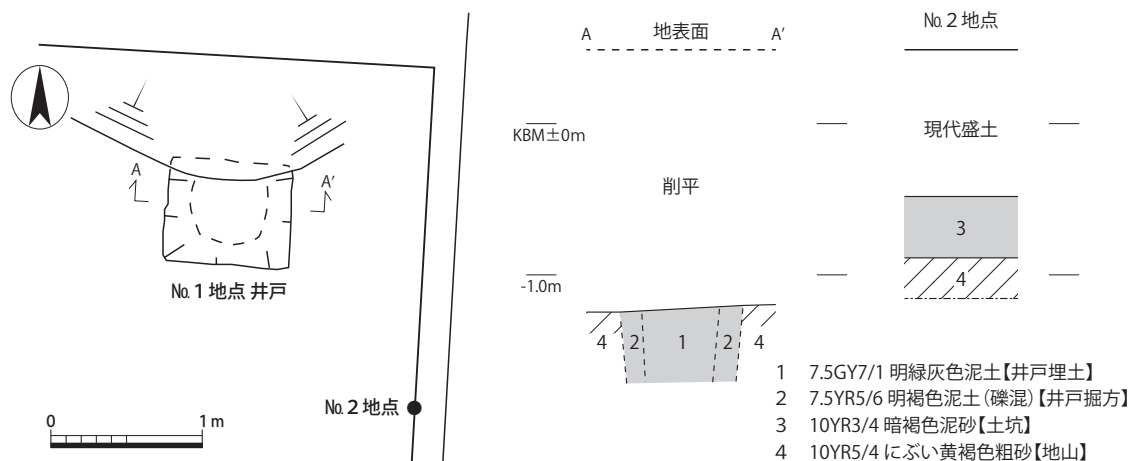


図8 No.1・2地点平面・断面・柱状図(1:50)

3. 遺物(図9)

遺物はすべて井戸埋土からのもので、土師器のほか、瓦器、輸入陶磁器、木製品が出土した。

1～8は土師器皿Nである。いずれも口縁部外面にナデによる2段の凹みを持ち、端部は上方に摘み上げ、丸みを帯びている。口径は9cm代後半に復元できるものが大半である。5A～5B段階に位置づけられ、12世紀代に属するものである。9は瓦器椀で、口縁端部は外反し、高台断面は三角形を呈する。内外面ともにヘラミガキが施され、外面体部下半には指押さえの痕跡が残る。器高は5.4cmを測る。12世紀前半に属するものである。10は小型の白磁碗の口縁部で、端部はやや外反する。11は青白磁の合子蓋である。

12～18は木製品である。12・13は用途不明の板材で、12は厚さ0.78cm、13は厚さ0.5cm

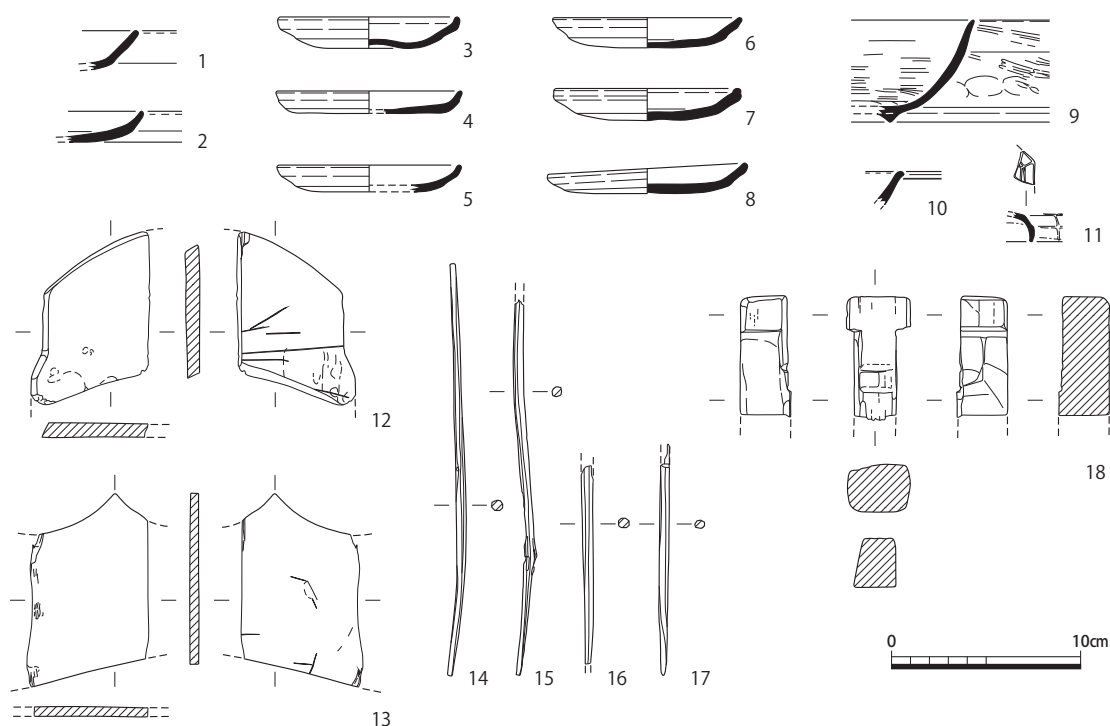


図9 出土遺物実測図(1:4)

を測る。いずれも一面を円形に加工している。14～17は箸で、断面は八角形を呈する。14のみ完形で、長さは21.8cmである。18は栓である。最大長は6.6cmを測る。

4. まとめ

今回の調査では、平安時代末期の井戸跡を確認した。同町を含め周辺では、当該期に土地利用が活発化することが知られており、今回の調査成果でもそれを裏付ける結果となった。今後、周辺の調査の蓄積を行い、土地利用の実態を明らかにしていく必要がある。

(西森正晃)

註

- 1) 『平安京左京五条一坊跡 昭和55年度』(財)京都市埋蔵文化財研究所、1980年。
- 2) 『京都市内遺跡試掘調査報告 平成19年度』京都市文化市民局、2008年。



図10 井戸跡検出状況(西から)

Ⅲ-1 名勝 東福寺本坊庭園、法性寺跡 (4N018、21S276)

1. 調査の経緯 (図11)

本件は、東福寺境内での防災設備設置に伴う詳細分布調査である。調査地は、東福寺の境内で、「名勝 東福寺本坊庭園」及び周知の埋蔵文化財包蔵地「法性寺跡」に該当する。調査期間は令和5年1月12日～9月11日で、24箇所を調査を実施した。調査の結果、東福寺法堂の基壇盛土のほか、各所で整地土等を確認した。

なお、本工事は長期間に及んだことから、既に一部の成果については令和4年度の詳細分布調査報告書において触れている¹⁾。しかし、これは本報告と同一の工事に伴うものであり、その成果も密接に関わることから、ここではその詳細についても併せて報告を行う。なお、令和3・4年の調査期間は、令和3年8月23日～令和4年12月13日で、53箇所を調査を実施した。

法性寺は延長年間(923～931)に藤原忠平によって建立された寺院である。忠平没後はその子孫から篤い信仰を得て、多くの堂宇が造営された。嘉禎2年(1236)、九条道家が瑞夢を受けて祖父の藤原兼実の建立した最勝金剛院の地に新たな寺院の建立を発願し、延応元年(1239)に仏殿が上棟された。これが東福寺仏殿とされる。

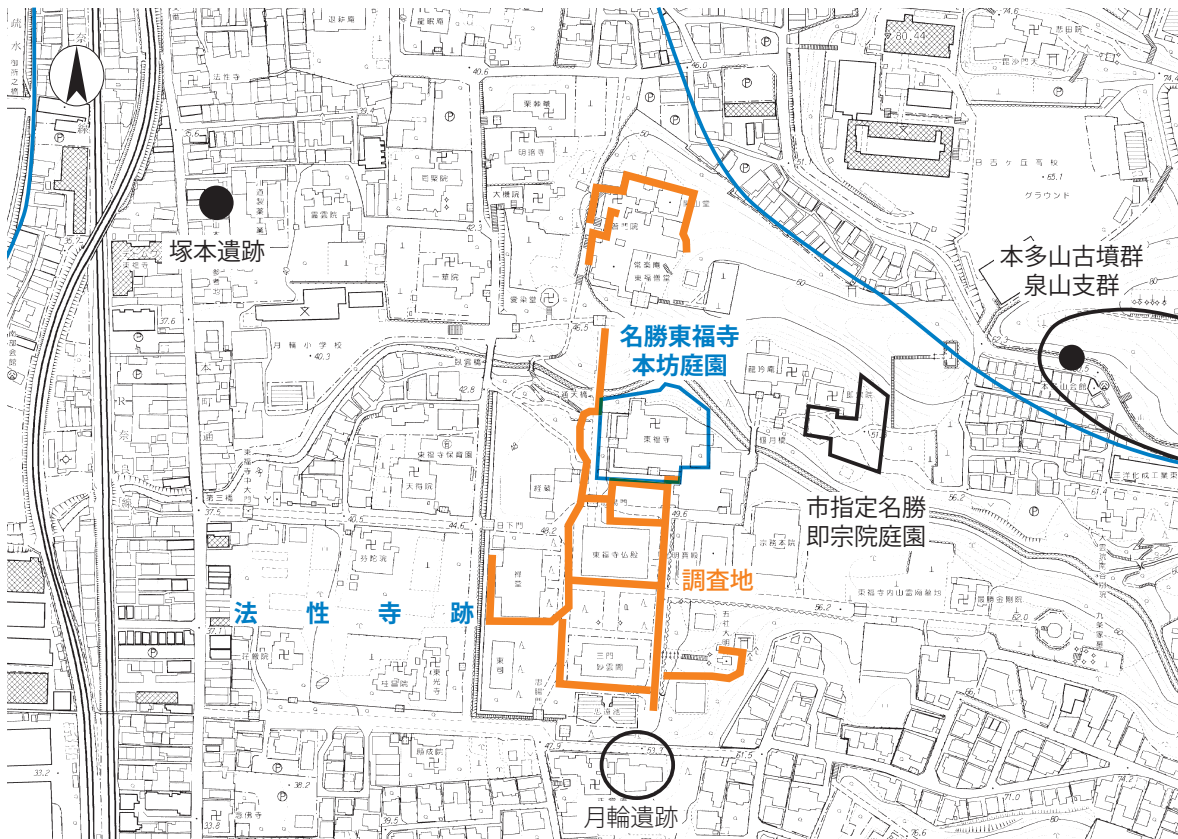


図11 調査位置図 (1:5,000)

道家死後も東福寺の整備工事が続き、伽藍がほぼ完成したのは文永 10 年（1273）頃と考えられる。しかし、完成後は火災による焼失と復興を繰り返しており、建武 3 年（1336）の火災で創建以来の諸建物は失われた可能性が高い。その後、足利尊氏の助力を受け仏殿などが再建された。また、至徳 3 年（1386）に足利義満が東福寺を五山第四位に列したことを契機として再興が進んだ。途中、寺の経済状況の悪化から一時中断したものの、室町幕府からの援助もあり応永 32 年（1425）に法堂が上棟され主要伽藍はほぼ再建された。これ以降は応仁の乱等により被害を被るものの、伽藍中心部は類焼を免れた。江戸時代には大きな火災等は無く、室町時代に再建された伽藍を維持していたが、明治 14 年（1881）の火災により東庫裏・西茶堂・法堂・仏堂が焼失した。しかし、三門・禅堂・東司・浴室などは焼失を免れ現在までその威容を伝えている。

東福寺境内では、昭和 61 年から平成 2 年にかけて防災設備の設置に伴って広範囲で調査が実施されている²⁾。この調査では、創建伽藍の楼門・鐘楼・経蔵・東西回廊の規模や位置が判明した。また、法堂については創建基壇の南縁及び東縁を確認しており、瓦積基壇を有することが明らかになった。また、再建基壇については東と西の両縁部を確認している。その規模は東西 43.3m となり、再建にあたり創建基壇を 9.3m ほど東西に拡張していたことが判明した。なお、仏殿については基壇の一部を確認したにとどまり、詳細は明らかではない。また、禅堂・浴室・東司についても詳細は不明であるが、三門が楼門と重複した位置関係にあることから、これらについてもほとんど同じ位置に再建された可能性が想定されている。

2. 層序と遺構（図 12～16、表 3・4）

本防災工事では、埋設管の敷設に伴い掘方の断面で調査を実施した。以下、主要な調査成果について報告を行う。また、それ以外の箇所については一覧表を末尾に付す。

（1）令和 3・4 年（図 12・13）

No. 28 地点：本地点は現在の本堂の基壇から北に 6.7 m の位置にあたる。南下がりの落込みを確認した。GL-0.26m で黒色泥砂層があり、それを切り込むように黄橙色砂礫層等が存在する。いずれの層からも遺物などは確認できない。本地点の東側には発掘調査区（図 14 の 87-14 トレンチ）が存在する。その調査成果を参考に、位置や土質などを踏まえると本地点で確認した黒色泥砂層は創建仏殿の基壇盛土、黄橙色砂礫等は創建仏殿の基壇裏込土である可能性が高い。

No. 41 地点：普門院と常楽庵をつなぐ廊下の礎石とその掘方を確認した。掘方は現地表面から掘り込んでおり、埋土は大きく 3 層に分層できる。礎石は一辺約 0.2 m で、にぶい黄橙色シルトの上面に据えられており、石材の下部の 3 分の 2 程度はにぶい黄橙色シルトと共に埋め込まれている。

（2）令和 5 年（図 12・13）

No. 23 地点：調査地点は本堂北東側にあたる。基本層序は現代盛土、GL-0.3m で灰黄褐色中砂（整地①）、-0.35m でにぶい黄褐色中砂（整地②）、GL-0.45m で褐色粘性細砂（整地③）、GL-0.6m で黄灰色砂泥～シルトと橙色中砂（整地④）、GL-0.7m で黄褐色粘性中砂と暗褐色粘性中砂（整地⑤）、GL-0.8m で黒褐色粘性細砂（整地⑥）、GL-0.9m で直径 3～7 cm の礫を含む灰黄褐色シルト（地山）

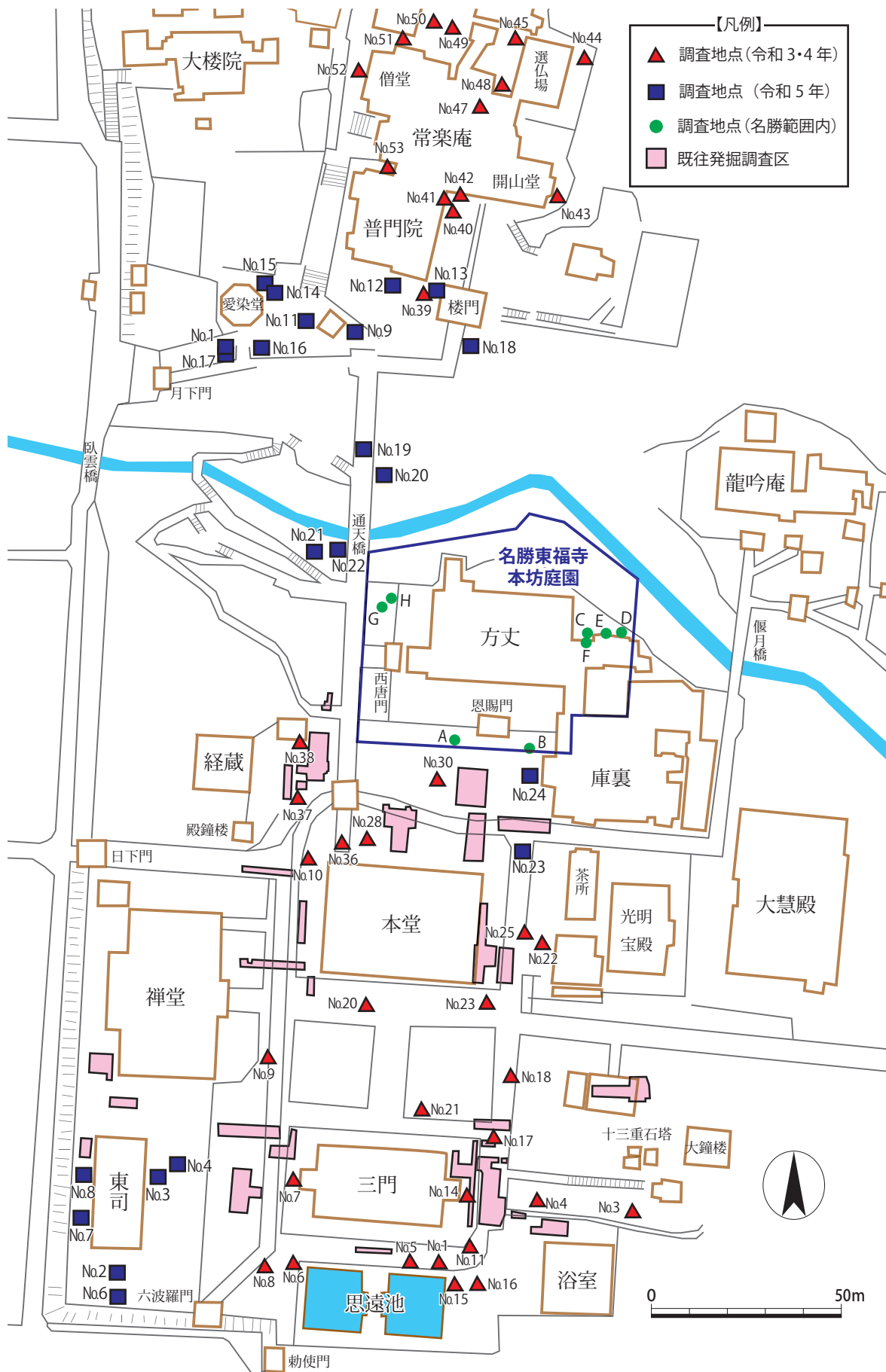
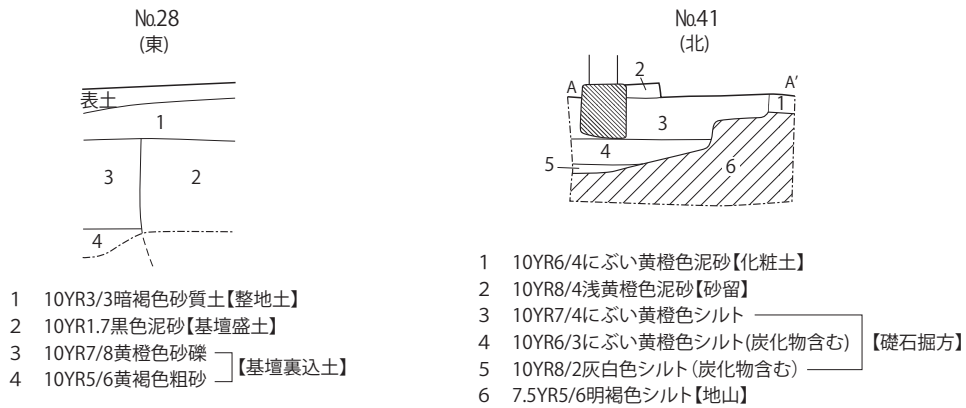


図 12 調査地点配置図 (1 : 1,500)

【令和3・4年 調査地点断面図】



【令和5年 調査地点断面図】

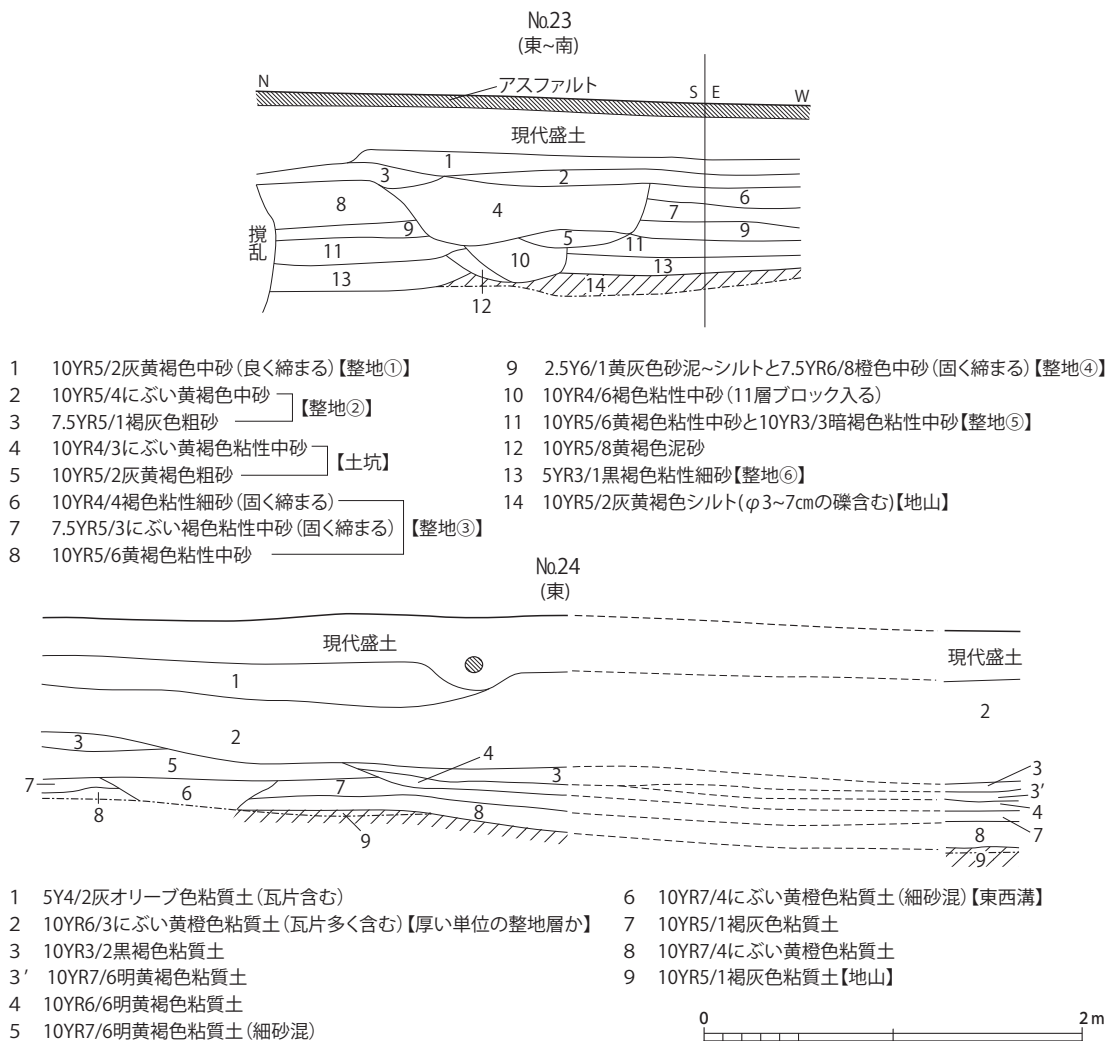


図13 令和3～5年調査地点断面図(1:40)

である。

各整地層からは遺物が出土しておらず、詳細な時期は不明である。整地③を切り込んで成立する土坑から、近世の瓦が多量に出土しており、整地①～②は、いずれも近世以降とみられる。整地③についても、近世以降と思われるが、整地④～⑥については、後述するNo.24地点での調査成

果から、中世に遡る可能性がある。

No.24 地点：庫裏西側、No.23 の北延長部である。基本層序は、現代盛土、GL-0.3m でにぶい黄橙色粘質土（整地①～③相当層）、GL-0.7m で明黄褐色粘質土（整地④相当層）、GL-0.8m で褐灰色粘質土（整地⑤相当層）、GL-0.9m でにぶい黄橙色粘質土（整地⑥相当層）、GL-1.0m で褐灰色粘質土（地山）である。

現代盛土よりも下層はいずれも整地層である。整地層①～③は近世以降の整地層であるが、それより下層は中世まで遡る可能性がある。

検出した遺構は東西溝1条である。整地⑤相当層の上面から掘られており、規模は幅約0.9m、深さ0.15m以上である。

今回、検出した東西溝は、その位置から東回廊基壇の北端にかかわる可能性が高い。ただし、東回廊南端で行った昭和61年の発掘調査では、東回廊が瓦積基壇であったことが明らかになっており、この東西溝の性格については明確にできない。

東回廊は、元応元年（1319）の火災以降再建されていない。そのため、整地⑤は創建期（鎌倉時代）の整地とみられ、整地④は火災後、室町時代の復興に伴うものである可能性が高い。

（3）令和5年 名勝範囲内（図12・14～16）

名勝東福寺本坊庭園指定地内では、4箇所調査を行い、A～Hの8地点で断面図を作成した。

A地点：方丈恩賜門の南西箇所である。基本層序は、現代盛土、黒色泥砂（GL-0.6m）、暗褐色泥砂（GL-0.7m）である。当該地の南方では昭和62年と平成元年に発掘調査を行っており、創建期と再建期の法堂基壇等を確認している³⁾。文永10年（1273）に建立された法堂は、元応元年（1319）に火災にあい焼失したが、至徳元年（1384）に再建が着手され、応永32年（1425）に上棟されている。

A地点では法堂の基壇土を確認した。GL-0.6mで確認した黒色泥砂層は、今回の他の調査地点で

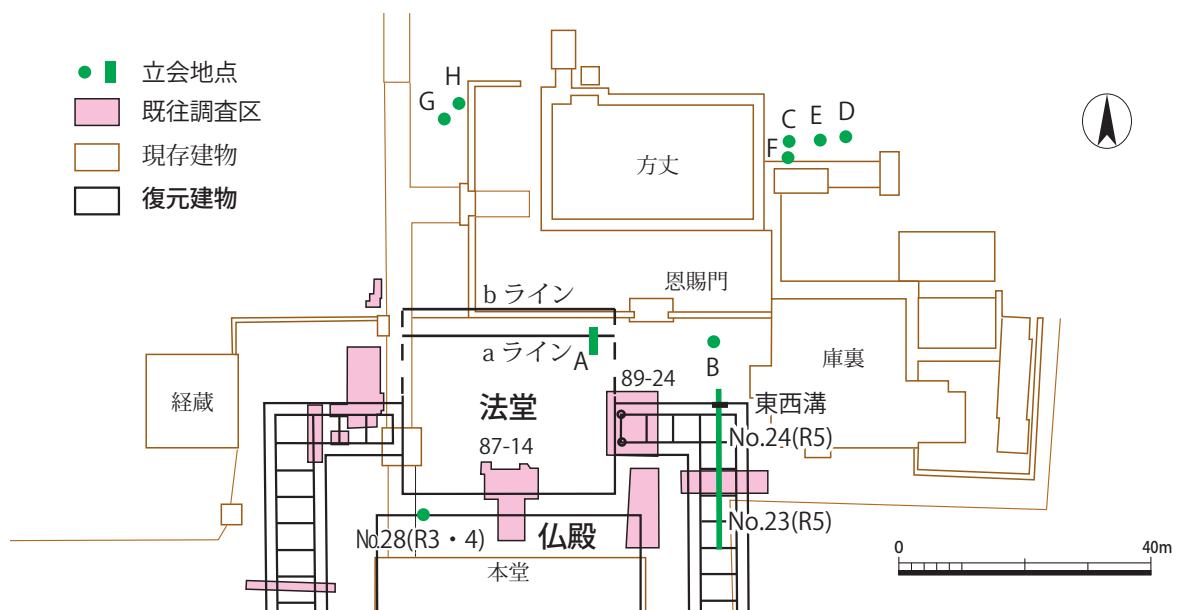


図14 名勝範囲内の調査地点及び復元図（1：1,200）

は確認できない層であり、法堂基壇土の可能性が高い。昭和 62 年の調査（図 14 の 87-14）では GL-0.7m で創建法堂基壇土の黒褐色泥土（2.5Y3/2）を確認している。また、平成元年の調査（図 14 の 89-24）では、GL-0.2m で再建法堂基壇土の黒褐色泥土（10YR2/3）を確認しており、今回検出した黒色泥砂層はいずれかの基壇土に対応するものと考えられる。

今回確認した黒色泥砂層は、A 地点の南端から北端まで約 5 m、厚さ約 0.2m で堆積する。直上が現代盛土であることから、本来はもう少し厚い基壇土だったものが、削平された可能性が高い。

B 地点：方丈恩賜門の南東箇所である。基本層序は、現代盛土、GL-0.53m で褐色砂、GL-0.7m で暗褐色泥砂と黄橙色泥砂の互層、GL-0.94m で褐色砂である。

GL-0.7m で確認した暗褐色と黄橙色の泥砂の互層は、建物基壇ではなく、整地層とみられる。

A 地点で確認した黒色泥砂はみられないため、再建法堂は B 地点まで及ばない。

C～F 地点：方丈東側の調査地点である。D・E 地点は掘削が現代盛土内におさまる。C～F 地点では、GL-0.1～-0.3m の現代盛土直下でにぶい黄橙色砂泥の整地層を確認した。整地層上面には被熱痕跡があり、明治 14 年（1881）火災の痕跡とみられる。

G・H 地点：方丈西側の調査地点である。G 地点の基本層序は、現代盛土、GL-0.7m で褐色泥砂、GL-0.9m で黄色泥砂である。褐色泥砂上面には瓦が敷かれていた。黄色泥砂は方丈周辺の造成に伴う盛土とみられる。

H 地点では、GL-0.13m で現代の瓦溜まりを検出した。棧瓦や本瓦など、様々な時期の瓦が混在して出土した。当該地は通天橋のたもとにある。通天橋は昭和 34 年の伊勢湾台風で倒壊しており、その時期に不要となった瓦を廃棄した可能性がある。



図 15 A 地点全景（北から）

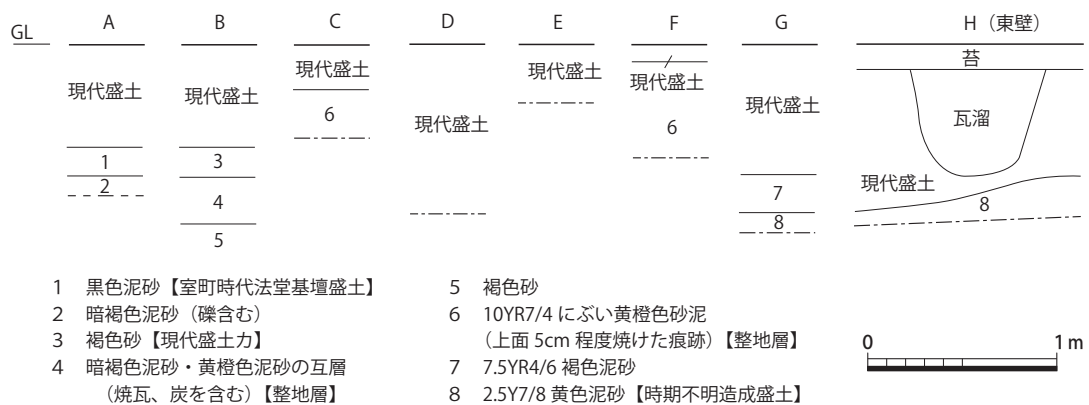


図 16 名勝範囲内の調査地点断面・柱状図（1：40）

3. 遺物 (図17)

1・2は唐草文軒平瓦である。1の瓦当文様は中心飾りに菱形と上向きの唐草を配し、中心から左右に向かって唐草が3反転する。唐草は独立し、先端を緩やかに巻き込む。下辺の圏線を欠く。瓦当に向かって左側に棧がつく。調整は瓦当周縁にタタキ痕が認められ、瓦当部凹面から平瓦部凹面にかけて横ナデ、棧部分は粘土を足した後に縦ナデを施す。顎裏面から顎凸面にかけて横ケズリ、平瓦凸面はケズリ後ナデ、顎付近のみ横ナデを施す。胎土は微量の砂粒を含み、焼成は硬質である。令和5年No.2地点の排土から出土した。前回の境内防災施設工事に伴う発掘調査で同範瓦(75)が出土している⁴⁾。生産・使用年代は14世紀頃と考えられる。

2の瓦当文様は中心飾りに半截五葉、両脇に内向する唐草を配す。唐草は二重で反転しない。調整は瓦当周縁下縁ケズリ、瓦当部凹面ケズリ、顎凸面ケズリ後横ナデ、顎裏面から平瓦部にかけて横ナデを施す。ただし、顎部後縁を面取り(ケズリ)する。平瓦部の凹面はナデるが、布目も

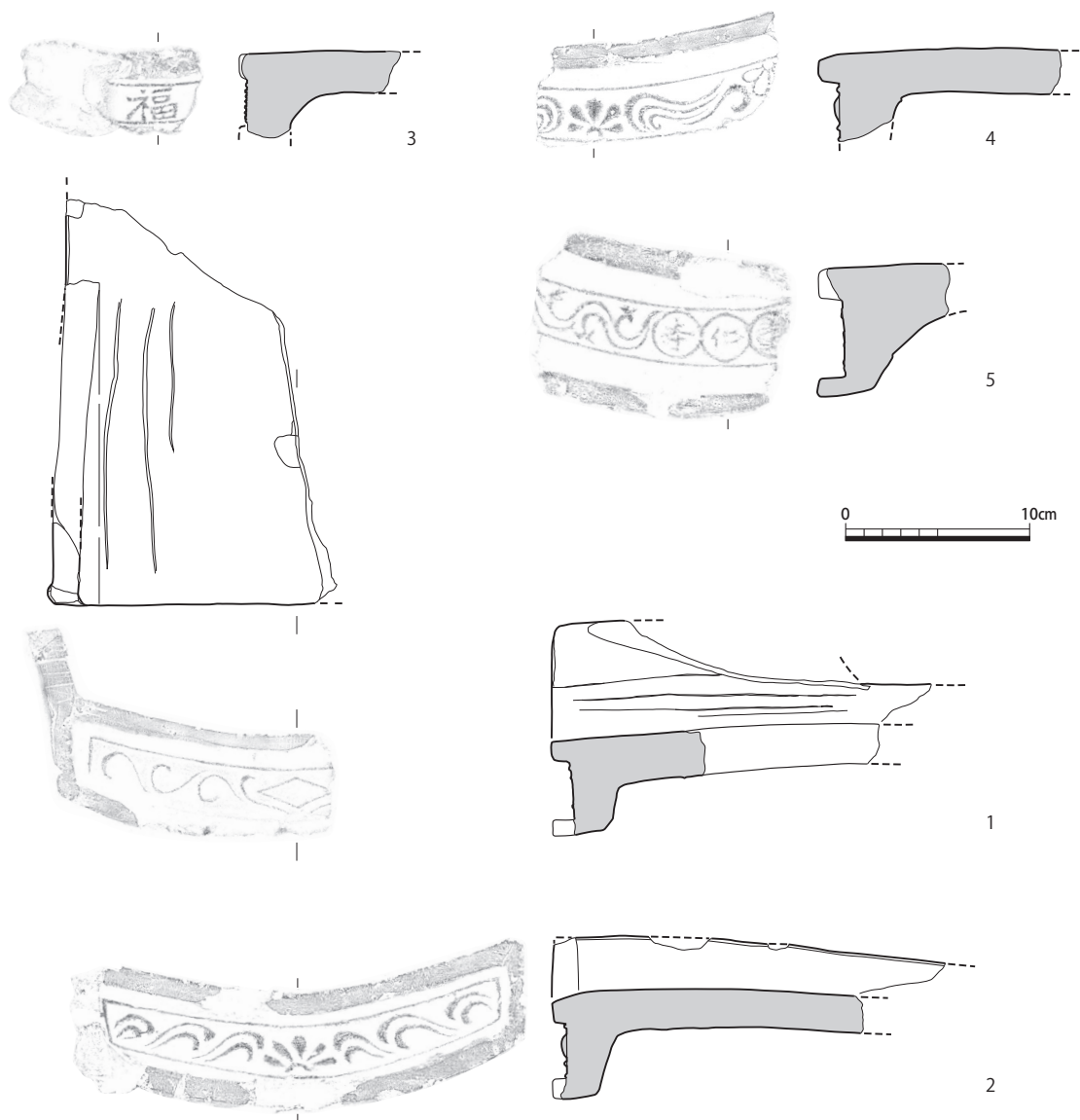


図17 出土瓦実測図及び拓影(1:4)

認められる。胎土は少量の礫を含み、焼成は硬質である。D地点盛土内から出土した。生産・使用年代は14世紀頃と考えられる。

3は「東福禅寺」銘軒平瓦である。「福」銘が残存する。調整は顎裏面から平瓦部凸面にかけてナデ、平瓦部凸面縦ケズリを施す。瓦当凹面から平瓦部凹面にかけて布目が認められる。胎土は少量の砂粒を含み、焼成は軟質である。令和5年No.6地点の排土から出土した。前回の境内防災施設工事に伴う発掘調査で同範瓦(82)が出土している⁵⁾。

4は唐草文軒平瓦である。瓦当文様は中心飾りに半截五葉、両脇に内向と外向する唐草、さらに外側に凸線で表現した半截五葉を配する。唐草は四重で最下部のみ外向する。調整は瓦当部凹面から平瓦部にかけてナデ、平瓦部凸面は横ナデを施す。また、凹面には布目、平瓦部凸面に凹型成型台圧痕が認められる。胎土は少量の礫を含み、焼成は硬質である。令和5年No.6地点の排土より出土した。前回の境内防災施設工事に伴う発掘調査で同範瓦(71)が出土している⁶⁾。生産・使用年代は14世紀頃と考えられる。

5は「建仁寺」銘唐草文軒平瓦である。瓦当文様は中心飾りの円の中に「建」・「仁」・「寺」を配する。そこから左右に向かって唐草が5反転する。唐草は独立し先端が三叉に別れる。瓦当部凹面に布目が残る。表面の摩耗が著しく調整は不明。胎土は多量の砂粒を含み、焼成は軟質である。令和5年No.2地点の排土から出土した。

4. まとめ

以上、本調査では部分的ながら東福寺の境内において広範囲で土層を確認することができ、既往の発掘調査成果で確認した遺構の延長部等を確認した。

また、A地点では法堂の基壇土を確認したことにより、昭和62年の発掘で検出した創建期の法堂基壇南端から、少なくとも約24m北に法堂の基壇が広がることが明らかになった。

九条道家が記した「惣処分状」には「法堂一字 五間四面二階、講堂是也、瓦葺…」とあり、創建法堂の桁行身舎が5間で四面に廂がつく重層建物であることがわかる⁷⁾。ただし、梁行身舎の柱間は記されておらず不明である。

再建法堂は、天保14年(1843)12月に奉行所に提出した書類である『東福寺境内坪数並諸建物絵模様書』により桁行5間、梁行3間四面廂の単層であることがわかる⁸⁾。

平成元年の調査(図14の89-24)で創建回廊の礎石が出土しており、柱間が15尺と判明していることから、これを身舎の柱間寸法とし、身舎南側柱から昭和62年に検出した基壇南端(創建期)までを約7mとした場合、梁行身舎2間であれば、図14のaライン、身舎3間であればbラインに基壇の北端が復元できる。身舎2間であれば今回の調査で基壇北端が検出されるはずであるが、基壇積土が北へ広がるため、法堂の梁行身舎は創建当初から3間であった可能性が高い。

前述したように、東福寺創建期の法堂は重層の建物である。重層建物のバランスを考えるとできるだけ梁行を広くとる必要がある。また、元弘元年(1331)の裏書のある「建長寺指図」には、法堂が二階千仏閣と記されており、重層だったと考えられる。この建長寺法堂が、梁行3間、桁

行5間の四面廂で描かれていることを参考にすると、東福寺法堂も創建期から梁行身舎3間の四面廂建物として復元するのが最も蓋然性が高く、再建時には平面形式が踏襲されたと理解できる。

ただし、今回検出した基壇積土が創建期のものなのか、再建期のものなのかが調査成果から明らかにできていないこと、再建時に法堂基壇の東西が拡張されているが南北規模はどうだったのかなど課題は残る。今後の調査に期待したい。

(家原圭太・鈴木久史・熊井亮介・佐藤 拓)

註

- 1) 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課『京都市内遺跡詳細分布調査報告書』令和4年度、2023年。
- 2) 大本山東福寺『東福寺防災施設工事・発掘調査報告書』1990年。
- 3～6) 註2と同じ
- 7) 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課『京都の五山寺院—その歴史と系譜—』京都市文化財ブックス第23集、2009年。
- 8) 『東福寺境内坪数並諸建物絵模様書』では再建法堂の梁行が11間3尺と記されている。現山門の柱間から1間を6尺5寸と仮定すると再建法堂の梁行は74.5尺となる。

表3 令和3・4年調査成果一覧表

地点	調査所見
1	GL-0.32 ~ -0.8 mで黄褐色粗砂混じりシルトブロックと褐灰色シルトブロックの混合層。
3	GL-0.29 mで褐色細砂~シルト、-0.53 mで褐灰色シルト、-0.66 ~ -0.84 mで黄褐色シルト。
4	GL-0.54 ~ -0.77 mで褐色細砂~シルト。
5	GL-0.25 mでにぶい黄橙色シルト、-0.5 mで黄橙色粘質土、-0.7 ~ -0.8 mで灰白色粘土。
6	GL-0.7 ~ -0.9 mで黄橙色粗砂。
7	GL-0.2 mで褐灰色砂泥の整地層、-0.25 mで黄褐色砂泥の整地層、-0.3 mでにぶい黄色粘質土の整地層、-0.37 mで暗灰黄色細砂の整地層、-0.39 mでにぶい黄色微砂の整地層、-0.42 ~ -0.46 mで褐色粘土。
8	GL-0.45 ~ -1.05 mで橙色砂礫の地山。
9	GL-0.47 mで明黄褐色シルト、-0.54 mで黄褐色泥砂、-0.73 ~ -0.88 mで黒褐色泥砂。
10	GL-0.17 mで灰黄褐色粘質土の整地層、-0.3 mで明黄褐色砂質土の整地層、-0.39 mで明黄褐色砂質土の整地層、-0.54 mでにぶい黄色砂質土の整地層、-0.63 ~ -0.81 mで明黄褐色砂質土の整地層。
11	GL-0.92 ~ -0.96 mで橙色粘質土の地山。
14	GL-0.27 mでにぶい黄橙色砂質土、-0.33 mで明黄褐色細砂、-0.41 mでにぶい黄褐色粗砂、-0.47 mで黒色粗砂、-0.55 mで灰白色粘土の地山、-0.98 ~ -1.27 mでにぶい黄橙色粗砂の地山。
15	GL-0.52 mで明黄褐色シルト、-0.95 mで灰白色粘土、-1.11 ~ -1.58 mで黒色粘土。
16	GL-0.22 mで明黄褐色泥砂、-0.4 ~ -0.7 mで灰白色粘土。
17	GL-0.25 mで灰褐色砂混じりシルト、-0.3 mで黄灰色粗砂混じりシルトの整地層、-0.5 mで黄褐色礫混じり粘土質シルトを切って黄褐色粘質シルトの時期不明土坑(瓦)、-0.95 ~ -1.45 mでにぶい黄褐色粗砂混じり粘土の地山を切ってにぶい黄褐色粘質シルトの時期不明土坑。
18	GL-0.3 mで明黄褐色シルト、-0.45 mで灰褐色泥砂の時期不明整地層を切ってにぶい黄橙色泥砂の土坑、-0.62 ~ -1.04 mでにぶい黄橙色シルトの地山を切って淡黄色砂泥の時期不明落込み。
20	GL-0.12 mで灰白色微砂(固く締まる)、-0.19 mで明黄褐色泥土(小礫混)の時期不明造成土、-0.44 mで淡黄色砂質土(礫混、固く締まる)、-0.5 ~ -0.96 mで黒褐色泥土。
21	GL-0.36 mで明黄褐色シルト(瓦片含む)、-0.48 ~ -0.58 mで明黄褐色シルト。
22	GL-1.1 ~ -1.3 mで灰白色粗砂の地山。
23	GL-0.86 mでにぶい赤褐色泥砂、-0.96 ~ -1.0 mで灰白色シルトの地山。
25	GL-1.03 ~ -1.75 mで明黄褐色シルトの地山。
30	GL-0.41 mで黒細砂混じりシルトの中世包含層、-0.8 mで黒褐色粗砂混じりシルトの整地層、-1.0 ~ -1.5 mで褐色細砂混じり粘土質シルトの地山。
36	GL-0.58 ~ -0.63 mで褐色粗砂混じりシルト。
37	GL-0.44 mで黒褐色粘質土、-0.74 mで明黄褐色泥砂、-0.92 ~ -1.09 mで黒褐色粘質土。
38	GL-0.26 mで褐灰色泥砂、-0.46 mで黒褐色砂泥(礫混)、-0.66 mでにぶい黄色シルト、-0.81 ~ -0.95 mでオリブ褐色シルト。
39	GL-0.15 ~ -0.4 mで橙色シルトの時期不明造成土。
40	GL-0.1 mで灰白色シルトを帯状に含む明赤褐色シルト、-0.35 ~ -0.45 mで橙色シルトの時期不明造成土。
42	GL-0.14 mで橙色シルトの造成土、-0.14 ~ -0.54 mで黄色砂礫混じりシルトの地山。
43	GL-0.24 mで明赤褐色砂泥、-0.28 mで黒褐色泥砂、-0.34 ~ -0.55 mで明黄褐色シルトの地山。

地点	調査所見
44	GL-0 mで黒褐色シルトの整地土、-0.34 ~ -1.36 mで黄色シルトの地山。
45	GL-0.1 ~ -0.49 mで赤褐色シルト（近世瓦含む）。
47	GL-0.14 mで明褐色シルト、-0.76 ~ -0.9 mで黄橙色粘土（固く締まる）の地山。
48	GL ± 0 mで赤褐色中砂、-0.26 ~ -0.48 mで暗赤褐色粘性細砂。
49	GL-0.09 ~ -0.24 mで明黄褐色粘性細砂。
50	GL-0.39 ~ -0.54 mで明黄褐色シルト。
51	GL-0.18 ~ -0.55 mで黄橙色シルトの地山を切って黒色砂泥（炭化物混）の時期不明土坑。
52	GL ± 0 ~ -0.25 mで明黄褐色泥砂（炭化物含む）。
53	GL-0.02 mで褐色シルト、-0.08 mで明褐色シルトの整地層、-0.5 ~ -0.56 mまでにぶい黄橙色細～粗砂。

表4 令和5年調査成果一覧表

地点	調査所見
1	GL-0.56 mでにぶい黄橙色砂礫、-0.96 ~ -1.53 mで黄色粘土の地山。
2	GL-0.55 mでにぶい黄褐色泥砂、-0.63 mで明黄褐色中粒砂、-0.68 mで黄褐色泥砂、-0.93 mで浅黄色微砂、-1.11 ~ -1.38 mで明黄褐色粘質含む泥砂の地山。
3	GL-0.45 mでにぶい黄褐色泥砂の時期不明整地層、-0.63 mで黄褐色泥砂の時期不明盛土。
4	GL-0.3 mでにぶい黄褐色泥砂の時期不明整地層、-0.59 mで黄褐色泥砂の近世？盛土。
6	GL-0.18 mでにぶい黄褐色中砂、-0.41 mで明黄褐色シルト、-0.52 ~ -0.64 mで黄褐色砂泥の地山か。
7	GL-0.22 mで暗灰黄色砂泥の時期不明包含層、-0.34 ~ -0.47 mで明黄褐色泥砂の時期不明包含層。
8	GL-0.25 mで明黄褐色泥砂の時期不明包含層、-0.35 ~ -0.56 mで灰黄褐色砂泥の近世～近代の瓦廃棄土坑。
9	GL-0.95 mで黄褐色粗砂混じりシルト、-1.05 mで黄褐色細砂混じりシルトの地山。
11	GL-0.21 mで褐色泥砂、-0.24 mで黄色粘土の地山、-0.47 ~ -0.64 mで灰白色粘土。
12	GL-0.15 ~ -0.45 mで黄褐色シルトブロックと褐色粗砂ブロックの混合層の時期不明造成土。表層、固く締まる。周辺に礎石、遣り水、池等の石組みあり。
13	GL-0.07 mで黄橙色粘質土（鉄分含む）、-0.32 mで明黄褐色細砂、-0.45 ~ -0.62 mで浅黄橙色粘土の地山。
14	GL-0.43 ~ -0.53 mで明黄褐色砂礫。
15	GL-0.45 ~ -0.55 mで灰白色シルトブロックと黄灰色シルトブロックの混合層。
16	GL-0.25 mで明褐色泥砂、-0.44 ~ -0.61 mで灰オリーブ色細砂。
17	GL-0.17 mで明褐色泥砂～粘質土、-0.3 mで灰オリーブ色泥砂、-0.41 mでにぶい褐色細砂、-0.46 ~ -0.57 mで褐灰色細砂。
18	GL-0.13 ~ -0.33 mで黄橙色シルト。
19	GL-1.08 mで橙色礫混じり砂泥。-1.31 ~ -1.54 mで明赤褐色礫混じり粘質土（固く締まる）の地山。
20	GL-0.85 ~ -0.86 mで橙色礫混じり砂質土。
21	GL-0.42 mで明黄褐色シルト質細砂、-0.67 mで炭化物を多量に含む褐色砂泥の整地層、-0.81 ~ -0.89 mで黄褐色シルト礫混じり。
22	GL-0.6 mで黄橙色シルト（礫混）の整地層を掘り込んで、暗灰黄色砂泥の通天橋土台掘方、-0.75 mで固く締まる褐灰色砂泥（礫混）の整地層、-0.78 mでにぶい黄褐色砂泥の整地層、-0.85 mでにぶい橙色砂礫（シルト混）の地山、-0.9 ~ -1.15 mで黄橙色シルト（礫混）。

Ⅲ - 2 西飯食町遺跡 (22S379)

1. 調査の経緯 (図18)

調査地は、伏見区深草飯食町他である。名神高速道路と師団街道の交差点の南側に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地「西飯食町遺跡」の東縁部にあたる。今回、ここで交差点改良工事が計画されたことから詳細分布調査を実施した。調査期間は令和4年10月20日～令和5年1月20日で、合計6地点で調査を行った。その結果、No.1・2地点において石組み溝を確認した。

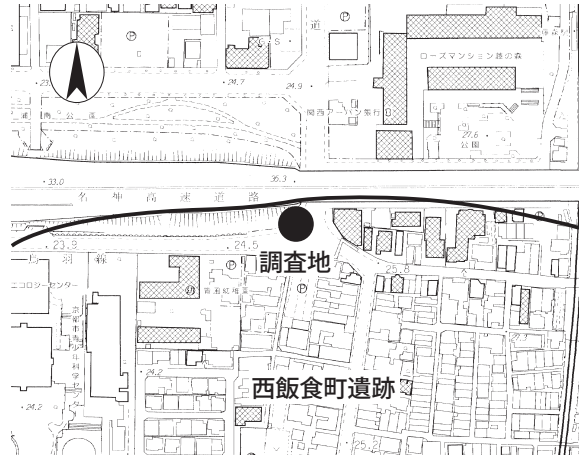


図18 調査位置図 (1 : 5,000)

西飯食町遺跡は、水道工事に際して遺物が出土したことで認知された遺跡である¹⁾。しかし、調査件数が少なく全容は未だに明らかではない。本調査地付近では、少年科学センター内で発掘調査が実施され、土師器生産に関わる遺構等が確認されている²⁾。また、大日本帝国陸軍野砲兵第22連隊の施設・兵舎に伴うと考えられる基礎跡なども確認されている。

本調査地付近は深草と呼ばれる地域にあたり、古くは『日本書紀』欽明天皇即位前紀などでその地名が確認できる。深草丘陵西斜面ではこれまでに多くの古墳が確認されているが、平安時代以降も葬送地として認識されており、陵墓や寺院などが建立されている。中世には、農村的な風景の中にこれらの陵墓・寺院などが点在していた様相が想定できる。

しかし、伏見城の造営が始まると周辺域である深草付近でも土地の利用が活発となる。深草村の南部には武家屋敷や町家、北部には京町通や本町通などの通りに面して町家などが立ち並び、それ以外の場所には田畑が広がっていたものと考えられる。近代には、明治27年の鴨川運河の完成を始めとして、同31年の歩兵38連隊や第19旅団司令部などの設置、同41年の第16師団司令部の設置、同43年の京阪電車(至天満橋)の開通など、矢継ぎ早に開発が進み、それに伴い新興商業地として発展する。深草の地域史上、この近代以降の開発は看過できない重要な要素である。

2. 層序と遺構 (図20・21)

No.1及び2地点は、現状は歩道である。層序は遺存状況の良好な2区北壁を参考にとすると、アスファルト及び現代盛土の下、GL-0.57mで旧耕作土の暗灰色シルト、GL-0.67mで近世～近代の遺物を含む流路堆積と考えられる粗砂・シルト等がある。以下は、南壁ではGL-1.05mで地山の褐色灰色粘土となる。確認した石組み溝は暗灰色シルトの直下、流路堆積層を切り込んで成立する。

No.1地点 GL-1.0mで石組み溝を確認した。蓋と側壁、底部に石材を用いる。蓋石には、幅0.24

～0.28m、厚さ0.3～0.4m、長さ1.85～2.1mの四角柱形の石材を用いており、5石確認できる。側壁には、面が一辺0.3m、控えの長さが0.45mの四角錐形のいわゆる間知石を用いており、両壁とも3段に積む。裏込めはにぶい黄橙色砂礫である。底部は、地山上面に6cmほどの厚さで黒色粗砂を入れ、その上ににぶい黄色泥砂とともに厚さ10cm程の石材を敷く。なお、掘方は東肩口のみ確認しており、その規模は幅2.05m以上、深さ0.75mである。

溝内部には敷石上部に厚さ0.25mほど埋土があり、それ以上は空洞である。埋土にはラミナ堆積や鉄分の沈着が認められる。

No.2地点 GL-0.1mでNo.1地点で検出した石組み溝の延長部を確認した。しかし、確認できたのは石組み溝の西半部のみで、



図19 調査地点配置図 (1:800)

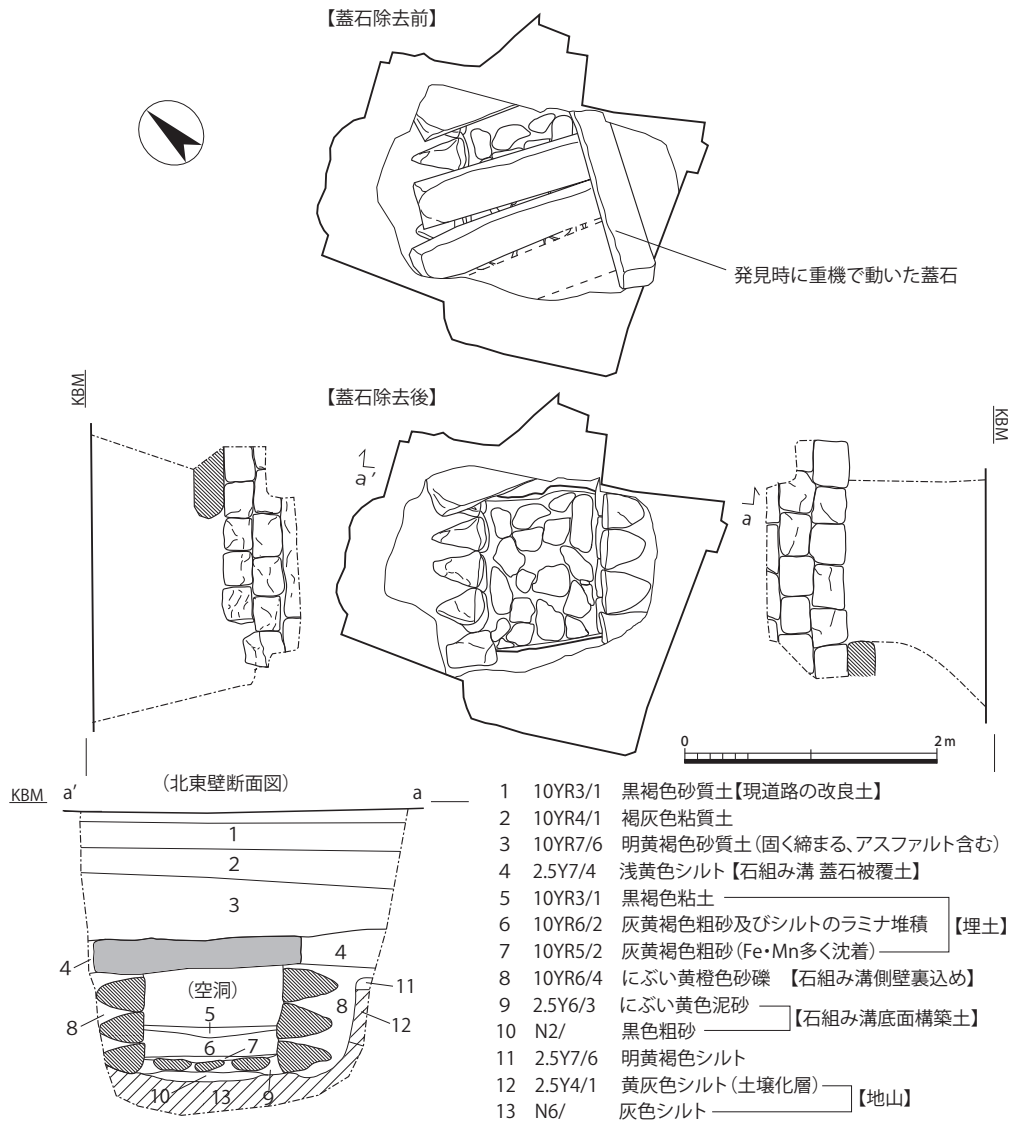


図20 No.1地点平面・立面・断面図 (1:60)

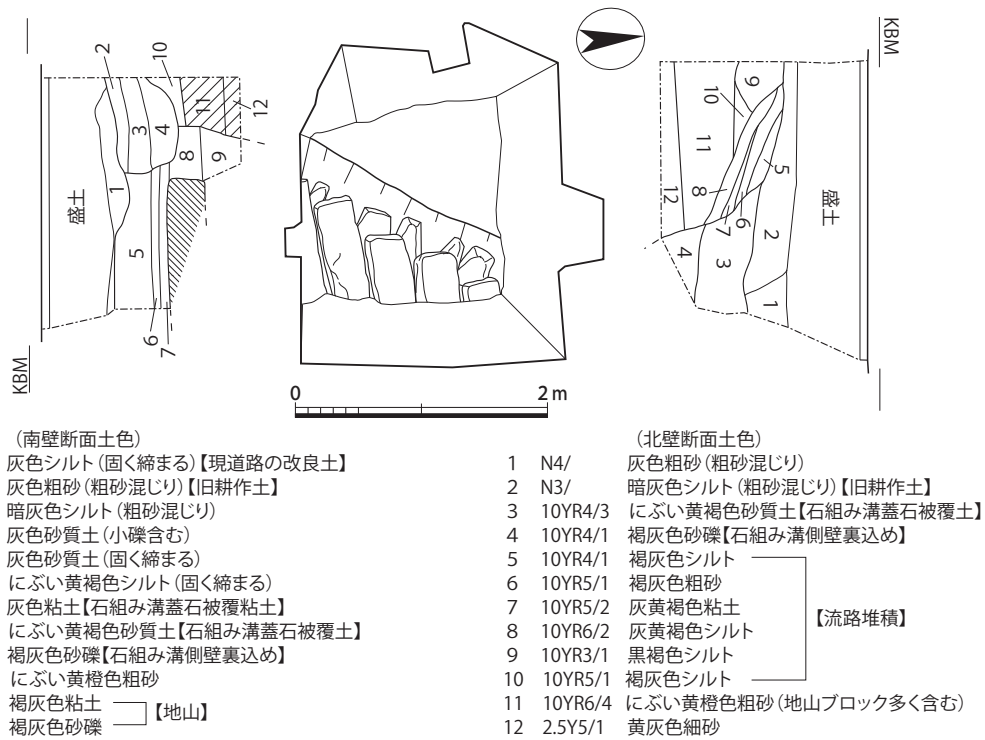


図 21 No.2 地点平面・断面図 (1:60)

東半部については掘削工事の範囲外へと続く。蓋石は5石分確認できる。工事の施工範囲に若干の変更が生じたことから、本地点で確認した石組み溝については検出にのみ留めた。

3. まとめ

本調査では、No.1・2 地点で同一と考えられる石組み溝を確認した。南西から北東方向に11 m以上続くものと考えられる。この石組み溝の裏込め等からは、小片のため図化出来ないものの近世～近代の陶磁器片が少量出土した。

深草の地域史の概要については先に触れたが、これを踏まえるとこの石組み溝について、①疏水からの取水路、②第16師団の練兵場に伴う排水溝の可能性を想定できる。現状では、位置関係や明治から大正時代にかけての都市計画図の表現等から、②の可能性が高いものと考えたい。

(熊井亮介)

註

- 1) 小川敏夫「西飯喰町遺跡概報」『古代学研究』第15・16号、1956年。
- 2) 上村憲章「17 西飯喰町遺跡」『京都市埋蔵文化財調査概要』平成12年度、2003年。

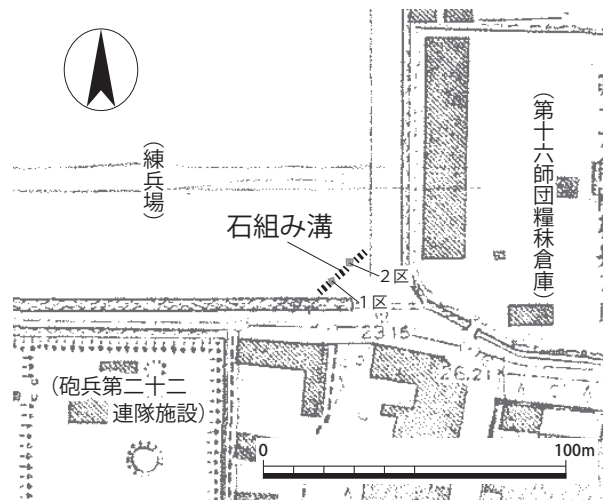


図 22 石組み溝の推定ライン図 (1:2,500)

Ⅲ - 3 外畑城跡、外畑遺跡（22S435）

1. 調査の経緯（図23）

本件は、西京区大原野外畑町 154 他 13 筆において、京都市森林組合が間伐に必要な作業林道を布設する工事に伴う調査である。工事対象地に所在する外畑城跡は、外畑町の中央を東西に走る京都府道・大阪府道 733 号「柚原向日線」の南側にある二つの舌状丘陵上に立地している。外畑城跡に関する同時代史料は存在せず、「外畑」という地名自体、慶長 3 年（1598）11 月 16 日付けの「作職永代売渡書」（『善峯寺文書』）に認められるのが初めてとされる¹⁾。同文書は、外畑村の孫左衛門が売主となり、善峯寺の成就坊へ土地用益権である「作職」を売却した文書である。

同城については、明治時代前期作成の「乙訓郡村誌」（『京都府地誌』所収）に「外畑壘墟」として蒲生某が拠点としたという伝承が記されている²⁾。また、『善峯寺文書』所収の享保 17 年（1732）1 月付け畑喜平左筆「天文年中より享保十七年迄御地頭記処」³⁾によると、足利義昭（将軍在位 1568～1588）から天文 18 年（1549）に江州蒲生氏の一族の畑左馬助秀順が外畑村を賜り、元龜 3 年（1572）まで支配したこと、畑左馬助の次男畑喜藤太秀勝が、天正 3 年（1575）に長岡藤孝（細川藤孝）から知行を許されたが、天正 10 年に惟任光秀（明智光秀）に与して没落したことなどが記されている。義昭は天文年間に将軍在任をしておらず、信憑性に欠ける部分もあるが、蒲生氏の一族を自認する畑氏が築城したという伝承に関わる史料である。当城については、過去に 3 度の踏査⁴⁾が行われている。

今回、令和 4 年 12 月 9 日、21 日、令和 5 年 12 月 7 日に調査した結果、西城の豎堀断面を確認するとともに、東西両城の間にある舌状丘陵上で堀切を、また、東城の東側にある丘陵の頂部と西裾部で新たな遺跡を発見したため、報告を行う。なお、調査に際して、京都市産業観光局林業振興課が本市山間部で実施した航空レーザー測量の成果である赤色立体図を活用した。

2. 遺 構

調査は、No.1 地点～No.8 地点で行った（図 23）。以下に各地点ごとの調査成果を述べる。

No.1 地点（図 23～27） 東西両城の間にある舌状丘陵の尾根上で新たに発見した 1 条の堀切である。標高 444 m～450 m の場所に、細尾根を切断した幅 7.5 m、高低差約 2 m を測る堀切がある。堀切の南北両端部は土塁状に整形されている。この丘陵上には堀切で守るべき郭などの人工的な整形は認められず、東西両城の連絡通路を守るための防御施設であろうか。

No.4 地点（図 23～26） 西城主郭の北側斜面で林道造成した部分であり、厚さ 15 cm の表土の下層は淡橙色の岩盤である。城に伴う遺構は存在しない。

No.5 地点（図 23～26） 西城主郭から郭 2 に伸びる豎堀の一部を作業林道により削平した場所で、当該計画で直接遺構に抵触する地点である。豎堀は両側の土塁状の高まりの最高点同士の幅

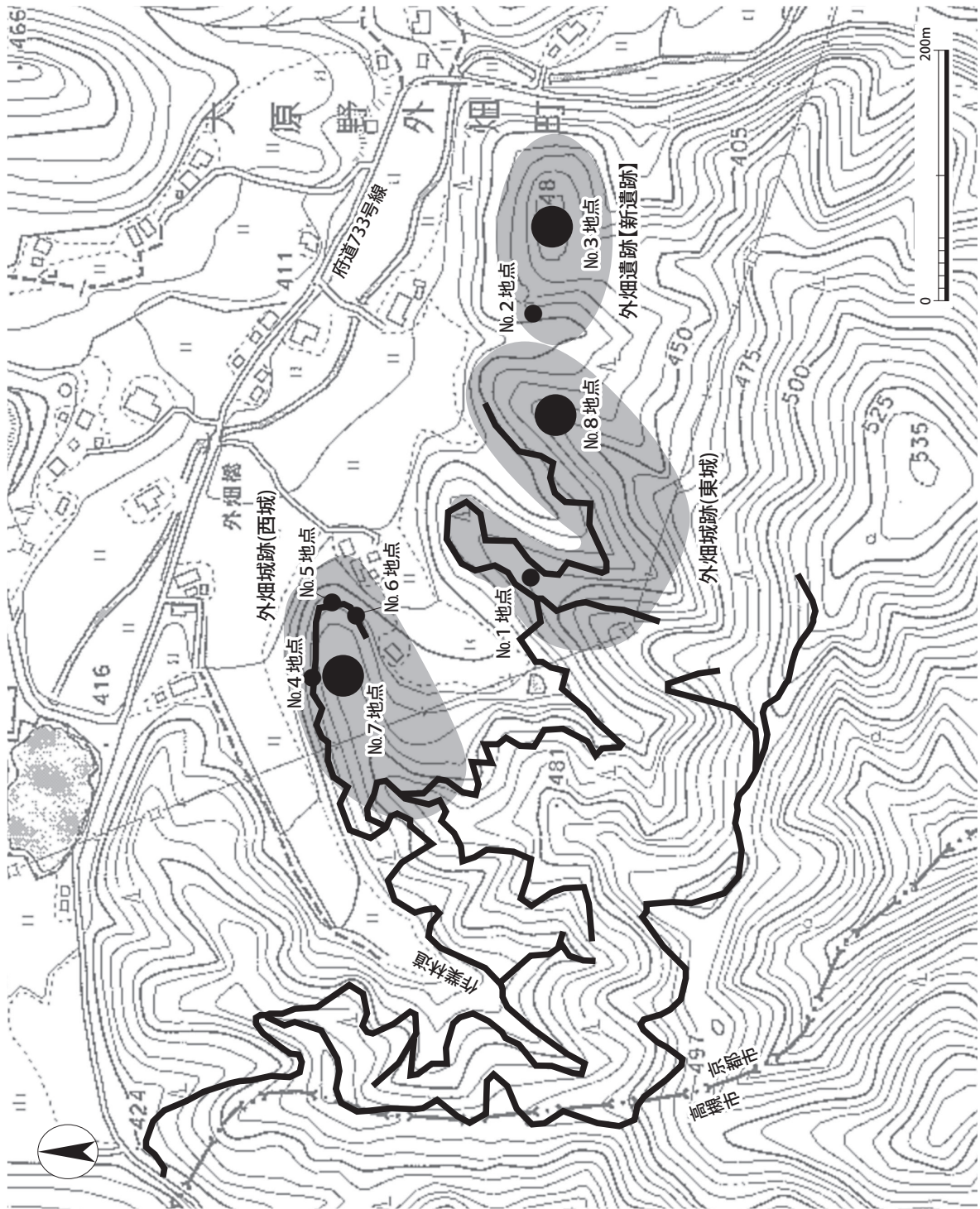


図 23 調査位置図 (1 : 5,000)

が約 4 m、凹部との比高が 1.2 m 以上ある。

No.6 地点 (図 23 ~ 26) 西城主郭の南東斜面で林道造成した部分であり、厚さ 15 cm の表土の下層は淡橙色の岩盤である。城に伴う遺構は存在しない。

No.7 地点 (図 23 ~ 25・29) 西側から伸びる舌状丘陵の標高 446 m 付近に東西 28 m、南北 15 m の主郭があり、主郭の西端に尾根を切断する堀切と土塁が存在する。主郭の廻りには帯郭が巡り、主郭南東隅に虎口状の落ち込みがある。主郭東端から幅 4 ~ 5 m、長さ約 40 m の縦堀が北

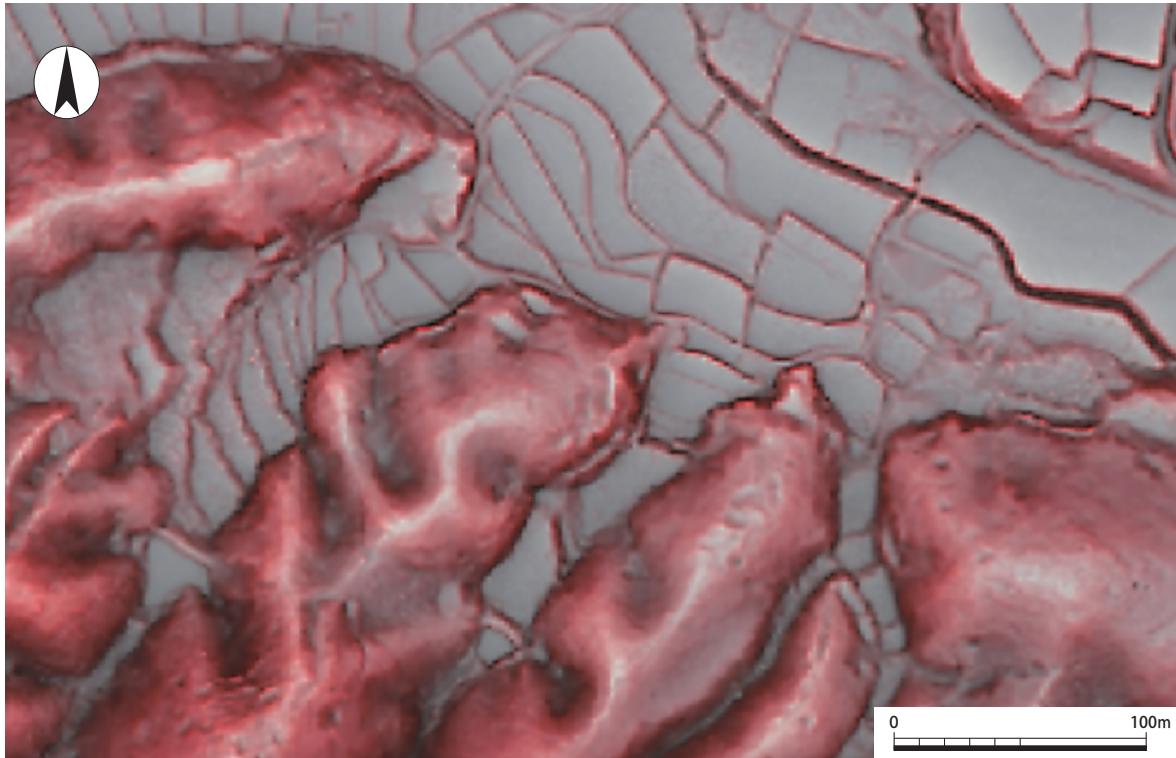


图 24 外畑城周辺赤色立体図 (1 : 3,000)

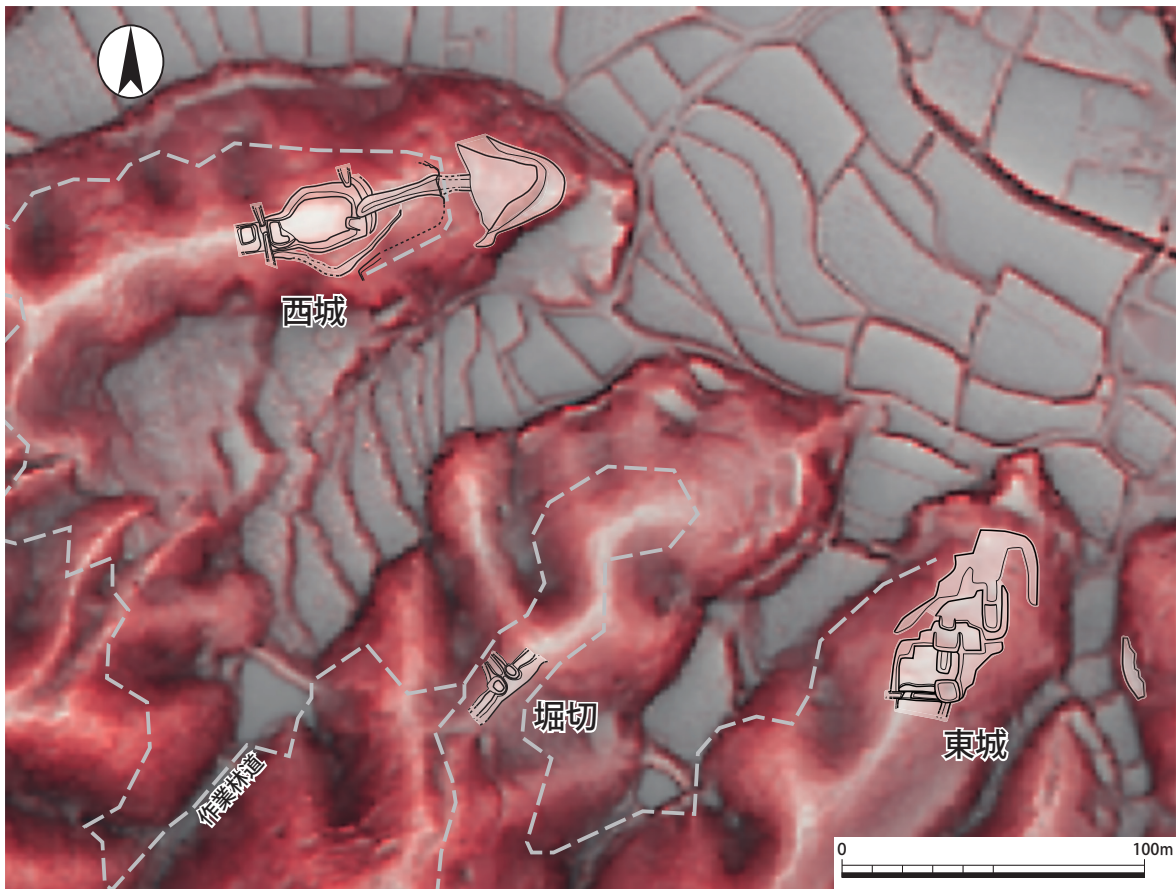


图 25 遺構分布図【外畑城跡部分】(1 : 2,500)

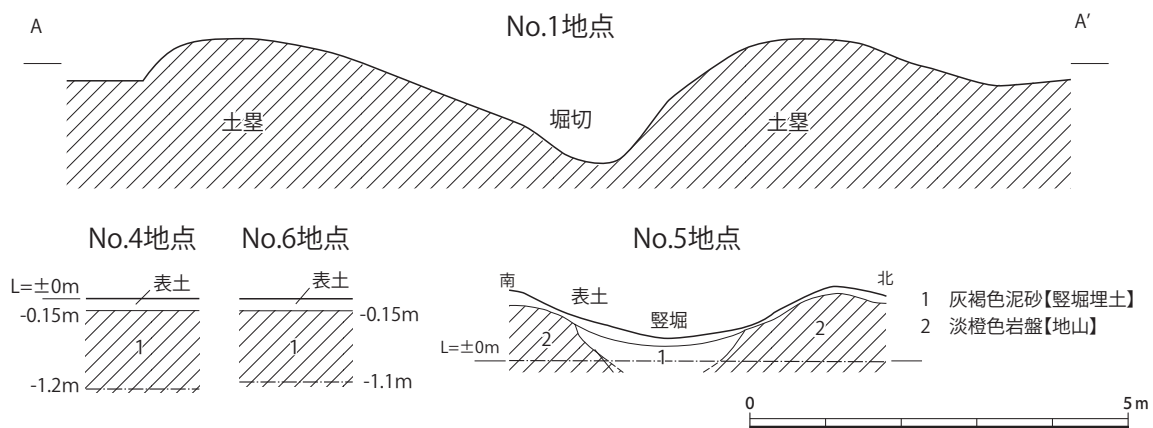


图 26 No.1 地点堀切部分断面图、No.4・6 地点柱状图、No.5 地点豎堀部分断面图 (1 : 100)

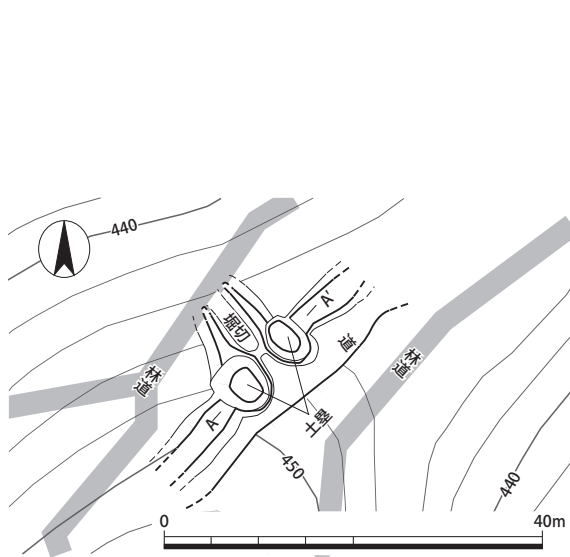


图 27 No.1 地点堀切遺構 (1 : 800)

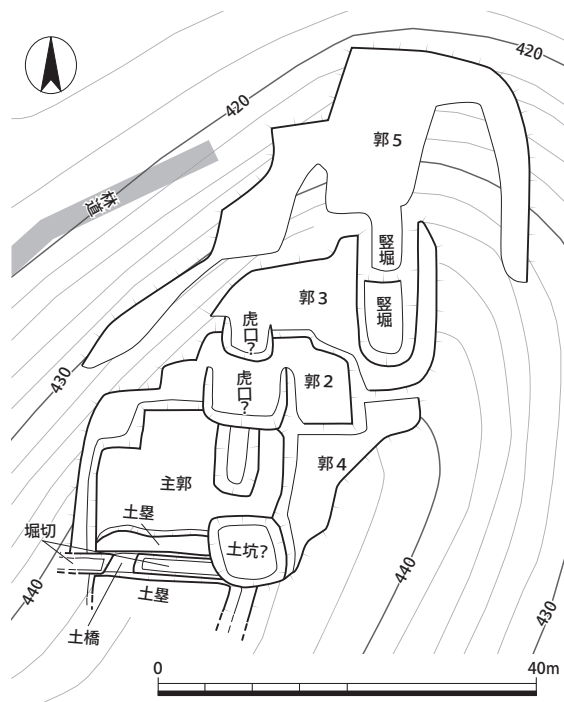


图 28 No.8 地点東城遺構 (1 : 800)

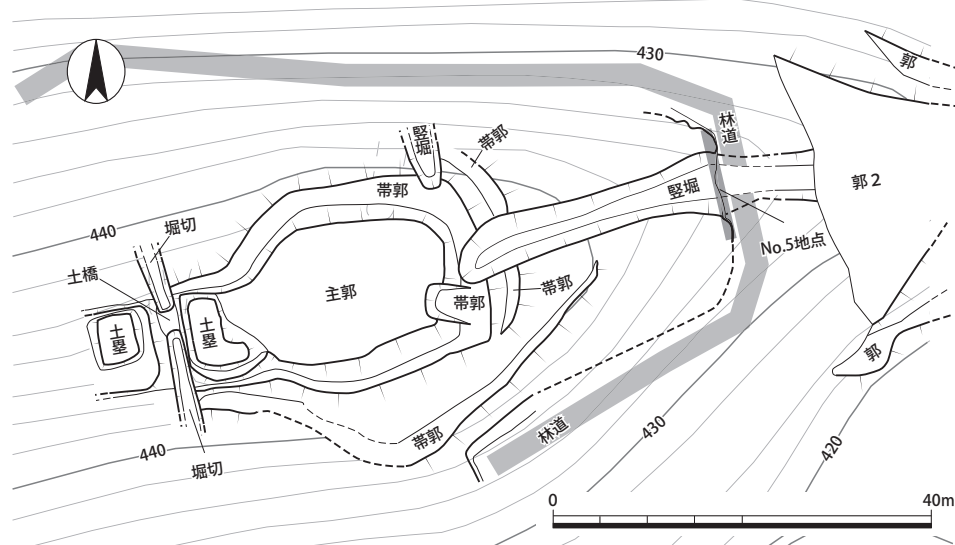


图 29 No.7 地点西城遺構 (1 : 800)

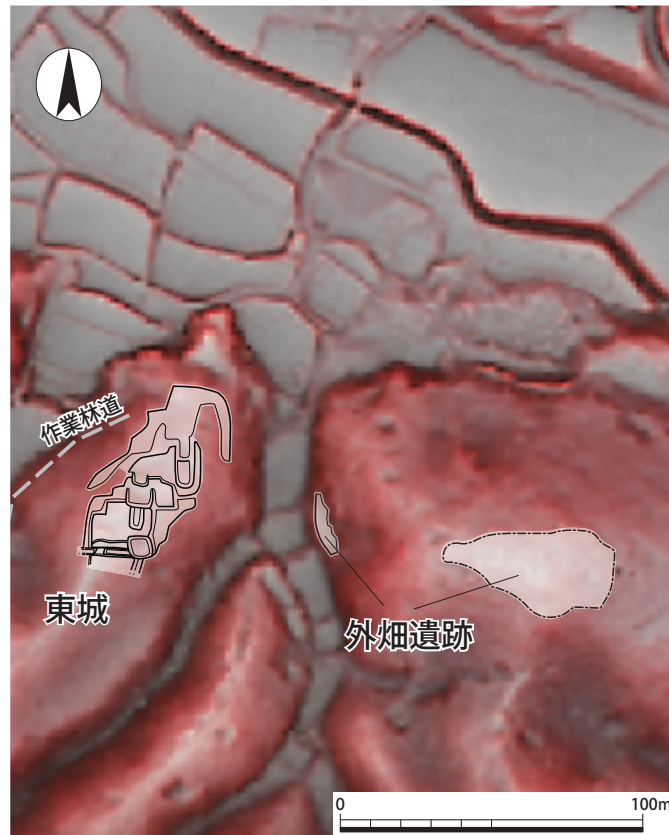


図30 遺構分布図【外畑遺跡部分】(1:2,500)



図31 No.2 地点石積土壇(東から)



図32 No.3 地点石列遺構(東から)

陵西端の郭2に達している。主郭北東側にも豎堀を有している。

No.8 地点(図23～25・28) 南側から伸びる舌状丘陵の標高444m付近に東西20m、南北16mの主郭がある。主郭から北東方向へ雛壇状に郭が展開する。主郭南端部に堀切1条と土塁が存在する。主郭北東角と郭2中央に虎口状の落ち込みがあり、郭3東端に郭5へ通ずる延長約17m、幅6mの豎堀が存在する。

No.2 地点(図23・24・30・31) 東城とは小谷を挟んだ東側の丘陵裾部に、南北約22m、東西約6mの平坦地を確認した。平坦地内部は小規模な段差が複数ある。特に径40～60cm程度の石を並べた遺構があり、祠などが存在した可能性がある。

No.3 地点（図 23・24・30・32） 東側丘陵の頂部に広がる遺構群である。なかでも丘陵中央付近で、方形土壇の端部に長辺 40～50 cm程度の石材を並べた遺構を検出した。矢穴のある石材が土壇隅角部で使用され、土壇の周囲に近世の瓦片が散在している。土壇は小規模であるが、瓦を用いた施設の存在が想定される。複数の巨石が露頭しており、岩蔵信仰の場所かもしれない。

3. まとめ

京都府道・大阪府道 733 号「柚原向日線」は、かつて丹波道と呼ばれた街道である。乙訓地域は山城跡が非常に少ない地域であり、現在のところ、沓掛城跡、山崎城跡とこの外畑城跡が知られるだけである。これに乙訓郡の西岡衆が拠点とした葛野郡南西端の峰ヶ堂城跡を加えても 4 箇所に限られる⁵⁾。沓掛城跡は京都と亀岡盆地を結ぶ老ノ坂、山崎城跡は西国街道、峰ヶ堂城跡は唐櫃越という交通の要衝にそれぞれ立地している。外畑城跡も京都盆地とは西山丘陵を隔てた西側にあるものの、山城国と丹波国の境目に存在し、丹波道を俯瞰できる配置になっている。

今回、産業観光局林業振興課の作成した赤色立体地図を間伐用作業林道造成に伴う詳細分布調査に活用することで、外畑城跡の詳細な縄張図の作成（No.1・7・8 地点）や新遺跡（No.1～3 地点）の発見という成果を得ることができた。京都は西、北、東の三方を丘陵で囲まれており、埋蔵文化財の保護と開発との円滑な調整に有効な手法として、今後も活用していきたい。

なお、新遺跡は令和 6 年 4 月 1 日に「外畑遺跡」として京都市遺跡地図・台帳に登載する。

（馬瀬智光）

註

- 1) 「外畑村」『史料京都の歴史』第 15 卷（西京区）（京都市、1994 年）掲載の文書 1。
- 2) 註 1 文献掲載の文書 6。
- 3) 註 1 文献掲載の文書 3。
- 4) 3 回の踏査の成果は、下記のとおり。

踏査 1：山下正男『京都市内およびその近辺の中世城郭—復原図と関連資料—』（『京都大学人文科学研究所調査報告』第 35 号）、京都大学人文科学研究所、1986 年。

踏査 2：『京都市遺跡地図台帳』、京都市文化市民局、1996 年。

踏査 3：中居和志「外畑城跡」『京都府中世城館跡調査報告書』第 3 冊（山城編 1）、京都府教育委員会、2014 年。

- 5) 馬瀬智光「京都府南部の中世城館について」『乙訓文化遺産』27 号、乙訓の文化遺産を守る会、2023 年。

IV 調査一覧表

I 2023年 1～3月期(令和4年度)

平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
兵庫寮跡	上・一条通七本松西入東町45-1	2/20・21	GL-0.35mまで盛土。	22K552	HQ 452	1
大蔵省跡	上・西中筋町地先	22/12/27～ 23/6/13	巡回時掘削終了。	22K411	HQ 393	1
大蔵省跡	上・仁和寺街道七本松東入一番町 99-11の一部	3/20	GL-0.35mまで盛土。	22K544	HQ 488	1
大蔵省跡、 聚楽第跡	上・東西俵屋町647-4～148-16 地先	1/30～3/20	GL-0.52mで黄橙色砂礫の地山。	22K368	HQ 428	1
大蔵省跡、 聚楽第跡	上・浄福寺通中立売下る菱丸町170	2/6・9・20	GL-0.75mまで盛土。	22K412	HQ 441	1
大蔵省跡	上・浄福寺通一条下る東西俵屋町 667-1、667-2地先	3/24	巡回時掘削終了。	22K642	HQ 497	1
大宿直跡、 聚楽第跡	上・裏門通中立売下る高台院壱町 209-5	1/17	GL-0.4mまで盛土。	22K361	HQ 412	1
右近衛府跡	上・御前通下立売上る3丁目東入 三助町281-2地先	1/23	巡回時掘削終了。	22K506	HQ 422	1
宴松原跡、 鳳瑞遺跡	上・下長者町通七本松西入鳳瑞町 255-5の一部	1/6	GL-0.54mで浅黄橙色砂礫の地山。	22K373	HQ 396	1
宴松原跡、 鳳瑞遺跡	上・下長者町通七本松西入鳳瑞町 255-5の一部	1/10	GL-0.7mまで盛土。	22K374	HQ 400	1
掃部寮跡	上・七本松通下長者町上る二番町～ 六軒町通下長者町上る四番町地先	22/12/19～ 23/1/30	GL-0.6～-0.8mで黒褐色泥砂。	22K488	HQ 378	1
内蔵寮跡	上・福島町地先	2/13～15・ 21・28	巡回時掘削終了。	22K557	HQ 448	1
左近衛府跡、 聚楽第跡	上・下長者町通日暮西入西辰巳町 108の一部	3/28	GL-0.6mまで盛土。	22K597	HQ 503	1
職御曹司跡、 聚楽第跡	上・白銀町246-6～251-13地先	3/17	GL-0.7mまで盛土。	22K617	HQ 486	1
内裏跡、聚楽遺跡	上・下立売通千本東入田中町458～ 457地先	3/8・9	GL-1.05mまで盛土。	22K610	HQ 476	1
内膳司跡	上・出水通千本東入西神明町地先	3/28	巡回時掘削終了。	22K648	HQ 502	1
左兵衛府跡	上・下立売通大宮西入浮田町 609-9の一部	1/16	GL-0.3mまで盛土。	22K477	HQ 409	1
左兵衛府跡	上・下立売通大宮西入浮田町 609-9の一部	1/17	GL-0.43mまで盛土。	22K465	HQ 408	1
東雅院跡、 二条城北遺跡	上・榎木町通大宮西入中書町679-1	2/24	GL-0.7mまで盛土。	22K546	HQ 457	1
右馬寮跡	中・西ノ京右馬寮町8-95	3/6	GL-0.65mまで盛土。	22K581	HQ 467	1
右馬寮跡	中・西ノ京右馬寮町11-16(1号地)	3/23	GL-0.7mまで盛土。	22K541	HQ 494	1
右馬寮跡	中・西ノ京右馬寮町11-1(2号地)	3/23・24	GL-0.5～-0.64mで暗赤褐色粘質土。	22K542	HQ 495	1
治部省跡	中・西ノ京内畑町11-22地先	2/9	巡回時掘削終了。	22K467	HQ 446	1
治部省跡	中・西ノ京右馬寮町3地先	3/8・9	GL-0.65～-1.0mで灰白色砂礫の地山。	22K585	HQ 477	1
民部省跡、 聚楽遺跡	上・竹屋町通千本東入主税町911	1/10・13・ 17・18	GL-0.65mまで盛土。	22K429	HQ 399	1
判事跡、右京三条 一坊八・九・ 十町跡、壬生遺跡	中・西ノ京内畑町～西ノ京永本町 地内	22/12/6～ 23/6/15	№12；GL-0.35m黒褐色泥砂の平安の二条大路 北側溝？(丸瓦)、-0.6mで黄橙色シルトの 地山、-1.05mで浅黄橙色シルト質細砂、-1.45～ -1.65mで浅黄橙色砂礫。№18；GL-0.4～-1.2mで 明黄褐色シルトの地山。	22K312	HQ 357	1・9

平安京左京(HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊六町跡	上・東堀川通中立売下の一丁目13-1	3/14～22	平安後期～鎌倉の遺構群を検出。 本報告6ページ 。	22H507	HL 481	2
北辺三坊四町跡、 内膳町遺跡	上・一条通室町西入東日野殿町395・396(市立上京中学校)	1/27・30・31	GL-0.55mまで盛土。	22H416	HL 425	3
北辺三坊五町跡、 内膳町遺跡	上・室町通一条下る薬屋町424、425、429	22/9/22～ 23/3/8	GL-0.26mでにぶい赤褐色粘土質シルトの近代焼土、-0.36mで褐色粗砂混シルトの近世包含層、-0.49mで暗褐色粗砂混シルトの近世焼土層、-0.62mで褐色礫混シルトの近世整地層、-0.69～-1.0mで黒褐色礫混シルトの近世包含層。	22H080	HL 254	3
北辺三坊八町跡、 公家町遺跡	上・京都御苑3	3/1～3	GL-0.11～-0.34mで黒褐色中砂(焼土含)の江戸包含層(唐草文軒平瓦)。	22H462	HL 462	3・17
北辺四坊七町、 一条四坊十六町、 二条三坊十六町跡、 公家町遺跡、 烏丸丸太町遺跡	上・京都御苑3	1/17～2/27	No.1 ; -0.3～-0.35mで灰黄褐色粘質土の江戸後期包含層(土師器皿)。No.3 ; GL-0.2mで褐色砂泥の時期不明包含層(土師器皿)。No.6 ; GL-0.12～-0.25mでにぶい黄褐色砂泥の時期不明路面整地層。	22H419	HL 411	3
一条二坊十一町跡	上・東堀川通出水下る四町目191-2、192-3、191-8	1/10・11・ 12・16	GL-0.6mで灰オリーブ色泥砂、-1.06mで灰色泥砂、-1.48mでにぶい黄褐色砂泥、-1.9m～-2.3mでにぶい黄褐色砂泥礫混。	22H345	HL 403	2
一条二坊十四町跡	上・出水通油小路東入丁子風呂町87、88	3/13	GL-0.18～-0.41mでにぶい赤褐色砂泥。	22H532	HL 480	2
一条四坊十町跡、 公家町遺跡、 京都新城跡	上・京都御苑2の一部	3/2、7/6・ 12、8/21・ 22・23・ 24・25・ 28・29・ 31、9/20	No.1 ; GL-0.1mで明褐色粘性泥砂の近代整地層、-0.17mで暗褐色中砂(焼土含)、-0.48mで黄褐色泥砂の近世整地層を切って礎石、-0.6～-0.8mで灰黄褐色粗砂の氾濫堆積。No.3 ; GL-0.13mで暗褐色粗砂混シルト(焼土含)、-0.29mで黒褐色砂礫混シルトの近世包含層(土師器皿)、-0.59～-0.76mで黒褐色砂礫。No.5 ; GL-0.11mでにぶい黄褐色泥砂の近世整地層を切って明褐色泥砂(焼土、炭、焼瓦含)の近世以降落込、-0.72mで灰黄褐色粗砂の江戸整地層(花崗岩の延石)、-0.92～-1.02mでにぶい黄色砂礫。No.6 ; GL-0.1mで赤褐色砂質土の火災層、-0.2mで明黄褐色シルトの時期不明整地層、-0.22mで橙色砂泥(焼土、炭化物多量含)、-0.3～-0.6mでにぶい黄褐色砂礫の時期不明整地層を切って石組溝(幅0.36m、深さ0.2m、南北方向)。No.15 ; GL-0.2mでにぶい黄褐色砂泥(粗砂混)、-0.4mで暗褐色砂礫を切って灰黄褐色粗砂の時期不明土坑(幅0.38m、高さ0.16mの石含)、-0.65～-0.75mでにぶい黄褐色粗砂～細砂礫。	20H631	HL 464	3
一条四坊十五・ 十六町跡、公家町 遺跡、京都新城跡	上・京都御苑2の一部	2/8・9	GL-0.6mで黒褐色礫混砂質土を切って暗褐色泥砂の近世土坑(土師器)、-0.72mで黄褐色粘質土、-0.8mで明黄褐色砂質土の時期不明炭層(土師器)、-0.92～-1.1mで浅黄色中粒砂。	22H561	HL 445	3
二条三坊十六町跡、 公家町遺跡、 烏丸丸太町遺跡、 旧二条城跡	上・京都御苑3	2/3・6・7・ 9	GL-0.35mで明黄褐色砂泥の近世整地層、-0.55～-0.8mで明黄褐色砂泥礫混の近世整地層。	22H284	HL 438	3
二条四坊七町跡、 烏丸丸太町遺跡、 京都新城跡	中・坂本町687	22/12/21～ 23/2/3	GL-1.18mで黄褐色シルトの地山、-1.44～-2.0mで黄褐色砂礫。	22H071	HL 383	3
二条四坊七町跡、 烏丸丸太町遺跡、 京都新城跡	中・高倉通竹屋町上る坂本町693、693-1の一部、693-4、693-6の一部	1/10	GL-1.07mで褐灰色粘質土の近世包含層、-1.37～-1.39mで灰黄褐色粘質土の室町包含層。	22H311	HL 401	3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
三条二坊三町跡	中・大宮通御池下る三坊大宮町118	2/14・15・16・20	№1；GL-0.53mで黒褐色粗砂混粘土質シルトの近世前期包含層、-0.99mで暗オリーブ色細砂～粗砂混シルトの平安末期整地層、-1.17～-1.43mで黄褐色砂礫の地山を切って灰色微砂混シルトの湿地状落込。№3；GL-0.4mで黒褐色粗砂混シルトの近世包含層、-0.59mで暗オリーブ褐色粗砂混シルトの近世包含層、-0.71mで黒褐色粗砂混シルト（ウグイス層ブロック含）の時期不明包含層、-0.91mで黒褐色粗砂混シルト、-0.93～-1.63mで黄褐色砂礫の地山を切って黒褐色粗砂混シルト（礫少量混）の土坑3基。№4；GL-0.99mでオリーブ褐色砂礫の近世前半整地層を切って黒褐色泥砂の近世土坑、-1.2mで黄褐色中粒砂の中世の整地層、-1.32mで黄褐色砂礫の地山、-1.44～-1.6mで明黄褐色砂礫。	22H421	HL 449	2
三条二坊九・十六町跡、妙顕寺城跡、堀川御池遺跡	中・油小路通押小路上る二条油小路町272	3/29・30、4/7・10・11・12	№3；GL-0.78mでオリーブ褐色礫混粘土質シルト、-1.07mで灰オリーブ色細砂混粘土質シルト、-1.19mでにぶい暗灰色粗砂混シルト、-1.33～-1.97mで灰色微砂混シルトの地山。№4；GL-0.68mで褐色礫混シルトの近世包含層（土師器）、-0.93mで黄灰色粗砂混シルトの近世包含層（土師器）、-1.11mで暗灰黄色礫混シルトの中世包含層（土師器）、-1.72mでオリーブ褐色礫混シルト、-1.93～-2.02mで黄灰色細砂混粘土質シルト。№5；GL-0.5mで灰黄褐色シルトの近世堆積層を切って暗褐色シルトの近世土坑2基、-0.9mで黄褐色細砂混シルトの地山、-1.1～-2.1mで褐色灰色砂礫。	22H537	HL 501	2
三条二坊十町跡、堀川御池遺跡	中・油小路通御池押小路町238-1	22/11/7、23/6/13	GL-0.5mまで盛土。	22H263	HL 316	2
三条二坊十五町跡、妙顕寺城跡	中・御池通西洞院西入石橋町438-5 他1筆	22/12/1～23/1/10	GL-0.51mで灰黄褐色砂泥、-0.69～-0.89mでにぶい黄色泥砂。	22H237	HL 351	2
三条三坊一・二・七・八・九・十町跡、烏丸御池遺跡、妙覚寺城跡、二条殿御池城跡	中・二条通～御池通、西洞院通～烏丸通 地内	22/11/7～23/12/28	№29；GL-0.65mで灰オリーブ色砂泥の時期不明包含層（土師器）、-0.85mで黄灰色砂泥の時期不明包含層（土師器）、-1.1～-1.3mで灰黄色泥土。№44；GL-0.6mで黄灰色泥砂、-0.75～-0.85mで暗灰黄色泥砂の近世包含層（染付、磁器）。	22H238	HL 314	3
三条三坊六町跡、烏丸御池遺跡	中・新町通御池下る神明町67-1、70-3	2/2・3・15	GL-1.4mで暗灰色礫混砂質土、-1.54mでにぶい黄褐色礫混砂質土の近世包含層、-1.8～-2.9mでにぶい黄色礫混粗砂の地山を切って褐色粘質土の時期不明土坑。	22H332	HL 433	3
四条一坊五町跡	中・壬生坊城町48-6、21-2、87	1/18・20・24	GL-0.55mまで盛土。	21H694	HL 415	4
四条三坊六町跡、烏丸綾小路遺跡	中・錦小路通室町西入天神山町290	3/6・7・8・10・14	№2；GL-1.25mでオリーブ黄色砂泥の平安後期整地層を切って灰黄褐色泥砂の土坑、-1.4～-1.82mで明黄褐色シルトの地山。№3；GL-0.76mで浅黄褐色泥砂の時期不明包含層、-0.98mでにぶい黄褐色砂泥の時期不明包含層、-1.3mで灰黄褐色砂泥の平安末期～鎌倉包含層（土師器、瓦器）を切って室町土坑（土師器）、-1.46mで浅黄色シルトの平安整地層（土師器、黒色土器）を切って灰オリーブ色砂泥の平安～室町ピット2基（土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦器）、-2.03～-2.22mで明黄褐色シルトの地山。	22H439	HL 469	5
四条三坊十五町跡、烏丸御池遺跡	中・六角通烏丸東入堂之前町245-1	1/19	GL-2.58～3.52mで明黄褐色粘質土の地山。	21H727	HL 418	5
五条一坊十一・十二・十三町、六条一坊十三町跡	下・中堂寺櫛笥町他 地内	22/9/8～23/3/10	GL-1.35mまで盛土。	21H653	HL 234	4
五条二坊七町跡	下・岩上通綾小路下る雁金町406	3/6～14	GL-2.02～-2.24mで黒褐色砂礫の地山。	22H493	HL 470	4

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
五条二坊十一町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・油小路通仏光寺下る太子山町 602-1他	2/16～9/19	GL-0.57～-0.93mで黒褐色砂泥の近世包含層。	22H425	HL 450	4
五条三坊四町跡、 烏丸綾小路遺跡、 だいうすの城跡	下・松原通西洞院東入藪下町25-1	22/5/13～ 23/3/8	GL-1.17mで暗灰黄色泥砂、-1.71mで黄褐色粘質土の室町整地層（土師器皿）、-1.99～-2.02mで灰黄色細砂の地山。	21H693	HL 048	5
五条四坊十五町跡、 寺町旧域	下・寺町通綾小路下る中之町585-1、 585-2、574-3	2/7、6/13	GL-1.1mまで盛土。	22H091	HL 443	5
七条一坊十四町跡、 東市跡	下・大宮通七条上る御器屋町30	3/6・7・10	GL-0.35mまで盛土。	22H250	HL 471	6
七条二坊十五町跡	下・花屋町通西洞院西入山川町313-1、 315、315-1、西洞院通花屋町下る 西洞院町476-1、476-3	1/5	GL-1.26mで灰黄褐色泥砂礫混の中世包含層、 -1.46～-1.68mで灰白色砂礫の地山。	22H420	HL 394	6
七条三坊十三町跡、 東本願寺前古墓群	下・常葉町754地先	1/26	GL-1.0mまで盛土。	22H468	HL 424	7
七条四坊十三町跡	下・三ノ宮町通七条上る下三之宮町 286-1	3/6	GL-2.0mまで盛土。	22H543	HL 472	7
七条四坊十六町跡	下・東高瀬川筋上ノ口上る岩滝町 174他6筆	2/6・8・9	GL-0.34mでにぶい黄褐色礫混砂質土、-0.42mで 明黄褐色礫混砂質土、-0.47～-0.54mで暗褐色砂 質土。	22H545	HL 439	7
八条四坊二町跡、 御土居跡、 塩小路若山城跡	下・東塩小路町～東塩小路向畑町 地先	3/22・23・ 24・27	GL-0.8mまで盛土。	22H514	HL 491	7
八条四坊十六町跡	下・上之町他地内	1/27	GL-0.43mで灰黄褐色泥砂、-0.6mでにぶい黄褐 色砂礫、-1.19～-1.54mで浅黄色粗砂。	22H434	HL 426	7
九条一坊十三・ 十四町跡、史跡 教王護国寺境内、 教王護国寺境内 （東寺旧境内）	南・九条町1	22/6/29～ 23/2/2	No.2；GL-0.56mでオリーブ褐色泥砂の江戸中期 以降盛土、-0.62mで黄褐色泥砂の中世整地層、 -0.71mで黄褐色砂泥の中世整地層。No.4；GL-0.5m で灰オリーブ色砂泥の近世中～後期盛土、-0.78m で浅黄色粗砂礫混の中世整地層。No.12；GL-0.7m で灰黄褐色粗砂の時期不明包含層。	4N008	HL 127	6
九条四坊十四・ 十五・十六町跡	南・東九条東岩本町～東九条南岩本町 地先	1/10・13、 2/17	GL-0.7mまで盛土。	22H388	HL 398	7

平安京右京(HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
一条二坊十三町跡	中・西ノ京西門町21	3/17・20・ 22	GL-0.35mで黒褐色粗砂混シルト、-0.56mで黒褐 色粗砂～シルト、-0.72～-1.85mで黄褐色細砂混 粘土質シルトの地山。	22H499	HR 487	9
三条二坊八町、 西ノ京遺跡	中・西ノ京原町28-2	2/22	GL-0.6mまで盛土。	22H512	HR 454	9
四条一坊九町跡、 壬生遺跡	中・壬生神明町1-4	3/6	GL-1.05～-1.37mで黒褐色泥砂の時期不明整地 層。	22H277	HR 468	11
四条一坊十六町跡	中・壬生中川町6-1	2/1	GL-1.14～-1.16mで褐灰色粘質土の中世包含層。	22H357	HR 432	11
四条四坊六町跡、 山ノ内遺跡	右・山ノ内山ノ下町9、10の各一部	3/10	GL-0.36mまで盛土。	22H480	HR 478	10
五条一坊六町跡	中・壬生松原町54-68、54-69	1/11・13	GL-0.32mで灰黄色泥砂の旧耕作土、-0.42～-0.49m で浅黄色砂礫の地山。	22H444	HR 404	11
五条一坊十三町跡	中・壬生下溝町38-7	2/24～3/14	GL-0.45mでオリーブ褐色泥砂（炭化物含）、 -0.49mでにぶい黄褐色シルトの旧耕作土、-0.69～ -1.22mで橙色シルトの地山。	22H522	HR 456	11
五条三坊十三町跡	右・西院清水町26-2	3/22	GL-1.8mまで盛土。	22H456	HR 489	10
五条四坊二町跡、 西京極遺跡	右・西院日照町27-1の一部、27-2	3/31、4/3・ 5	GL-2.35mまで盛土。	22H525	HR 504	10
五条四坊四町跡、 西京極遺跡	右・西院清水町地内	2/6・13	GL-1.1～-2.0mで褐灰色微砂混シルトの湿地状 堆積。	22H519	HR 440	10

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
六条二坊十二・十三町、七条二坊九・十六町跡	右・西院東中水町1の一部、西院中水町21の一部、21-1の一部、22-1の一部、下・西七条掛越町55の一部	3/1・2	GL-1.08mまで盛土。	22H459	HR 463	11・13
六条四坊九町跡、西京極遺跡	右・西院月双町51、52	1/18・19・23	GL-1.0mで旧耕作土、-1.21~-1.36mで明黄褐色シルトの地山。	22H380	HR 416	10
六条四坊十町跡	右・西院月双町103	2/28	GL-0.8mまで盛土。	22H528	HR 461	10
七条二坊二町跡、衣田町遺跡	下・西七条東石ヶ坪町59-1の一部	3/15・16	GL-0.35mでにぶい黄褐色細砂混シルト、-0.45~-0.8mで褐色粗砂混粘土質シルトの地山。	22H540	HR 484	13
八条四坊七町跡	右・西京極畑田町53-1の一部	2/1・16	GL-0.8~-0.88mでにぶい黄褐色粘質土の地山。	22H479	HR 431	12
九条一坊七町跡	南・唐橋井園町48-2、48-3の各一部	1/19	GL-0.25mで褐灰色粘質土、-0.38mで灰黄褐色粘質土の湿地状堆積、-0.72mでにぶい黄褐色粘質シルト（細砂混）の湿地状堆積、-1.07~-1.14mで黄褐色細砂。	22H417	HR 419	13
九条二坊三町跡、唐橋遺跡	南・唐橋平垣町67-1	3/24	GL-0.3mでオリブ黒色粘質土（炭化物含）、-0.37~-0.46mで灰黄色粘質土。	22H513	HR 496	13
九条二坊四町跡、史跡西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋西寺町～唐橋大宮尻町 地先	22/12/12～23/2/7	GL-0.45mで旧耕作土、-0.58mでにぶい黄褐色砂質土、-0.8mで灰黄褐色砂質土の時期不明包含層、-0.95mで黒褐色砂礫の地山、-1.60m~-2.25mでにぶい黄褐色細砂。	4C081	HR 364	13
九条二坊四町跡、唐橋遺跡	南・唐橋大宮尻町22	22/12/15～23/3/22	GL-0.28mで褐灰色微砂混シルトの近世耕作土、-0.35~-0.52mで褐色砂礫の地山を切ってピット3基（古墳時代?）。	22H490	HR 372	13
九条二坊五町跡、唐橋遺跡	南・唐橋大宮尻町22	3/22～4/26	GL-1.35mまで盛土。	17H809	HR 490	13

太秦地区(UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前堂ノ前町10-22（12号地）	1/17	GL-0.45mまで盛土。	22S440	UZ 414	23
仁和寺院家跡	右・常盤古御所町2の一部他17筆	22/7/20～23/11/28	GL-1.33~-2.1mで褐灰色粘質シルト。	16S168	UZ 157	20

洛北地区(RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大雲寺跡	左・岩倉上蔵町～岩倉下在地町 地内	22/5/18～23/1/20	No.7；GL-0.5~-1.0mで褐灰色砂礫。No.10；GL-0.6mで暗褐色泥砂、-1.1~-1.6mでにぶい黄褐色砂礫。	21S711	RH 067	17-1
妙満寺窯跡、元稲荷窯跡、東幡枝遺跡	左・岩倉幡枝町 地内	22/11/7～23/6/1	No.5；GL-0.6mで旧耕作土、-0.8mで暗褐色粗砂混シルトの近世包含層（土師器皿、焼締陶器信楽播鉢）、-1.09~-1.3mで黄褐色細砂混シルトの地山。No.9；GL-0.25mで黄褐色砂礫、-0.35~-0.5mで明黄褐色粗砂混シルトの地山。	22S257	RH 315	24-3
植物園北遺跡	北・上賀茂梅ヶ辻町7-12	1/23・24	GL-0.4mまで盛土。	22S475	RH 421	23-2
植物園北遺跡	北・上賀茂高繩手町40-3	2/3	GL-0.18mで灰黄褐色粘質土、-0.32~-0.38mで明赤褐色粘土。	22S500	RH 436	23-2
植物園北遺跡	北・上賀茂桜井町2	3/6・7	No.2；GL-0.6mで褐色粘性細砂、-0.7~-0.8mで暗褐色粘性中砂の時期不明包含層。No.4で土師器（時期不明）を表採。	22S549	RH 465	23-2
植物園北遺跡	左・下鴨前萩町20-5	2/6・8・13・15・17	GL-0.9mで灰褐色粘質土（橙色粘土混）、-1.16~-1.5mで灰褐色粘質土の時期不明包含層。	22S409	RH 442	23-2
史跡大徳寺境内、大徳寺旧境内	北・千本通、今宮通～北大路通 他	22/10/25～23/6/9	No.1；GL-0.28mで黒褐色砂質土、-0.35~-0.45mで明黄褐色砂礫の地山。No.4；GL-0.2~-0.5mで黄褐色粘質土シルトの地山。No.16；GL-0.35mで橙色粘質土、-0.6~-1.2mで明黄褐色砂礫の地山。	22S275	RH 296	16

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
御土居跡	北・衣笠荒見町20-12、紫野西土居町1-30、1-32	1/27	GL-0.4mまで盛土。	22S484	RH 427	16
御土居跡	北・平野鳥居前町地先	1/17・18	巡回時掘削終了。	22S529	RH 413	16
雲林院跡	北・紫野雲林院町13、14	3/24～4/5	明治の礎石を確認。『京都市内遺跡発掘調査報告令和5年度』で報告。	23S087	RH 499	16・17-3
寺ノ内旧域、上京遺跡	上・妙蓮寺前町359他	2/24・27	GL-1.65～-1.92mで黄褐色砂礫の地山。	22S508	RH 455	16・17-3
寺ノ内旧域、上京遺跡	上・堀川通上立売上る竹屋町563	1/11	GL-1.06mまで盛土。	22S310	RH 402	17-3
上京遺跡、相国寺旧境内	北・小山下総町～上・相国寺門前町地内	3/6～12/28	No.2；GL-0.25mで黒褐色粗砂混シルトの中近世包含層（土師器）、-0.6mで黒色シルト、-1.4～-1.6mで灰色砂礫の地山。No.3；GL-0.58mでにぶい黄褐色粗砂、-0.65mで灰黄褐色細砂と褐灰色シルトブロックの混合層、-0.95～-1.4mで黄褐色砂礫の河川堆積。No.4；GL-0.2～-0.5mで黒褐色礫混シルトの中世包含層。No.10；GL-0.9～-1.4mで明褐色砂礫（粘性有）の地山。	22S378	RH 466	17-3
相国寺旧境内	上・今出川通烏丸東入相国寺門前町701	3/14・15・30、4/3	GL-0.67m～-0.75mで灰黄褐色泥砂。	22S556	RH 483	17-3
公家町遺跡	上・京都御苑15	2/27・3/7・20、6/15	-0.18～-0.38mで黒褐色砂質シルトの幕末～近代の桂宮邸築地側溝埋土（焼瓦、鉄釘）。	22S281	RH 459	17-3
公家町遺跡	上・京都御苑3	3/7	GL-0.35～-0.7mで火災処理層。	22S602	RH 474	17-3

北白川地区(KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
上終町遺跡、北白川廃寺	左・北白川東瀬ノ内町10-1	3/7・8	GL-0.19mまで盛土。	22S107	KS 475	21
北白川廃寺	左・北白川上別当町26-3	1/30・31	GL-0.16mで灰褐色砂質土、-0.22mで暗褐色砂質土の時期不明包含層、-0.32mで黄褐色砂泥の地山を切って黄褐色砂泥の時期不明ピット。	22S535	KS 429	21
北白川廃寺	左・北白川堂ノ前町24-3	1/13	GL-0.4mまで盛土。	22S497	KS 407	21
白河街区跡	左・岡崎東福ノ川町9-2	22/12/26、23/1/30	GL-0.7mまで盛土。	21S626	KS 391	21
寺町旧域	上・寺町通広小路上の北ノ辺町395（清浄華院）	3/31	現状確認（法成寺跡において前年度の調査で採集した石仏を現位置に移築保存したもの）。	20S145	KS 498	25-1
寺町旧域、御土居跡、法成寺跡	上・寺町通荒神口上る宮垣町～寺町通広小路下る東桜町地先	22/11/30～23/1/30	GL-0.5mでにぶい黄褐色砂礫、-0.7～-1.1mでにぶい黄褐色砂泥。	22S441	KS 349	25-1

洛東地区(RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
御土居跡	中・河原町通三条下る二丁目山崎町256-3、258、三丁目奈良屋町289、寺町通四条上るより六角下るまで裏寺町588-2、588-5	2/1	GL-0.79～-2.04mで灰黄褐色砂礫の地山。	22S255	RT 430	22
鳥部（辺）野、清閑寺境内	東・清閑寺歌ノ中山町2	2/7・13・14・15	GL-0.28mで黄褐色礫混シルトの土石流堆積、-1.27mで明黄褐色礫混砂質シルトの中世包含層（遺物は宮内庁所蔵）、-1.53mで岩盤。	22S496	RT 444	22
法性寺跡	東・福稲御所ノ内町地先	2/20～3/27	GL-0.45～-0.72mで暗オリーブ褐色礫混シルト。	22S524	RT 453	26-3
法性寺跡、名勝東福寺本坊庭園	東・本町十五丁目778	1/12～9/11	室町～近世の遺構群を検出。本報告12ページ。	21S276	RT 406	26-3
芝町遺跡	山・四ノ宮芝畑町15-2、18-1、19、23	22/10/24、23/3/9	GL-0.21mでにぶい赤褐色シルト、-0.55mで明赤褐色シルトの地山、-0.86～-1.34mで明赤褐色砂礫。	22S060	RT 299	26-4
四手井城跡	山・西野八幡田町～厨子奥尾上町地先	22/12/21～23/2/14	GL-0.7mでオリーブ黒色微砂混シルトの湿地状堆積、-0.85mで灰色砂礫の地山。	22S469	RT 382	25-2

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
山科本願寺跡 (寺内町遺跡)	山・西野今屋敷町9-6	2/3・28	GL-0.5mまで盛土。	22S487	RT 437	25-2
山科本願寺南殿跡	山・音羽中芝町31-22	1/6	GL-0.26mでにぶい黄褐色砂泥礫混の地山。	22S405	RT 397	26-5
山科本願寺南殿跡	山・音羽伊勢宿町32-83	3/6	GL-0.25mまで盛土。	22S612	RT 473	26-5
山科本願寺南殿跡	山・音羽乙出町9-39・40	2/28	GL-0.3mまで盛土。	22S436	RT 460	26-5
中臣遺跡、 中臣十三塚	山・西野山中臣町～東野舞台町 地内	22/8/25～ 23/4/28	№1；GL-0.3mで黄色シルトの地山を切ってにぶい黄褐色シルトの時期不明土坑、-0.94～-1.0mで灰白色シルト(礫混)。№6；GL-0.9mで明黄褐色粘質土の地山、-1.4～-1.55mで浅黄色砂礫。	22N004	RT 211	25-3
中臣遺跡、 稲荷塚古墳	山・西野山中臣町 地先	3/23	GL-1.2mまで盛土。	22N530	RT 493	25-3
中臣遺跡	山・栗栖野打越町46の一部、46-10、 46-11の一部、51	1/17	GL-0.4mまで盛土。	22N402	RT 410	25-3
中臣遺跡、 中臣十三塚	山・西野山中臣町 地先	3/16～10/11	GL-0.4mで暗灰黄色シルト、-0.65mで黒色シルト、-0.85～-0.9mで浅黄色砂泥。	22N574	RT 485	25-3
中臣遺跡、坂上田 村麻呂墓伝承地	山・勸修寺東栗栖野46他	2/16	GL-0.61mまで盛土。	22N234	RT 451	25-3
大宅廃寺、大宅 廃寺境内瓦窯跡、 大宅遺跡	山・大宅鳥井脇町6-1～大宅山田 5-1	22/7/5～ 23/4/21	古代の溝、土坑等を検出。『京都市内遺跡試掘 調査報告 令和4年度』に報告。	21S384	RT 137	26-6

伏見・醍醐地区(FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
伏見城跡	伏・桃山町永井久太郎63-4他 地内	22/10/17～ 23/3/9	GL-3.08mで褐色礫混シルト、-3.38～-3.62mで褐色シルト混粗砂の伏見城期造成土か。	20F556	FD 290	14
伏見城跡	伏・片原町289	1/5	GL-0.75mまで盛土。	22F359	FD 395	14
伏見城跡	伏・深草大亀谷六躰町106-7	1/23	GL-0.25mまで盛土。	22F372	FD 420	15
伏見城跡	伏・桃山町(桃山陵墓地)	3/22	GL-0.8～-0.95mで黄褐色粗砂混シルト。	22F494	FD 492	15
中山遺跡	伏・小栗栖中山田町～桃山町山ノ下 地内	2/2～7/5	GL-0.87mで浅黄褐色シルト(礫混)の地山、 -1.05～-1.2mで灰色細砂。	22S356	FD 434	15・ 27-3
小野廃寺	伏・醍醐古道町22-3	22/12/13、 23/1/10・12	GL-0.3～-1.1mでにぶい黄褐色粘質土(礫混)。	22S423	FD 369	27-1

鳥羽地区(TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
鳥羽離宮跡、 鳥羽遺跡	伏・竹田中殿町95、103	22/11/24・ 25、23/1/23	GL-0.56mで近世耕作土、-0.75m～-0.86mで明黄褐色砂質土。	21T640	TB 337	24-1
西飯食町遺跡	伏・深草飯食町	22/10/22～ 23/1/20	近代の石組み暗渠を検出。本報告23ページ。	22S379	TB 295	27-6
富ノ森城跡	伏・横大路六反畑 地内	3/14・15	GL-1.15mで灰黄褐色粗砂混粘土質シルト、-1.25mで暗褐色細砂混粘土質シルトの近世後期包含層、 -1.5～-1.8mで褐灰色細砂混粘土質シルト。	19S141	TB 482	27-7
富ノ森城跡	伏・伏見西部第五地区土地区画整理 事業(その4) 地内	2/13～4/10	GL-1.27mで近現代耕作土、-1.71mで黒褐色細砂混シルトの近世耕作土、-1.81～-1.95mで黄灰色細砂混シルトの近世耕作土。	22S313	TB 447	27-7
淀城跡	伏・淀下津町141-5	1/11	GL-0.55mまで盛土。	22S274	TB 405	27-8

長岡京地区(NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
左京一条四坊十町跡	伏・久我石原町9-49	1/18	GL-0.5mまで盛土。	22NG273	NG 417	18-3
左京四条三坊十四町跡	伏・羽束師菱川町544-8	1/23	GL-0.25mまで盛土。	22NG511	NG 423	19
左京四条三坊十四町跡	伏・羽束師菱川町544-10	2/27	巡回時掘削終了。	22NG523	NG 458	19
左京五条四坊十四町跡	伏・羽束師志水町 地内	2/2・13・16	GL-1.93mで黄灰色細砂混粘土質シルトの湿地状堆積、-2.19mで黄灰色粘土質シルトの湿地状堆積、-2.3mで灰黄褐色微砂混シルトブロックと地山ブロックの混合層、-2.41～-3.32mで黄褐色細砂混シルトの地山。	22NG339	NG 435	19
右京一条二坊十二・十四町跡	西・大原野上勝山町～大原野上里鳥見町 地先	3/10～12/11	No.2 ; GL-0.5mで黄褐色粘質土、-0.85mで明黄褐色砂泥、-1.05～-1.25mで黄橙色砂質土。No.3 ; GL-0.6～-1.4mまで明黄褐色細砂の氾濫堆積。	22NG606	NG 479	28-1

南桂川地区(MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
下津林遺跡	西・川島松ノ木本町 地内	3/27・29・30、4/3・13、10/19・24・27、11/1・7	GL-0.2mで灰オリブ極細砂～細砂（固く締まる）の弥生包含層（弥生土器）、-0.44mで灰黄色シルト～細砂（固く締まる。地山か）、-0.52～-0.7mで明黄褐色シルトの地山。	22S430	MK500	18-2
外畑城跡、外畑遺跡	西・大原野外畑町154他13筆	22/12/9・21、23/12/7	堀切を発見。東側の城のさらに東の丘陵に祭祀遺跡を発見。東西両主郭、竪堀部分を測量。本報告26ページ。	22S435	MK362	28-5
史跡乙訓古墳群（芝古墳）、芝古墳群	西・大原野石見町632-3	22/11/21～23/2/8	No.3 ; GL-0.26～0.65mで黄色泥砂の地山。No.11 ; GL-0.63mで明黄褐色シルトを切ってにぶい黄色シルトの時期不明ビット、-0.98～-1.2mで明黄褐色シルト（小礫混）。No.13 ; GL-0.09mで暗褐色泥砂、-0.35～-0.46mで明黄褐色泥砂（締め有）。No.19 ; GL-0.28mでにぶい黄橙色粘質土、-0.49mで灰色黄褐色粘質土、-0.82～-1.25mで明黄褐色粘質土の地山。No.1付近、No.10・21で埴輪、No.6で須恵器を表採。	4N030	MK329	28-3
三鈷寺境内隣接地	西・大原野小塩町 地内	22/9/3、23/2/25	本堂及び石垣部分の測量。	22A006	MK240	28-4

II 2023年 4～12月期(令和5年度)

平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
漆室跡	上・一条通御前東入西町24	9/26・28	GL-0.17mで灰黄褐色泥砂の近世包含層、-0.35mで黒褐色砂泥の土壌化層、-0.66～-1.55mで明黄褐色砂礫の地山。	22K520	HQ 241	1
漆室跡	上・御前通一条下る東堅町144-12	10/11	GL-0.2mまで盛土。	23K277	HQ 263	1
漆室跡	上・一条通御前東入西町21、22、23	12/7	GL-0.75mまで盛土。	23K342	HQ 329	1
大蔵省跡	上・四番町107-2	7/21	GL-0.38mまで盛土。	23K116	HQ 149	1
大蔵省跡	上・一番町99-4	8/23	巡回時掘削終了。	23K228	HQ 194	1
主殿寮跡、 聚楽第跡	上・中立売通浄福寺東入新栴屋町427他	10/30、11/6・ 16・17・21	GL-1.36mで明黄褐色礫混粘質土及び褐色礫混砂質土、-1.76mで灰黄褐色粗砂混砂礫、-2.16～-2.34mで黄橙色粘質土の地山。	22K548	HQ 281	1
函書寮跡	上・下長者町通七本松西入鳳瑞町233-8	12/7	GL-0.23mで暗褐色シルト、-0.47～-0.52mで黄灰色シルト。	23K322	HQ 330	1
宴松原跡	上・下長者町通七本松西入鳳瑞町242の一部	6/12	GL-0.3mまで盛土。	23K033	HQ 099	1
宴松原跡	上・利生町291-3、四番町151-45	9/19	GL-0.46～-0.71mで明黄褐色シルト（礫混）の地山。	23K244	HQ 230	1
宴松原跡	上・長門町435-50	12/19	GL-0.23mで明黄褐色礫混粘質土、-0.44～-0.54mでにぶい黄褐色礫混砂質土の近世包含層。	23K363	HQ 346	1
掃部寮跡	上・仁和寺街道六軒町西入四番町150-7、151-23	7/24・26・ 31	GL-1.04～-1.31mで暗褐色泥砂の近世包含層。	23K031	HQ 152	1
縫殿寮跡	上・二本松町22	7/31～8/4	GL-0.4mまで盛土。	23K110	HQ 168	1
縫殿寮跡、 聚楽第跡	上・上長者町通浄福寺東入高台院町540	7/31、8/1・ 3・7	GL-0.55mまで盛土。	23K136	HQ 169	1
縫殿寮跡、 聚楽第跡	上・上長者町通浄福寺東入高台院町535	9/21	GL-0.33mまで盛土。	23K206	HQ 235	1
梨本跡、聚楽第跡	上・下長者町通智恵光院東入西辰巳町107-1	6/23	GL-0.4mまで盛土。	23K097	HQ 113	1
左近衛府跡、 聚楽第跡	上・南清水町134-35	4/18-24	GL-0.3mで黒色砂泥、-0.5～-0.6mでにぶい黄褐色砂泥（焼土含）の平安後期火災処理土坑（土師器、須恵器、緑釉陶器、丸・平瓦）。	22K594	HQ 036	1
左近衛府跡、 聚楽第跡	上・大宮通上長者町下る東堀町615-9	7/12	GL-0.1mで黒褐色粗砂混シルトの近世後期包含層、-0.4～-0.6mでにぶい黄褐色シルト（灰色砂礫ブロック含）。	23K099	HQ 135	1
内裏跡、 内膳司跡	上・出水通土屋町東入東明神町281-3	11/9	巡回時掘削終了。	23K333	HQ 297	1
内膳司跡	上・下立売通千本東入田中町457	4/17	GL-0.51mまで盛土。	22K426	HQ 034	1
右兵衛府跡、 鳳瑞遺跡	上・六番町375 地先	5/10	巡回時掘削終了。	23K052	HQ 060	1
右兵衛府跡、 鳳瑞遺跡	上・天満屋町 地先	4/3	巡回時掘削終了。	22K367	HQ 002	1
中和院跡	上・千本通出水下る十四軒町402-4	7/20・21	GL-0.39～-0.54mで浅黄褐色細砂。	23K150	HQ 145	1
左兵衛府跡	上・下立売通大宮西入浮田町609-7の一部（3号地）	4/24	GL-0.4mまで盛土。	22K619	HQ 041	1
左兵衛府跡	上・下立売通大宮西入浮田町609-6の一部（2号地）	6/20・28・ 29	GL-0.35mまで盛土。	23K013	HQ 110	1
東雅院跡、 二条城北遺跡	上・榎木町通大宮西入申書町679	10/10	GL-0.45mで褐色粘質土、-0.55mで黄褐色粘質土、-0.60mで明黄褐色砂礫の地山を切って褐色粘質土の時期不明ピット。	23K283	HQ 256	1
西雅院跡、 聚楽遺跡	上・下立売通千本東入下る中務町488-2-1	11/6	GL-0.16mまで盛土。	23K237	HQ 294	1
西雅院跡、 聚楽遺跡	上・下立売通千本東入中務町486-61	11/16	GL-0.4mまで盛土。	23K308	HQ 300	1
典葉寮、 鳳瑞遺跡	中・聚楽廻松下町3-54	10/20	GL-0.45mまで盛土。	23K325	HQ 274	1
典葉寮跡	中・西ノ京車坂町1-2	5/12	GL-0.3mまで盛土。	23K034	HQ 064	1
豊楽院跡	中・聚楽廻西町188-78	4/24	GL-0.5mまで盛土。	23K008	HQ 044	1
豊楽院跡	中・西ノ京内畑町22-34	11/7・8	GL-0.4mまで盛土。	23K305	HQ 295	1
豊楽院跡、 鳳瑞遺跡	中・聚楽廻西町3 地先	4/3	巡回時掘削終了。	22K629	HQ 001	1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
朝堂院跡、 聚楽遺跡	上・千本通丸太町上る西入小山町 地先	4/12～5/11	GL-0.65～-0.8mでにぶい黄褐色泥砂の時期不明 包含層。	23K025	HQ 020	1
朝堂院跡、 聚楽遺跡	中・聚楽廻中町51-6	4/24	GL-0.2mでにぶい黄褐色砂泥、-0.36mで黄褐色 粘質土の地山。	22K623	HQ 043	1
朝堂院跡、 聚楽遺跡	上・千本通下立売下る小山町908- 102	10/10	GL-0.24mで褐色粘質土の近世以降包含層（磁器、 陶器）。	23K245	HQ 257	1
朝堂院跡、 聚楽遺跡	上・中務町491-44	11/24	GL-0.55mまで盛土。	23K395	HQ 315	1
内舎人跡、 聚楽遺跡	上・下立売通千本東入下る中務町 490-130	6/28	GL-0.2～-0.45mで暗褐色中砂の近代包含層。	23K163	HQ 119	1
主水司跡	上・千本通二条下る東入主税町938	8/18	GL-0.3mまで盛土。	23K246	HQ 188	1
大炊寮跡	上・丸太町通黒門東入薬屋町535- 128、535-129の一部	5/25・30	GL-0.4mまで盛土。	23K070	HQ 086	1
大炊寮跡、 二条城北遺跡	上・丸太町通松屋町東入左馬松町 785の一部	9/11	GL-0.4mまで盛土。	23K190	HQ 217	1
御井跡	中・西ノ京車坂町15-15	9/11・12	GL-0.4mまで盛土。	23K201	HQ 216	1
右馬寮跡	中・西ノ京冷泉町113～116	5/18	巡回時掘削終了。	22K427	HQ 079	1
右馬寮跡	中・西ノ京右馬寮町14-10、14-11、 14-27、14-30	11/28	GL-0.4～-0.58mで灰色砂礫の地山。	23K317	HQ 319	1
治部省・判事跡	中・西ノ京内畑町13-41～18-8 地先	10/6～12/4	GL-0.6mでにぶい黄褐色粘性細砂、-0.7mでにぶ い褐色泥砂の平安包含層、-0.85～-1.05mで明黄 褐色泥砂（礫混）。	23K230	HQ 254	1
判事跡	中・西ノ京内畑町13-22	5/11	GL-0.17～-0.36mで暗灰黄色泥砂の近世整地層。	23K002	HQ 062	1
判事跡	中・西ノ京内畑町17-13	10/3・5	GL-0.27mでにぶい黄褐色砂泥。	23K241	HQ 251	1
判事跡	中・西ノ京内畑町15-38	11/9	GL-0.24～-0.52mで明黄褐色粘質土の地山。	23K329	HQ 291	1
判事跡	中・西ノ京内畑町16-22	11/14	GL-0.4mまで盛土。	23K291	HQ 298	1
兵部省跡	中・西ノ京内畑町34	5/16～19	GL-1.4mまで盛土。	22K622	HQ 072	1

平安京左京(HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊四町跡	上・一条通黒門東入如水町78	8/4・8	GL-0.9mまで盛土。	23H111	HL 176	2
北辺二坊四町跡	上・小寺町143の一部	9/27	GL-0.3mまで盛土。	23H261	HL 243	2
北辺三坊一町跡、 上京遺跡、 内膳町遺跡	上・元真如堂町374-2、374-3、 374-4	6/28、7/5	GL-0.4mまで盛土。	23H106	HL 117	3・ 17-3
北辺三坊六町跡、 内膳町遺跡	上・室町通中立売下る花立町505-1	5/16	GL-0.55mまで盛土。	23H005	HL 074	3
一条二坊十一町跡	上・油小路通下立売上る近衛町157	9/11・12	GL-0.85mまで盛土。	23H189	HL 215	2
一条二坊十六町跡	上・上長者町西洞院西入有春町 179-1	4/24	GL-0.4mまで盛土。	22H652	HL 042	2
一条二坊十六町跡	上・油小路通上長者町下る亀屋町 155、157	10/31	GL-0.55mまで盛土。	22H521	HL 288	2
一条三坊六町跡、 旧二条城跡	上・衣棚通出水下る常泉院町129-2、 133-1	8/17、9/4	GL-2.01～-2.46mで灰褐色粗砂の地山か。	23H181	HL 185	3
一条三坊十三・ 十四町跡、 公家町遺跡、 烏丸丸太町遺跡	上・京都御苑3	10/10	GL-0.6mまで盛土。	23H318	HL 255	3
一条四坊九・ 十町跡、公家町 遺跡、京都新城跡	上・京都御苑3	5/11	GL-0.1mまで盛土。	23H084	HL 063	3・ 17-3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
一条四坊十六町跡、 公家町遺跡、 京都新城跡	上・京都御苑3	6/12	GL-0.22mで明赤褐色泥砂、-0.27mで灰黄褐色細砂、-0.3mでにぶい黄橙色砂、-0.36mで灰黄褐色泥砂、-0.39mでにぶい黄色砂、-0.43mでにぶい黄褐色泥砂、-0.49mで明赤褐色泥砂の焼土層、-0.53mで褐灰色泥砂（炭含）、-0.58mでにぶい黄色砂、-0.64mで黄褐色泥砂（小礫含）、-0.76m～-0.95mでオリブ褐色泥砂（拳大礫含）、-0.22～-0.64mまでは近世の路面及び整地層。	23H126	HL 100	3
二条二坊十二町跡	中・堀川通夷川下る九町目549	8/25	GL-1.57mで灰黄色粘性中砂（φ2～3cmの礫含）、-1.83mで赤褐色粗砂（φ2～3cmの礫含）、-1.99mでにぶい赤褐色粗砂（φ5～7cmの礫含）、-2.35～-3.17mで灰褐色粗砂（φ5～10cmの礫含）。	23H199	HL 196	2
二条三坊十二町跡	中・両替町通二条上る北小路町95-2	9/20・21・ 26・28	GL-0.55mで灰黄褐色砂泥と砂礫の近世土蔵基礎、-1.31mでにぶい黄橙色砂礫の地山を切って灰黄褐色砂泥（炭化物、焼土含）の近世土坑。	23H168	HL 234	3
二条三坊十二町跡	中・両替町通二条上る北小路町96	12/5	GL-1.08mまで盛土。	23H219	HL 325	3
二条四坊四町跡、 烏丸丸太町遺跡	中・間之町通二条上る夷町565、 566	4/13～25	GL-0.33mで灰オリブ色砂泥の近代包含層、-1.07～-1.42mでオリブ黒色砂泥の近世後期整地層。	22H458	HL 022	3
二条四坊七町跡、 烏丸丸太町遺跡、 京都新城跡	中・柳馬場通竹屋町上る四町目196-1、 196-2、196-3	12/11	GL-0.27～-0.49mで黄褐色泥砂。	23H350	HL 335	3
二条四坊十町跡、 烏丸丸太町遺跡、 京都新城跡	中・富小路竹屋町上る榎屋町329、 329-1、329-2、329-3	4/13	GL-0.9mまで盛土。	22H547	HL 026	3
二条四坊十二町跡、 烏丸丸太町遺跡	中・柳馬場通二条上る六丁目280	7/21・25	GL-1.6mまで盛土。	23H067	HL 151	3
二条四坊十四町跡、 烏丸丸太町遺跡	中・麩屋町通竹屋町下る笹屋町 477-1、478	4/27～6/23	GL-0.22mでにぶい黄褐色泥砂（焼土多含）、-0.43～-0.69mで浅黄色細砂。	22H491	HL 053	3
三条一坊十町跡	中・西ノ京職司町67-4	4/6・19	GL-1.8mまで盛土。	22H536	HL 011	2
三条二坊二町跡、 堀川御池遺跡	中・御池通猪熊西入俵屋町200-1、 202-1	8/17	GL-0.78～-1.0mで暗灰黄色砂礫。	23H184	HL 186	2
三条二坊三町跡、 烏丸御池遺跡	中・新シ町通御池下る大文字町 245-3、246、249、249-1、249-2	12/18	GL-0.5mまで盛土。	23H431	HL 340	2
三条二坊八町跡、 史跡旧二条離宮 （二条城）、 堀川御池遺跡	中・二条通堀川西入二条城町地先	10/18	GL-0.45mで黒褐色泥砂、-0.58～-0.93mで黒褐色砂礫。	5N022	HL 271	2
三条二坊十町跡、 堀川御池遺跡	中・油小路御池上る押油小路町 238-1地内	8/9	GL-0.35mまで盛土。	23H078	HL 181	2
三条二坊十一町跡、 堀川御池遺跡	中・三坊堀川町61-4他、鍛冶町168-1 他	7/19、11/9	№1；GL-0.8～-1.2mで褐色砂礫の地山を切って灰色砂泥の室町溝（土師器、焼締陶器）。№2；GL-0.9～-2.4mで褐色細砂の地山を切って黄灰色泥砂の平安後期井戸（土師器、灰釉陶器）。	23H115	HL 143	2
三条三坊六町跡、 烏丸御池遺跡	中・室町通御池下る円福寺町347	6/27～7/10	GL-2.0～-2.72mでにぶい黄橙色粗砂の地山を切って黒褐色粘質土の江戸前期土坑（土師器）及び黒褐色泥砂の鎌倉土坑（土師器、白磁、青磁）。	22H611	HL 115	3
三条四坊一町跡	中・間之町通二条下る鍵屋町480-1	5/19・22・ 23・25	GL-0.72mでにぶい赤褐色泥砂の近世廃棄土坑、-1.11～-2.34mで浅黄色砂礫の地山。	23H038	HL 081	3
三条四坊一町跡	中・鍵屋町481	8/17	GL-1.7mまで盛土。	23H095	HL 184	3
三条四坊八町跡、 等持寺跡	中・堺町通二条下る杉屋町624、 626、628、628-1	10/3	GL-1.5mでにぶい黄色細砂、-2.01～-2.15mで明黄褐色シルトの地山。	22H300	HL 252	3
三条四坊十五町跡	中・麩屋町通御池上る上白山町251-1	6/13・15	GL-0.7mまで盛土。	22H643	HL 102	3
三条四坊十五町跡	中・御幸町通御池上る亀屋町382、 384	10/13、 11/24・27	GL-2.94～-3.3mで明黄褐色砂礫の地山。	23H056	HL 267	3
四条一坊十五町跡、 旧本能寺の構え跡	中・六角通大宮西入三条大宮町242の一部、 242-1、242-2の一部、278の一部	11/20	GL-1.9mまで盛土。	23H227	HL 303	4
四条二坊八町跡	中・岩上通三条下る下八文字町700	7/13	GL-4.2mまで現代攪乱。	22H012	HL 134	4

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
四条二坊九町跡	中・三条通堀川東入橋東詰町16-1 他2筆	7/25・28、 8/4	No.1 ; GL-0.99mで淡黄色砂礫、-1.43~-1.74m で灰色泥土(有機物含)。No.2 ; GL-2.2mで暗灰 黄色細砂、-2.67mで黄褐色砂~砂礫、-2.98~ -3.28mでオリーブ褐色砂礫。	22H640	HL 160	4
四条四坊七町跡	中・高倉通六角下る和久屋町350-1、 352	4/10~17	GL-1.83mで暗オリーブ色微砂混シルトの平安 後期整地層を切って黒褐色粗砂混シルトの時期 不明ピット。	22H534	HL 016	5
四条四坊八町跡、 烏丸御池遺跡、 三条せと物や町跡	中・三条通高倉東入榎屋町69	10/30、 11/2・7・ 9・14・16	GL-1.07~-1.24mでにぶい黄色粘質土。	23H053	HL 282	5
四条四坊十町跡	中・柳馬場通六角下る井筒屋町411 他	7/11・18・ 26・31	GL-2.8mまで盛土。	22H213	HL 132	5
四条四坊十三町跡	下・四条通麩屋町西入立売東町 21-1、21-2	9/21・26・ 28・29	GL-0.63mで浅黄褐色泥砂、-0.69mで灰黄褐色 砂泥の近世包含層、-1.0mで黄灰色泥砂、-1.14m で黄灰色砂礫、-1.24~-1.32mで黄灰色粗砂。 GL-1.0mで褐灰色泥砂を切って黒褐色泥砂の近世 初頭井戸、-1.3~-1.46mで黄褐色粗砂。	22H579	HL 236	5
五条一坊六町跡	中・壬生相合町69-6	4/13・17	平安後期の井戸を検出。 本報告9ページ。	22H347	HL 023	4
五条一坊九町跡、 本隆寺の構え跡	中・壬生賀陽御所町他 地内	6/19、7/20・ 21	巡回時掘削終了。	22H338	HL 105	4
五条一坊十二町跡	中・壬生相合町8-4、18の各一部	4/20・24	GL-0.4mまで盛土。	22H568	HL 039	4
五条二坊二町跡	下・西田町610	7/31、8/1・ 3・8・10	GL-0.96mで灰黄褐色粘質土の中世包含層(土師 器)、-1.26~-2.25mで明黄褐色粘質土の地山を 切って灰黄褐色粘質土の鎌倉ピット(土師器)。	23H222	HL 167	4
五条二坊六町跡	下・堀川通仏光寺下る吉水町324、 仏光寺通堀川西入晒屋町654-2	8/30、9/1・ 5	GL-1.1mで褐色粗砂、-1.29mで褐色中砂、-1.45m で褐色粗砂、-1.6~-1.85mで褐色細砂。	22H424	HL 201	4
五条二坊十町跡	下・堀川通綾堀川町311、315、 醒ヶ井通要法寺町434、436-1、 436-3	9/14・15・ 19・20・ 21・26・28、 10/4	No.3 ; GL-0.81mでにぶい黄褐色砂泥、-1.19mで 灰黄褐色泥土の室町包含層(土師器、瓦器)、 -1.97~-1.36mでにぶい黄色砂質土。No.4 ; GL-0.71~-1.82mで灰黄色砂泥の中世包含層。	23H020	HL 226	4
五条二坊十一町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・油小路通仏光寺下る太子山町 602-1	12/26	巡回時掘削終了。	23H369	HL 350	4
五条二坊十二町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・油小路通高辻下る麓町638の一 部、640、642	5/26、6/1	GL-1.4mまで盛土。	22H582	HL 087	4
五条三坊三町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・堀之内町277-5他	9/21~10/31	GL-0.4mで灰黄褐色砂泥の時期不明包含層、 -0.76mで暗灰黄色泥砂(礫混)、-0.91~-1.11m でオリーブ黄色微砂。	22H393	HL 237	5
六条一坊五町跡	下・中堂寺鍵田町2-4の一部	7/3・11・13	GL-0.73~-0.82mでにぶい黄褐色粗砂(礫混)。	23H076	HL 126	4
六条一坊十三町跡、 中堂寺城跡	下・中堂寺藪ノ内町17、18、32	5/18・19・ 29・30・31	GL-0.37mでにぶい黄褐色砂泥の時期不明包含層 (土師器)、-0.74mで灰黄褐色泥砂の鎌倉包含 層(土師器)、-0.93~-0.98mでにぶい黄褐色シ ルトの地山。	22H628	HL 078	4
六条二坊七町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・五条通堀川西入柿本町576	4/26~5/11	GL-1.02mでにぶい黄褐色粗砂~砂質シルトの基 盤層を切って黒褐色シルトの時期不明土坑2基。	22H596	HL 050	4
六条二坊七町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・柿本町573-4 地先	12/7・11	巡回時掘削終了。	23H248	HL 331	4
六条三坊一・ 八町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・万寿寺通西洞院東入月見町~ 万寿寺通室町西入長刀切町 地先	4/3~5/31	GL-0.67~-1.4mで暗灰黄色泥砂の時期不明包含 層。	22H644	HL 003	5
六条三坊二町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・西鋸屋町7 地先	12/6	GL-0.85mで黒褐色シルト、-0.9~-1.05mで明黄 褐色微砂。	23H249	HL 327	5
六条四坊四町跡	下・間之町通五条下る二丁目塗師屋 町114	8/1・2・4・ 8・18	GL-0.2~-0.7mで暗赤褐色中砂の火災処理土坑。	23H152	HL 172	5
六条四坊九町跡	下・富小路通松原下る本上神明町446	9/11	GL-1.8mまで盛土。	23H071	HL 214	5
六条四坊十三町跡、 寺町旧域	下・西高瀬川筋五条下る平居町33 の一部	4/4	GL-0.39mでにぶい黄褐色細砂、-1.13m~-1.43m で褐灰色砂礫の河川堆積。	22H567	HL 008	5

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
六条四坊十五町跡	下・下鱗形町536他	5/25～6/29	No.2 ; GL-0.8mでにぶい黄褐色泥砂、-1.13mで黄灰色泥砂の鎌倉包含層(土師器)、-1.63～-1.92mで浅黄色砂礫の地山。No.3 ; GL-0.8mで黒褐色泥砂、-0.87mで黒褐色粘性細砂を切って黒褐色中砂の中世ピット、-1.29mで褐色細砂、-1.5mでにぶい黄褐色中砂、-1.73～-2.8mでにぶい褐色細砂(φ5cm礫含)の河川堆積。	22H590	HL 085	5
六条四坊十五町跡	下・下鱗形町546、548-1	6/13・14・20・26	GL-0.73mで褐灰色粘質土、-1.33mで褐灰色粘質土の近世包含層、-1.63mで灰黄褐色粘質土の近世包含層、-1.84mで黒褐色粘質土の鎌倉包含層(土師器、須恵器)、-1.86～-1.98mで灰白色砂礫の地山。	22H654	HL 101	5
七条一坊十二町跡	下・西酢屋町9-5、10-5、10の各一部	6/20	GL-0.6mまで盛土。	22H651	HL 109	6
七条四坊一町跡	下・間之町通六条下る夷之町77	6/28、7/3・10、8/3	No.1 ; GL-0.46mで灰褐色中砂、-0.59～-1.12mで褐色粘性細砂と黒褐色粘性細砂(炭混)の近世包含層。No.2 ; GL-0.36mで黒褐色細砂、-0.77mで褐色泥砂(焼土混)、-1.21mで褐灰色砂礫の地山、-1.41～-1.54mでにぶい黄褐色砂礫。試掘調査済地点。	19H047	HL 118	7
八条二坊七町跡	下・志水町135	4/27	GL-2.5mまで盛土。	23H014	HL 051	6
八条二坊十三町跡	南・西九条北ノ内町42-17の一部、42-18、42-19の一部、42-28	8/30、9/4	GL-0.9mまで盛土。	23H132	HL 204	6
八条三坊十六町跡、東本願寺前古墓群	下・烏丸通七条下る東塩小路町735-3	10/11	GL-2.1mまで盛土。	23H147	HL 264	7
八条四坊十三町、九条四坊十六町跡	下・屋形町 地内	6/5～7/11	GL-0.79mで灰黄褐色泥砂、-1.09mで暗灰黄色細砂の河川堆積、-1.23m～-1.8mで灰オリーブ色砂礫。	23H105	HL 096	7
九条一坊九町跡、教王護国寺旧境内(東寺旧境内)	南・八条通大宮西八条町438、439、439-1、439-2、439-5	5/29・30、6/5・6	GL-0.76mで旧耕作土、-1.15mで黄褐色極細砂～細砂、-1.39～-1.97mで黄褐色中砂～礫。	22H184	HL 089	6
九条一坊九町跡、教王護国寺旧境内(東寺旧境内)	南・八条通大宮西八条町436、435-2、壬生通八条東入東寺町554-5、554-6、598-1、598-4	4/11・12	GL-0.29mで灰黄褐色細砂混シルトの近世包含層、-0.41mで黒褐色細砂混シルト、-0.56～-0.78mで黒褐色細砂混シルトの桃山～近世包含層。	22H451	HL 018	6
九条二坊四町跡	南・西九条南小路町1	8/7	巡回時掘削終了。	23H079	HL 179	6
九条二坊四町跡	南・西九条川原城町19の一部	12/14	GL-0.37～-0.5mで浅黄色微砂。	23H312	HL 337	6
九条二坊十四町跡、烏丸町遺跡	南・西九条春日町48-1、48-5	12/1・5	GL-0.43mで黒褐色泥砂と黒褐色砂質土の旧耕作土、-0.63～-1.75mで黄灰色砂礫の河川堆積を切って平安末～鎌倉の土坑。	23H171	HL 321	6

平安京右京(HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊六町跡	北・大將軍川端町74-1	7/18	GL-0.27mで暗褐色粗砂混シルト、-0.45mで暗褐色細砂混シルトの時期不明包含層、-0.58～-1.13mでオリーブ褐色礫混シルトの地山。	23H133	HR 138	9
北辺三坊二町跡	北・大將軍南一条町48-2 地内	9/20・25・28、10/10	No.1 ; GL-0.45mで暗灰黄色泥砂の土壌化層、-0.73mで暗灰黄色シルト(礫混)の地山、-0.95mで黒褐色泥砂。No.4 ; GL-0.9mで明褐色粘質土、-1.0mで黒褐色粘質土(粘性有)の時期不明包含層(土師器)、-1.1～-1.3mで褐灰色粘質土(鉄分含む)の時期不明包含層(土師器)。	23H082	HR 233	8
一条二坊二町跡	上・上ノ下立売通御前西入大宮町482	9/25	GL-1.17mでにぶい黄褐色泥砂、-0.29～-0.45mまで焼土多量に含む暗褐色泥砂の時期不明包含層。	23H268	HR 240	9

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
一条二坊九町跡、 御土居跡	北・大將軍東鷹司町196	6/1	No.1 ; GL-0.24mでにぶい黄褐色粘質土（固く締まる）を切ってにぶい黄褐色粘質土の時期不明ピット、-0.35~-0.6mで明黄褐色粘質土の地山。 No.2 ; GL-0.03mで暗褐色粘質土の時期不明包含層（土師器）、-0.19~-0.39mで明黄褐色粘質土の地山。	23H122	HR 095	9
一条二坊九町跡、 御土居跡	中・西ノ京中保町61	8/18	GL-1.04~-1.12mで暗灰黄色砂泥の時期不明包含層。	23H185	HR 189	9
一条二坊九町跡、 御土居跡	北・大將軍東鷹司町164	12/4	GL-0.64mまで盛土。	23H358	HR 323	9
一条二坊十五町跡、 御土居跡	中・西ノ京中保町2、3、4	9/5・6・20	GL-0.64~-0.93mで黄橙色砂礫（シルト混）の地山。	23H188	HR 208	9
一条三坊六町跡	中・西ノ京伯楽町4-5	7/7・24・ 26・27	GL-1.08~-2.52mで淡黄色シルト質細砂の地山。	23H089	HR 130	8
一条三坊十一町跡	中・西ノ京馬代町2-2、2-3、2-7	5/15・17・ 18	GL-0.91~-1.74mで黄褐色シルトの地山を切って黒褐色シルトの平安前期土坑（土師器、須恵器）。	22H358	HR 066	8
一条三坊十五町跡	右・花園長北町19-1、20、20-1	12/6・7・8	GL-0.12mで黒褐色シルトの中世包含層、-0.2~-0.4mで明黄褐色シルトの地山を切って暗褐色砂泥の鎌倉土坑（土師器、須恵器、瓦器）。	23H266	HR 328	8
二条二坊二町跡	中・西ノ京南両町88の一部、91、 92、125	11/20・21・ 27・30、12/1	GL-0.95mで明緑灰色砂質土、-1.26mで明黄褐色粗砂、-1.32~-1.42mでにぶい黄褐色砂質土。	23H404	HR 302	9
二条二坊十六町跡	中・西ノ京南円町94	7/21	GL-0.26~-0.36mで黄褐色シルトの地山か。	22H641	HR 150	9
二条三坊 十三・十四町跡	右・太秦安井藤ノ木町9-3~太秦安 井水戸田町17-2地先	11/20~12/25	GL-0.9~-1.25mで灰黄褐色シルト。	23H378	HR 307	8
二条四坊十四町跡	右・太秦安井辻ノ内町8-1	10/19・20	GL-0.3mまで盛土。	23H279	HR 272	8
三条二坊八町跡、 西ノ京遺跡	中・西ノ京原町7	9/11	GL-0.27mで灰黄色粘質土、-0.57~-0.6mで明黄褐色粘質土。	23H124	HR 213	9
三条二坊九・ 十町跡、西ノ京遺跡	中・西ノ京東中合町1	11/22・27・ 29	GL-0.65mまで盛土。	23H269	HR 310	9
三条四坊十町跡	右・山ノ内御堂殿町40-1	10/2・18・ 19・24・25	GL-0.42mで褐灰色砂泥の旧耕作土、-0.58mで明黄褐色砂泥の時期不明整地層、-0.81~-0.91mでにぶい黄褐色砂礫の地山。	23H272	HR 249	8
三条四坊十一町跡	右・山ノ内五反田町14-1、14-3	5/30	GL-0.3mまで盛土。	22H564	HR 090	8
四条一坊二町跡	中・壬生天池町1-8	10/12・16・ 18・19・20	No.4 ; GL-0.84mで淡黄色粘質土、-1.11mで灰白色粘土、-1.30mで黄褐色砂泥、-1.37mでにぶい黄褐色粗砂、-1.53~-2.11mで明青灰色シルトの地山。No.5 ; GL-0.87mで暗赤褐色泥砂（マンガ ン粒含）、-1.1mで暗赤褐色中砂、-1.24mで灰色泥砂の流れ堆積、-1.39mで黄灰色粗砂と黄灰色泥砂の互層の流れ堆積、-1.66~-1.95mで灰色粗砂の流れ堆積。	23H221	HR 265	11
四条一坊九町跡、 壬生遺跡	中・壬生神明町1-91、1-264	5/16	GL-0.8mまで盛土。	22H533	HR 073	11
四条一坊十二町跡	中・壬生森町17、17-3、75-2、 18の一部	7/21・24	GL-0.45mでにぶい黄褐色泥砂の時期不明包含層、-0.56~-0.68mで灰黄色シルト質細砂の地山を切って灰黄褐色泥砂の平安の皇嘉門大路築地内溝（土師器高杯、瓦）。	23H125	HR 144	11
四条三坊九町跡、 西ノ京遺跡	右・西院金樋町4-1、5-1、6-1、6-2	10/10・20・ 24、11/8	GL-3.6mまで盛土。	23H264	HR 258	10
五条一坊一町跡	中・壬生高樋町13、13-21、13-22、 13-25	9/19・22	No.1 ; GL-1.12mで黒褐色泥土（炭化物混）、-1.21mで灰白色細砂、-1.49mで浅黄色細砂、-1.61~-1.88mで黄灰色微砂。No.2 ; GL-1.27~-1.9mでにぶい黄褐色砂礫の地山。	23H138	HR 229	11
五条二坊一町跡	中・壬生土居ノ内町26の一部	8/3	巡回時掘削終了。	23H137	HR 173	11
五条二坊一町跡	中・壬生土居ノ内町20	8/8	GL-0.8mまで盛土。	23H164	HR 180	11
五条二坊十町跡	右・西院三蔵町30-35	8/21・22	GL-0.43~-0.69mで旧耕作土。	23H192	HR 192	11
五条二坊十三町跡、 西院遺跡	右・西院寿町27-1	4/13	GL-0.32mでにぶい黄褐色砂泥礫混の旧耕作土、-0.53~-0.71mで明黄褐色シルトの地山。	22H577	HR 021	11

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
五条三坊二町跡	右・西院北矢掛町10の一部	7/19	GL-0.23mまで盛土。	23H153	HR 141	10
五条三坊六町跡	右・西院南井御料町2-1	7/24	GL-0.3mまで盛土。	23H183	HR 153	10
五条三坊十二町跡	右・西院太田町53、54、55	7/25	GL-0.53mで暗灰色泥土と黄灰色泥土の旧耕作土、-0.86mで淡黄色シルトの地山、-0.96~-1.64mで暗灰黄色砂礫。	23H121	HR 157	10
五条三坊十三町、 四坊四・六町跡、 西京極遺跡	右・西院日照町27-2~121	4/7~10/18	GL-0.4mで灰色シルトの旧耕作土、GL-0.5~-1.7mで黄灰色シルトの湿地状堆積を切つてにぶい黄橙色砂泥~砂礫の溝（菖蒲小路西側溝の可能性）。	22H572	HR 013	10
五条三坊十四町跡	右・西院日照町93-1	11/16	GL-0.4mまで盛土。	23H239	HR 301	10
五条四坊十五町跡	右・西院東貝川町53	4/17	GL-1.08mで黄灰色泥砂の旧耕作土、-1.3mで浅黄色シルトの地山。	22H527	HR 033	10
六条一坊七町跡	下・中堂寺北町37-2の一部	12/18	GL-0.3mまで盛土。	23H332	HR 342	11
六条一坊十町跡	下・中堂寺庄ノ町56-8、40-3	12/18	GL-0.7mまで盛土。	23H347	HR 341	11
六条二坊十五町跡、 西院遺跡	右・西院西高田町6-1の一部	4/5	GL-0.32mで暗褐色細砂混シルトの時期不明包含層、-0.35~-0.54mで褐色微砂混粘土質シルトの地山を切つて黒褐色細砂混シルトの時期不明ピット。	22H589	HR 009	11
七条一坊一町跡	下・朱雀分木町1-4の一部他	9/27、10/4・ 16・18	No.2；GL-0.54mで暗褐色泥砂、-0.78mで黒褐色泥砂、-1.17mで黄褐色シルト、-1.24mで黒褐色粘質土、-1.39~-2.07mで褐灰色粗砂。No.3；GL-0.89mで浅黄色シルト~シルト質極細砂の地山、-1.33~-2.14mで暗灰黄色粗砂~小砂礫。	23H311	HR 242	13
七条一坊一町跡、 御土居跡	下・朱雀分木町地先	5/15~31	GL-1.8mまで盛土。	23H016	HR 067	13
七条一坊二町跡	下・朱雀分木町80	4/19	GL-0.9mまで盛土。	23H004	HR 038	13
七条一坊七町跡	下・朱雀分木町80	4/12・26	GL-0.65mまで盛土。	23H003	HR 019	13
七条一坊七町跡	下・朱雀分木町80~朱雀宝蔵町73-1	8/18	巡回時掘削終了。	23H129	HR 190	13
七条一坊十一町跡	下・西七条御領町94-1	5/8・9・11	GL-0.41mで暗灰黄色泥砂、-0.59~-0.79mで黄褐色砂泥の地山。	22H627	HR 054	13
七条二坊八町跡	下・西七条西石ヶ坪町5の一部、6-2の一部	4/11	GL-0.75mまで盛土。	22H327	HR 017	13
七条二坊十一町跡、 西市跡、衣田町遺跡	下・西七条比輪田町39-5	12/18	GL-0.86mで黄灰色砂泥の近現代耕作土、-0.98mで黄褐色砂礫、-1.21mで灰黄褐色砂礫（鉄分沈着）、-1.37mでにぶい黄橙色砂礫、-1.79mで灰黄褐色砂礫（泥土含）、-1.99~-2.91mでにぶい黄橙色砂礫。	23H220	HR 343	13
七条三坊十四町跡	右・西京極三反田町25-1	8/4	GL-0.81m~-1.64mで灰黄褐色粗砂。	23H123	HR 175	12
八条二坊七町跡、 衣田町遺跡	下・西七条石井町47-1	10/2、11/13・ 14	GL-1.27mで灰白色中粒砂の地山、-1.58mで褐灰色粘質土混灰白色中粒砂、-1.76mで明オリープ灰色シルト、-1.92mで灰色砂礫、-2.35~-2.44mで灰色砂礫（鉄分含）。	23H027	HR 246	13
九条一坊十三町跡、 西寺跡、史跡 西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋西寺町70-2	7/13	No.2；GL-0.38mで暗褐色シルトの時期不明包含層。No.3；GL-0.26~-0.34mで暗オリープ褐色泥砂（縮りなし）。	5N007	HR 136	13
九条一坊十三町跡、 西寺跡、史跡 西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋西寺町70-2	11/1	GL-0.16mまで盛土。	5N036	HR 290	13
九条二坊 十・十一町跡	下・唐橋高畑町6-2、6-7、6-10、 6-11の一部、南・吉祥院西ノ庄門口 町27-2、27-3、27-4の一部	9/6	GL-0.7mまで盛土。	22H638	HR 207	13

太秦地区(UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
平岡八幡宮窯跡	右・梅ヶ畑高鼻町43-3、43-1	8/29・30	GL-0.33~-0.43mで明褐色砂泥の地山。	23S176	UZ 198	26-1
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前登り町41-15、 41-16	11/29・ 12/1・11	巡回時掘削終了。	23S382	UZ 320	23-1
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前登り町~44-14 地先	12/11	GL-0.4mまで盛土。	23S412	UZ 333	23-1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前登り町41-15、41-16	9/12	巡回時掘削終了。	23S191	UZ 220	23-1
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前堂ノ前町10-12 地内	5/19	巡回時掘削終了。	23S066	UZ 080	23-1
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前堂ノ前町10-23	7/3	GL-0.17mで明黄褐色シルト、-0.28mで黒褐色中砂。	23S120	UZ 122	23-1
嵯峨遺跡	右・嵯峨釈迦堂門前瀬戸川町13-1、13-2の一部、13-3の一部、13-4、14-9の一部	6/13・30	No 1 ; GL-0.29mで灰黄褐色泥砂、-0.44~-0.59mで褐色泥砂。No 2 ; GL-0.52~-0.72mで灰黄褐色砂泥。	22S605	UZ 103	23-1
嵯峨折戸町遺跡	右・嵯峨折戸町17、17-7	11/24~12/19	GL-0.69~-0.71mで黄褐色粘質シルトの地山。	23S160	UZ 316	23-1
三瓦山古墳群	右・鳴滝音戸山町4-228 地内	5/9	GL-0.6~-1.0mで明黄褐色砂礫の地山。	23S055	UZ 059	20
三瓦山古墳群	右・鳴滝音戸山町4-76	8/1	GL-0.1~-0.4mで岩盤。	23S061	UZ 170	20
鳴滝藤ノ木町古墳	右・鳴滝瑞穂町18-11	11/21	GL-0.5mまで盛土。	23S323	UZ 308	20
円乗寺跡	右・御室堅町19 地内	7/31~11/8	No 1 ; GL-0.43mで暗オリーブ色砂泥、-0.57~-0.73mで褐色泥砂（φ1~2cmの礫混）の地山。No 2 ; GL-0.34mで褐色泥砂（φ1~2cmの礫混）の地山、-1.03mで橙色粗砂、-1.4mで橙色シルト、-1.94mで褐灰色シルト、-2.29~-2.34mで褐灰色粗砂。	23S081	UZ 164	20
仁和寺院家跡	右・宇多野御屋敷町14	11/27・29、12/8	GL±0.0mで橙色砂泥、-0.17~-0.41mで浅黄橙色シルト（固く締まる）の地山。	23S128	UZ 317	20
森ヶ東瓦窯跡、和泉式部町遺跡	右・太秦和泉式部町8-8	4/10、11/29	GL-0.14mでオリーブ褐色粗砂混シルト、-0.31mで褐色細砂混シルト、-0.43~-0.6mでにぶい黄褐色細砂混シルトの時期不明包含層。	23S018	UZ 015	20
一ノ井遺跡	右・太秦一ノ井町8-6の一部	8/22	GL-0.4mまで盛土。	23S093	UZ 193	20
上ノ段町遺跡	右・太秦箕箕山町1-32、7-5	5/8	GL-0.69mまで盛土。	22S553	UZ 052	20
梅津坂本町遺跡	右・太秦皆正寺町7-1、7-2、28-1、28-2、33	7/20	GL-0.82mで灰黄色極細砂の旧耕作土、-0.94mで浅黄色極細砂の地山、-1.07mで灰白色細砂、-1.16mで浅黄色砂礫、-1.43~-1.69mで浅黄色細砂。	22S604	UZ 148	20

洛北地区(RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大雲寺跡	左・岩倉下在地町3の一部	7/19	GL-0.45mまで旧耕作土。	23S017	RH 140	17-1
醍醐ノ森瓦窯跡	北・西賀茂中川上町69-2の一部	7/25	巡回時掘削終了。	23S032	RH 159	24-2
河上瓦窯跡	北・西賀茂丸川町52	10/30	巡回時掘削終了。	23S367	RH 287	24-2
河上瓦窯跡	北・西賀茂丸川町64-1の一部 (A棟)	10/10	GL-0.5mまで盛土。	23S282	RH 260	24-2
河上瓦窯跡	北・西賀茂丸川町64-1の一部 (C棟)	10/10	GL-0.55mまで盛土。	23S289	RH 262	24-2
河上瓦窯跡	北・西賀茂丸川町64-1の一部 (B棟)	10/10	GL-0.5mまで盛土。	23S284	RH 261	24-2
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉幡枝町628-26	9/5・6	GL-0.05~-0.6mでにぶい黄橙色岩盤の地山。	23S193	RH 206	24-3
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉幡枝町641-19 地先	7/25	GL-0.16~-0.55mで黄色シルトの地山。	21S758	RH 158	24-3
植物園北遺跡	北・上賀茂岡本口町1~上賀茂本山54-11 地先	4/1~12/1	GL-0.12~-0.25mで橙色シルトの地山。	23S021	RH 028	23-2
植物園北遺跡	北・上賀茂池端町18、18-2	8/29	GL-0.3mまで盛土。	23S035	RH 199	23-2
植物園北遺跡	北・上賀茂岩ヶ垣内町15、15-3、15-7	10/26・30	GL-0.46mで暗灰黄色砂泥と黄褐色砂泥の旧耕作土、-0.75~-0.82mで褐色シルトの地山。	23S069	RH 279	23-2
植物園北遺跡	左・松ヶ崎今海道町5-1、5-10、5-11	6/21・23・26・27	No 2 ; GL-0.94mで褐灰色シルト、-1.1mで灰黄色微砂、-1.26mでにぶい黄橙色粘質土、-1.48~-1.62mで明黄褐色粘質土。No 6 ; GL-0.49mで暗青灰色粘質土、-0.65mでオリーブ褐色シルト、-0.71mで黄灰色泥砂（小礫混）、-0.8mで暗灰黄色砂泥、-0.94mで黒褐色シルト、-1.1~-1.41mで明黄褐色シルト。	22S450	RH 112	23-2

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
植物園北遺跡	左・下鴨夜光町23-1	4/25・26・27	No.2 ; GL-0.37mでにぶい黄橙色粘質土、-0.47mで黄橙色粘質土、-0.51mで灰黄褐色泥砂の時期不明包含層、-0.58mで明黄褐色砂質土（固く締まる）の地山を切って暗褐色泥砂の時期不明溝、-0.8～-1.04mでにぶい黄橙色礫混砂質土。No.4 ; GL-0.15mで黄褐色粗砂混シルトの時期不明包含層（土師器）、-0.29mで黒褐色礫混シルトを切って黒褐色細砂混シルトのピット、-0.69mで黒褐色砂礫、-0.85～-0.99mで暗オリーブ褐色細砂～粗砂。	22S571	RH 048	23-2
御土居跡	北・小山西玄以町27-1、27-5	10/30	GL-0.9mまで盛土。	23S258	RH 286	23-2
御土居跡	北・紫野西大門町～大宮東脇台町1-1地先	4/24～8/9	GL-0.73～-1.0mで黄橙色砂礫。	23S022	RH 040	17-2
御土居跡	北・鷹峯旧土居町4-39	7/18～8/25	GL-0.7mで明黄褐色シルト（φ5～10cm大礫含）の御土居構築土、-1.0mで褐色シルト（φ3～5cm大礫多量含）、-1.2mで明黄褐色シルト、-1.5mでにぶい黄橙色中砂（φ5～10cm大礫含）。調査地は前面道路より6.3m高い。	22S608	RH 139	16
御土居跡	北・衣笠荒見町20-13、紫野西土居町1-31	7/31	GL-0.3mまで盛土。	22S386	RH 163	16
大徳寺旧境内	北・紫野大徳寺町31-25、31-26	7/10	GL-0.45mで明黄褐色シルトの地山。	23S161	RH 131	16
大徳寺旧境内	北・紫野大徳寺町31-47、31-58、31-59	11/21	GL-0.05～-0.3mで明赤褐色泥砂。	23S327	RH 309	16
大徳寺旧境内	北・紫野大徳寺町74-4の一部	9/19	GL-0.1mまで盛土。	23S182	RH 231	16
引接寺境内	上・千本通寺之内上る西五辻北町435	7/6・10	GL-0.54mで明黄褐色シルトの地山、-0.77mで灰黄色泥砂、-1.01～-1.89mで褐色砂礫。	23S134	RH 128	16
北野廃寺、北野遺跡	北・北野上白梅町47-2	9/25・27	GL-0.5～-0.6mで黄褐色泥土の地山。	23S169	RH 239	16
寺ノ内旧域、上京遺跡	上・新町通御霊前上る下清蔵口町133	11/24・27	GL-0.5mでにぶい黄褐色細砂の時期不明整地土、-0.86～-0.99mで黒褐色中砂（φ1～2cmの礫混）の地山か。	23S356	RH 314	16・17-3
寺ノ内旧域、上京遺跡	上・妙蓮寺前町353他	5/26、6/2	GL-0.9mで褐灰色泥砂、-1.07～-1.52mで明褐色砂礫の地山。	22S624	RH 088	17-3
上京遺跡	上・武者小路通室町東入梅屋町475-14、475-15	11/15・17・21、12/4・18	GL-1.5mで灰黄褐色粘質土、-2.21～-2.67mで明褐色砂礫。	23S303	RH 273	17-3
上京遺跡	上・新町通今出川下る徳大寺殿町364、366	8/30	GL-0.75～-0.95mで黒褐色中砂の近世包含層。	23S010	RH 202	17-3
公家町遺跡、相国寺旧境内	上・今出川通烏丸東入玄武町601	4/10	GL-0.33～-0.5mで黒褐色礫混シルトの近世～近代堆積層を掘り込んで配置された石列を確認。	22S554	RH 012	17-3

北白川地区(KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
池田町古墳群	左・北白川上池田町40-1	9/20	GL-0.52～-1.66mで黄色細砂の地山。	23S144	KS 232	21
小倉町別当町遺跡	左・北白川別当町72	4/13・14・17	GL-0.25mで黒褐色細砂の黒ボク土、-0.63～-1.36mで黄褐色細砂の地山。	22S569	KS 025	21
田中関田町遺跡	左・吉田泉殿町38-1	9/11	GL-0.49～-0.92mでにぶい黄褐色シルトの地山。	23S174	KS 212	21
吉田泉殿町遺跡	左・吉田泉殿町45、69-2	8/7	GL-0.28～-0.33mで黄褐色砂泥。	22S625	KS 177	21
白河街区跡	左・岡崎天王町26、26-5	4/27、5/1	GL-0.23mでにぶい黄褐色礫混粗砂、-0.39～-0.78mで褐色粗砂～砂質シルト。	22S151	KS 108	21
白河北殿跡、白河街区跡	左・東竹屋町通川端東入東竹屋町60-29	11/20	GL-0.65mまで盛土。	23R314	KS 306	21
白河北殿跡、白河街区跡	左・川端通丸太町下る東竹屋町33-5～60-22地先	4/25～5/9	GL-0.35mで黒色礫混シルト、-0.55～-0.65mで黒褐色礫混粗砂～シルト。	23R043	KS 047	21
白河南殿跡、白河街区跡、岡崎遺跡	左・聖護院蓮華蔵町4-48～4-17地先	4/3～25	GL-0.8mまで盛土。	22R650	KS 005	21
白河南殿跡、白河街区跡	左・聖護院蓮華蔵町31-1	4/25、5/1・2	巡回時掘削終了。	22R566	KS 046	21

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
法勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎法勝寺町117	6/26	GL-0.35mまで盛土。	22R656	KS 114	21
法勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎法勝寺町117、117-2、118-3	11/22	GL-0.09～-0.53mで近世以降盛土。	22R598	KS 313	21
法勝寺跡、白河街区跡	左・南禅寺草川町17	8/31、9/1・4、10/23	GL-0.5mまで盛土。	22R609	KS 205	21
浄土寺七廻り町遺跡	左・浄土寺七廻り町	8/16	平安前期の土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦を採集。	23A003	KS 191	26-2
寺町旧域	上・寺町通荒神口下る松蔭町134の一部、134-1の一部	12/20	GL-0.72mで黒色泥砂、-0.78～-1.11mで褐色砂礫。	23S104	KS 348	25-1
寺町旧域、御土居跡	上・新鳥丸通丸太町上る錦砂町290-2	9/13、12/13・14	GL-0.3mで暗灰黄色泥砂（礫混）、-0.71mで灰黄色粗砂、-0.79～-1.01mでオリーブ褐色泥砂（礫混）。	23S080	KS 222	25-1

洛東地区(RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
祇園遺跡	東・祇園北側347-18、347-19	6/27～7/18	GL-0.31mで褐灰色粗砂混シルトの近世～近代層、-0.41mで灰黄褐色細砂混シルトの時期不明包含層、-0.66mで黄褐色粗砂混シルトの地山、-1.02mで暗灰黄色粗砂混シルト、-1.38mで灰色中～細砂、-1.69mで灰オリーブ色細砂、-1.19～-2.58mでオリーブ黒色粘土質シルト。	22S288	RT 116	22
六波羅政庁跡	東・松原通大和大路西入弓矢町23	5/22・31	GL-0.94mまで盛土。	23S006	RT 071	22
六波羅政庁跡、法住寺殿跡	東・茶屋町地内	7/25	巡回時掘削終了。	23S172	RT 155	22
方広寺跡、六波羅政庁跡、法住寺殿跡	東・東大路通七条上る妙法院前側町地先	5/31	GL-0.9mまで盛土。	23S118	RT 092	22
六波羅政庁跡、法住寺殿跡	東・茶屋町527	11/20	GL-0.2mで黄褐色粘質土、-0.35mでにぶい黄褐色細砂、-0.48mでにぶい黄褐色粗砂、-0.67mでにぶい黄褐色中砂、-0.86mで黄褐色細砂、-1.15mで灰褐色砂礫。	23S309	RT 305	22
法住寺殿跡	東・三十三間堂廻り	11/28	GL-0.57mまで盛土。	23S320	RT 318	22
法住寺殿跡	東・今熊野宝蔵町他地内	5/15～22	GL-1.39mまで盛土。	21S501	RT 068	22
法住寺殿跡	東・泉涌寺門前町11-2	6/19	GL-0.3mまで盛土。	23S101	RT 106	22
安朱遺跡	山・御陵鳥ノ向町6、2、2-3	12/13	GL-0.7mまで盛土。	23S376	RT 336	25-2
山階寺跡	山・御陵進藤町1-1、御陵中内町50-9	9/12	GL-0.35mまで盛土。	23S232	RT 219	25-2
山科本願寺跡（寺内町遺跡）	山・西野山階町39-3	6/5	GL-0.25mまで盛土。	22S486	RT 097	25-2
山科本願寺跡（寺内町遺跡）	山・西野山階町39-32	10/12	GL-0.45mまで盛土。	23S048	RT 269	25-2
山科本願寺跡（寺内町遺跡）	山・西野山階町30-6、30-7、30-8、30-9、30-10、30-11、87、29-3	5/31、6/1	GL-0.3mまで盛土。	23S009	RT 093	25-2
山科本願寺跡（寺内町遺跡）	山・西野山階町11-18	4/17	GL-0.35mまで盛土。	22S649	RT 031	25-2
山科本願寺跡（寺内町遺跡）	山・西野左義長町1-3、2-3	10/13	GL-0.88mで黄褐色砂泥の時期不明包含包含層（土師器）、-0.94～-1.3mで黄褐色シルト。	23S223	RT 268	25-2
山科本願寺跡（寺内町遺跡）	山・西野左義長町13-1の一部	5/16・17、6/9	GL-0.4mまで盛土。	22S614	RT 077	25-2
山科本願寺跡（寺内町遺跡）	山・西野左義長町13-1の一部、13-9	5/19、6/23	GL-0.32～-0.54mで黄褐色泥砂。	22S615	RT 069	25-2
山科本願寺南殿跡	山・音羽乙出町6-2	10/26	GL-0.22mまで盛土。	23S334	RT 278	26-5
山科本願寺南殿跡	山・音羽伊勢宿町32-110	10/16	GL-0.3mまで盛土。	23S197	RT 270	26-5
山科本願寺南殿跡	山・音羽伊勢宿町32-108	10/23	GL-0.32mまで盛土。	23S299	RT 275	26-5
山科本願寺南殿跡	山・音羽伊勢宿町32-35	5/24・26	GL-0.25mまで盛土。	23S094	RT 083	26-5

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大塚遺跡	山・小山北溝町24-1、25-1、26-1	8/24・28、 10/3・6	No.1；GL-0.36mで黒褐色粘性細砂、-0.52mで黄褐色泥砂と暗赤褐色泥砂の旧耕作土、-0.9mでにぶい赤褐色砂泥の時期不明包含層、-1.07～-1.38mで黒褐色シルト（礫混）の地山。No.7；GL-0.7mで黄褐色粘質土の地山を切って時期不明ピット、-0.89～-1.04mで明褐色粘質土。	23S158	RT 195	26-5
中臣遺跡	山・西野山中臣町26-116	6/15・26	GL-0.4mまで盛土。	23N040	RT 104	25-3
中臣遺跡	山・西野山中臣町72-33、72-48	11/22	GL-0.28～-0.38mで極暗赤褐色粘性中砂の地山。	23N302	RT 312	25-3
中臣遺跡	山・西野山中臣町41-1の一部、 西野山中鳥井町126の一部	7/3・5・7	GL-0.54mで灰色砂泥の旧耕作土、-0.69mで褐色泥砂、-0.79mでにぶい黄褐色泥砂、-0.97mで灰黄褐色微砂、-1.11～-1.26mで灰褐色粗砂（礫少量含）。	23N042	RT 125	25-3
中臣遺跡	山・柳辻番所ヶ口町175（A号地）	7/28～8/17	GL-0.25mまで盛土。	23N057	RT 161	25-3
中臣遺跡	山・柳辻番所ヶ口町175（B号地）	7/28～8/17	GL-0.25mまで盛土。	23N058	RT 162	25-3
大宅廃寺、大宅遺跡	山・大宅中小路町26-1	9/12	GL-0.4mまで盛土。	23S224	RT 218	26-6
大宅廃寺	山・大宅烏井脇町1-5	4/17	GL-0.51mまで盛土。	22S559	RT 030	26-6

伏見・醍醐地区(FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
伏見稲荷大社境内、 稲荷山古墳群、 稲荷山坊屋遺跡	伏・深草稲荷山町4 地内	11/6・10	GL-0.15mで灰黄褐色砂泥、-0.6～-1.1mで明黄褐色粘土の地山。	22S033	FD 293	26-7
深草坊町遺跡、 安楽行院跡	伏・深草坊町72-3	4/24・28、 5/8、6/27	GL-2.0mまで盛土。	22S613	FD 045	26-8
伏見城跡	伏・下板橋町639、639-12他	10/25・30	GL-0.63～-0.78mでにぶい黄褐色シルトの土壌化層。	23F023	FD 277	14
伏見城跡	伏・桃山筒井伊賀東町46	8/16～10/4	GL-0.27mで明黄褐色シルトの時期不明造成土、-0.53mでにぶい黄褐色シルト礫混の時期不明造成土、-0.83～-1.05mでにぶい黄褐色砂礫（シルト混）の時期不明造成土。	22F084	FD 183	14
伏見城跡、板橋廃寺	伏・指物町570の一部、571	5/30	GL-0.56～-0.81mで明黄褐色粗砂の河川堆積。	23F001	FD 091	14
伏見城跡	伏・桃山町島津50-4	9/8・11	GL-0.4mまで盛土。	23F251	FD 211	14
伏見城跡	伏・桃山町三河57-4	10/12	GL-0.57～-0.71mでにぶい黄褐色粗砂。	23F256	FD 266	14
伏見城跡、金森出雲 遺跡、御香宮廃寺	伏・毛利橋通、京町通～国道24号線 地内	5/23～9/6	GL-0.7～-1.35mで灰白色砂礫の地山。	22F550	FD 082	14
伏見城跡	伏・道阿弥町139、142	12/5・6	GL-0.5mまで盛土。	23F377	FD 326	14
伏見城跡	伏・両替町四丁目303	7/5	GL-0.4mまで盛土。	21F157	FD 127	14
伏見城跡	伏・大阪町609の一部	4/4・7	GL-0.7mまで盛土。	22F483	FD 007	14
伏見城跡	伏・上土掛町46-1	11/13・14・ 15	GL-0.39mで明褐色粘質土混明黄褐色粗砂の時期不明包含層（土師器）、-0.51～-0.6mで黄褐色粗砂。	23F360	FD 299	14
伏見城跡、指月城跡	伏・桃山町泰長老77-9	6/29	GL-0.25mまで盛土。	23F064	FD 120	14
伏見城跡、指月城跡	伏・桃山町泰長老85-12、桃山町上総 158-13	8/10	GL-0.1～-0.31mでにぶい黄褐色砂泥。	22F587	FD 182	14
伏見城跡、指月城跡	伏・桃山町泰長老81-2	8/7～9/22	GL-0.39～-0.62mで黄褐色砂礫の時期不明造成土か。	23F198	FD 178	14
伏見城跡	伏・深草大亀谷五郎太町33、34-4	4/3	GL-0.6mまで盛土。	22F452	FD 004	15
伏見城跡	伏・桃山町遠山33-10、33-43、 33-44	8/30	GL-1.15～-1.7mで赤褐色中砂（φ1～2cmの礫含）の伏見城期造成土。	23F252	FD 203	15
伏見城跡	伏・桃山町遠山333-10、33-43、 33-44	6/19	GL-0.2～-0.3mで褐色～黄褐色粘質土の伏見城期造成土。	23F149	FD 107	15
伏見城跡	伏・桃山町美濃 地内	7/14	GL-0.2m～-0.55mで褐色礫混シルトブロックと黒褐色シルトの近世～近代盛土。	23F167	FD 137	15
伏見城跡	伏・桃山町伊賀 地内	12/22	GL-0.5mでにぶい黄褐色シルトの地山、-0.76～-1.2mでにぶい黄色粗砂。	23F340	FD 351	15
法界寺旧境内	伏・日野西大道町9-15	7/7	GL-0.5mまで盛土。	23S142	FD 129	27-2
法界寺旧境内	伏・日野西大道町9-19	5/16	GL-0.35mまで盛土。	23S075	FD 070	27-2
向島城跡	伏・向島本丸町41-5	9/13	GL-0.15mまで盛土。	23S255	FD 225	27-4

鳥羽地区(TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
唐橋遺跡	南・吉祥院定成町15-1、15-2、15-3、15-4	8/1・7	GL-0.17mで暗灰黄色泥砂、-0.33~-0.47mでにぶい黄色砂を切って黄灰色粘質土の近世耕作溝。	23S165	TB 171	27-5
西飯食町遺跡	伏・深草池ノ内町55、深草池ノ内町13	10/30~11/28	GL-0.4mで明黄褐色細砂~中砂。	23S270	TB 283	27-6
鳥羽離宮跡、竹田城跡、鳥羽遺跡	伏・竹田中内畑町11、12	5/8・22・25、7/7	GL-0.19~-0.32mでオリーブ黒色シルト。	22T591	TB 057	24-1
鳥羽離宮跡、竹田城跡、鳥羽遺跡	伏・竹田中内畑町47、48	5/8	GL-0.31~-0.49mでにぶい黄褐色粗砂混シルトの時期不明包含層（土師器皿）を切って暗灰黄色シルトの時期不明溝。	23T037	TB 056	24-1
鳥羽離宮跡、鳥羽遺跡	伏・竹田西小屋ノ内町38地先	7/21	巡回時掘削終了。	23T159	TB 147	24-1
鳥羽離宮跡、鳥羽遺跡	伏・中島秋ノ山町地先	4/17・20	巡回時掘削終了。	22T663	TB 035	24-1
鳥羽離宮跡、鳥羽遺跡	伏・中島中道町21-2	11/6	GL-0.15mまで盛土。	23T274	TB 292	24-1
鳥羽離宮跡	伏・竹田真幡木町42、42-2、42-3	8/4~25	GL-0.4mまで盛土。	23T088	TB 174	24-1
鳥羽離宮跡	伏・中島秋ノ山町98	6/29	巡回時掘削終了。	23T092	TB 121	24-1
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町226	5/17、6/1	GL-1.01mでオリーブ黒色泥砂、-1.17mで灰色泥砂（細砂多量混）、-1.37mで灰色細砂、-1.51mで暗灰色中粒砂、-1.60~-2.09mで黄灰色粗砂と灰色粗砂の流路堆積。	22T621	TB 076	24-1
鳥羽離宮跡	伏・中島秋ノ山町55-7、中島河原田町1-2	11/8	GL-0.2mまで盛土。	23T362	TB 296	24-1
久我殿遺跡	伏・久我御旅町2-3、2-5	4/5~20	No.2；GL-0.15mでオリーブ褐色微砂混シルトの近現代旧耕作土、-0.33mで褐色微砂混シルトの近世耕作土、-0.44mでにぶい黄褐色細砂の氾濫状堆積、-0.57mで暗灰黄色細砂混シルトの中世耕作土、-0.67mで暗灰黄色砂質シルト、-0.87~-0.95mで黄灰色礫混粘土質シルト。No.3；GL-0.5mで明黄褐色細砂、-0.56mで灰色粗砂の氾濫状堆積、-0.75~-1.32mで青灰色粘土の地山。	22S599	TB 010	19
富ノ森城跡	伏・横大路六反畑~横大路北ノ口地先	8/17・22、11/30	GL-0.71mまで盛土。	23S200	TB 187	27-7

長岡京地区(NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
左京一条三坊十五町跡	南・久世東土川町242、243、久世大藪町495-2他	9/13	GL-0.95mで灰オリーブ色細砂の近現代層（ガラス片混）、-1.16~-1.26mで灰色シルト。	23NG180	NG 224	18-3
左京一条四坊三・四町跡、東土川遺跡	南・久世東土川町285-1、286-3、287-1、289-1	4/13・14・20	GL-0.21mで黄褐色砂泥の旧耕作土、-0.37~-0.42mでにぶい黄色砂泥の時期不明包含層。	22NG595	NG 027	18-3
左京二条四坊二町跡、東土川遺跡	南・久世東土川町400-1	12/7	GL-0.8mまで盛土。	23NG234	NG 332	19
長岡京左京二条四坊三町跡、東土川遺跡	南・久世東土川町468-1	10/30・11/1	GL-1.8mまで盛土。	23NG233	NG 284	19
左京三条四坊五・六・十一・十二町跡	伏・久我西出町13-12、13-268、13-167、13-169	4/17・20	GL-0.73mで褐灰色砂泥（マンガン斑含）、-1.06~-1.54mで明緑灰色粘質土（マンガン斑含）の地山。	21NG635	NG 029	19
左京三条四坊十町跡	伏・久我西出町7-20	9/19、10/13	GL-0.84mで灰色粘質土と灰黄色粘質土の旧耕作土、-1.13mで黄灰色粘質土、-1.37~-1.43mでにぶい黄褐色粘質土。	21NG399	NG 228	19
左京四条三坊十四町跡	伏・羽束師菱川町544-13	4/25	GL-0.24mまで盛土。	22NG636	NG 049	19
左京四条三坊十四町跡	伏・羽束師菱川町544-6	5/10	巡回時掘削終了。	22NG646	NG 061	19
左京四条四坊三・四町跡	伏・羽束師菱川町532-4の一部	12/21	GL-0.56mまで盛土。	23NG029	NG 349	19

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
左京五条三坊五町跡	伏・羽束師古川町316他	8/29	GL-0.64mでにぶい黄褐色細～粗砂、-0.79～-0.94mで緑灰色微砂混シルトの旧耕作土。	23NG205	NG 200	19
左京五条四坊十四町跡	伏・羽束師志水町197-4、197-5の各一部	10/23	GL-0.5mまで盛土。	23NG286	NG 276	19
右京北辺三坊二町跡	西・大原野上里北ノ町563-12	4/18	GL-0.19～-0.39mでにぶい黄褐色泥砂の時期不明包含層。	22NG662	NG 037	28-1
右京一条三坊十五町跡、上里遺跡	西・大原野上里男鹿町13-13	5/8	GL-0.4mまで盛土。	22NG635	NG 055	28-1

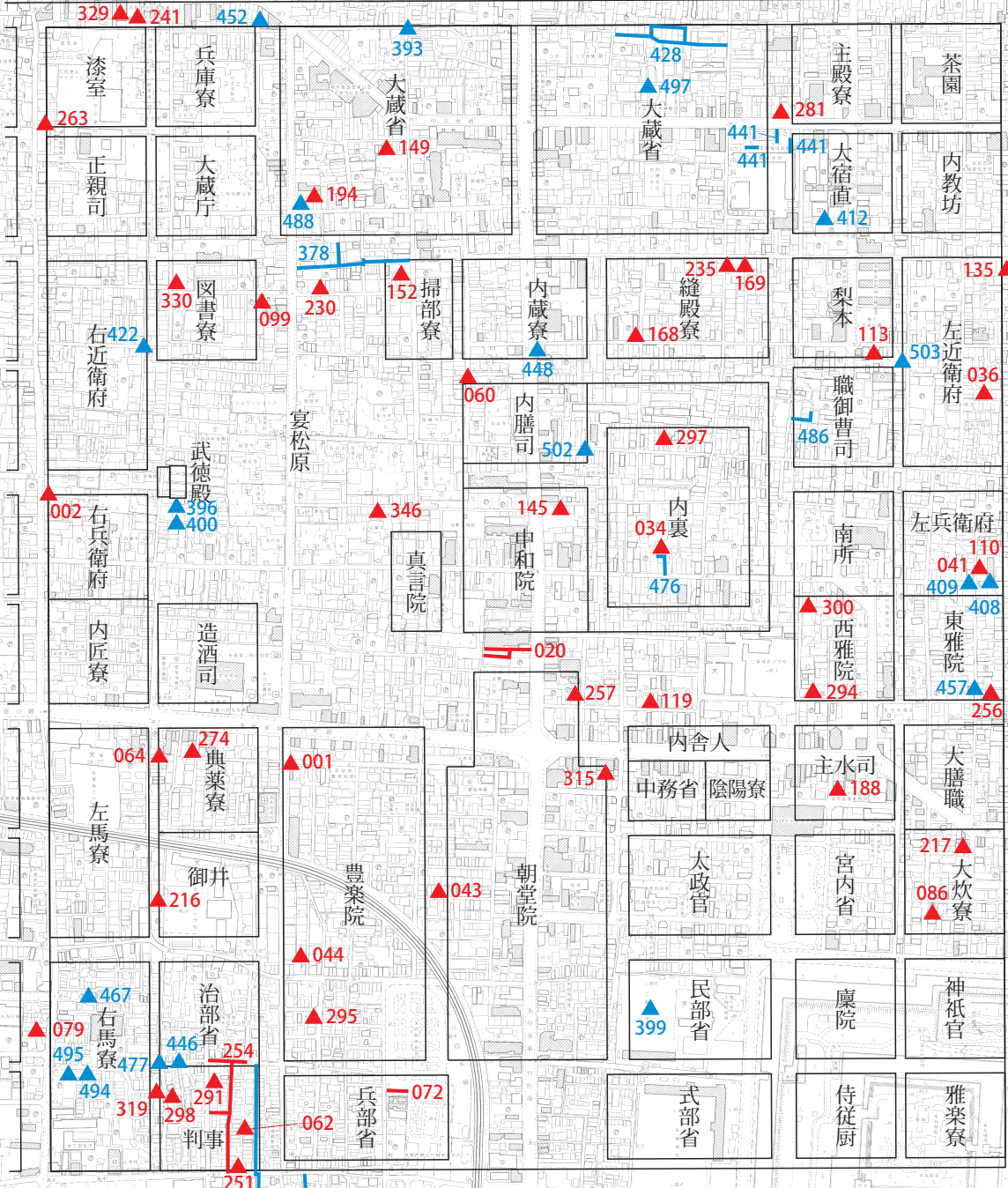
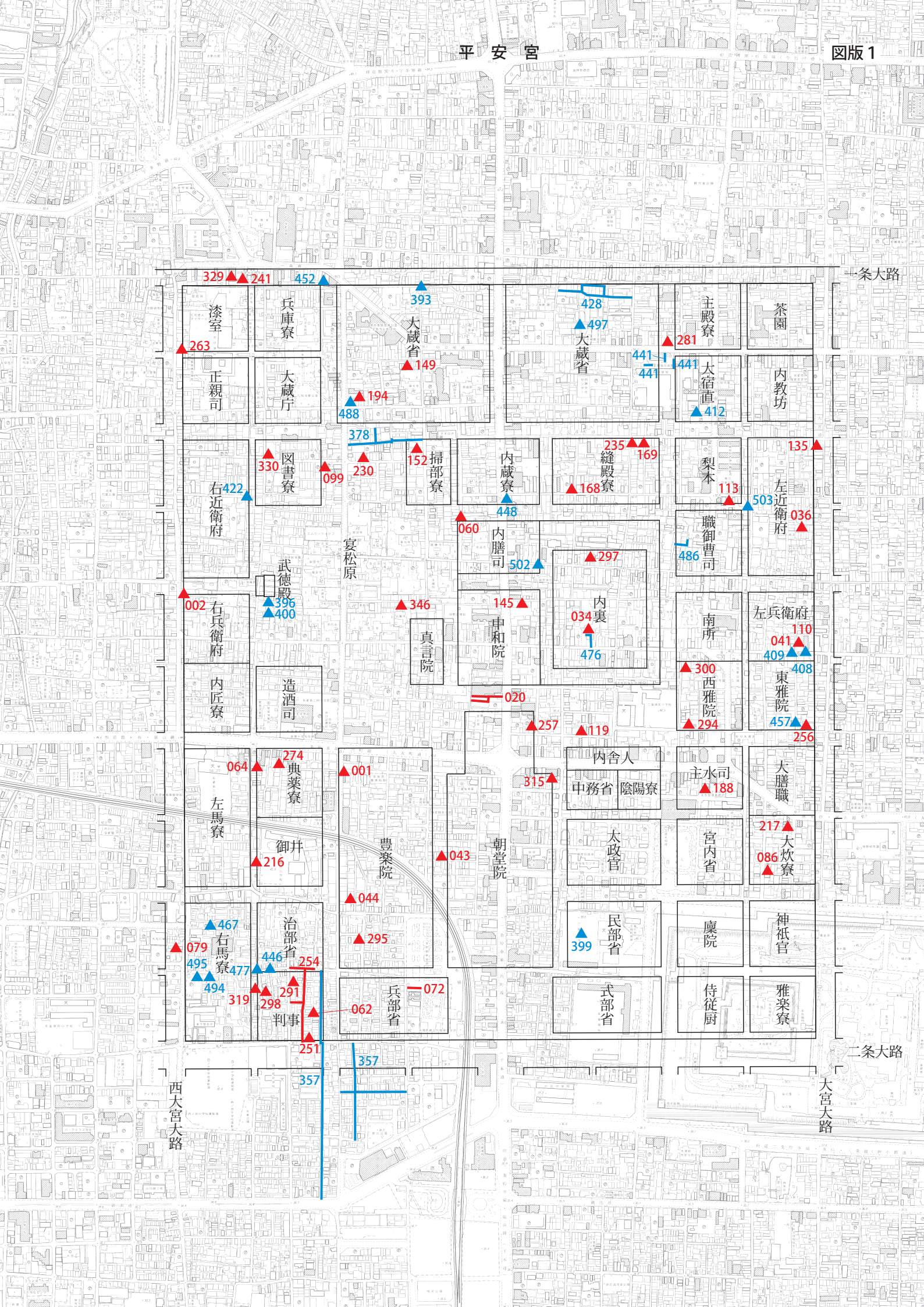
南桂川地区(MK)

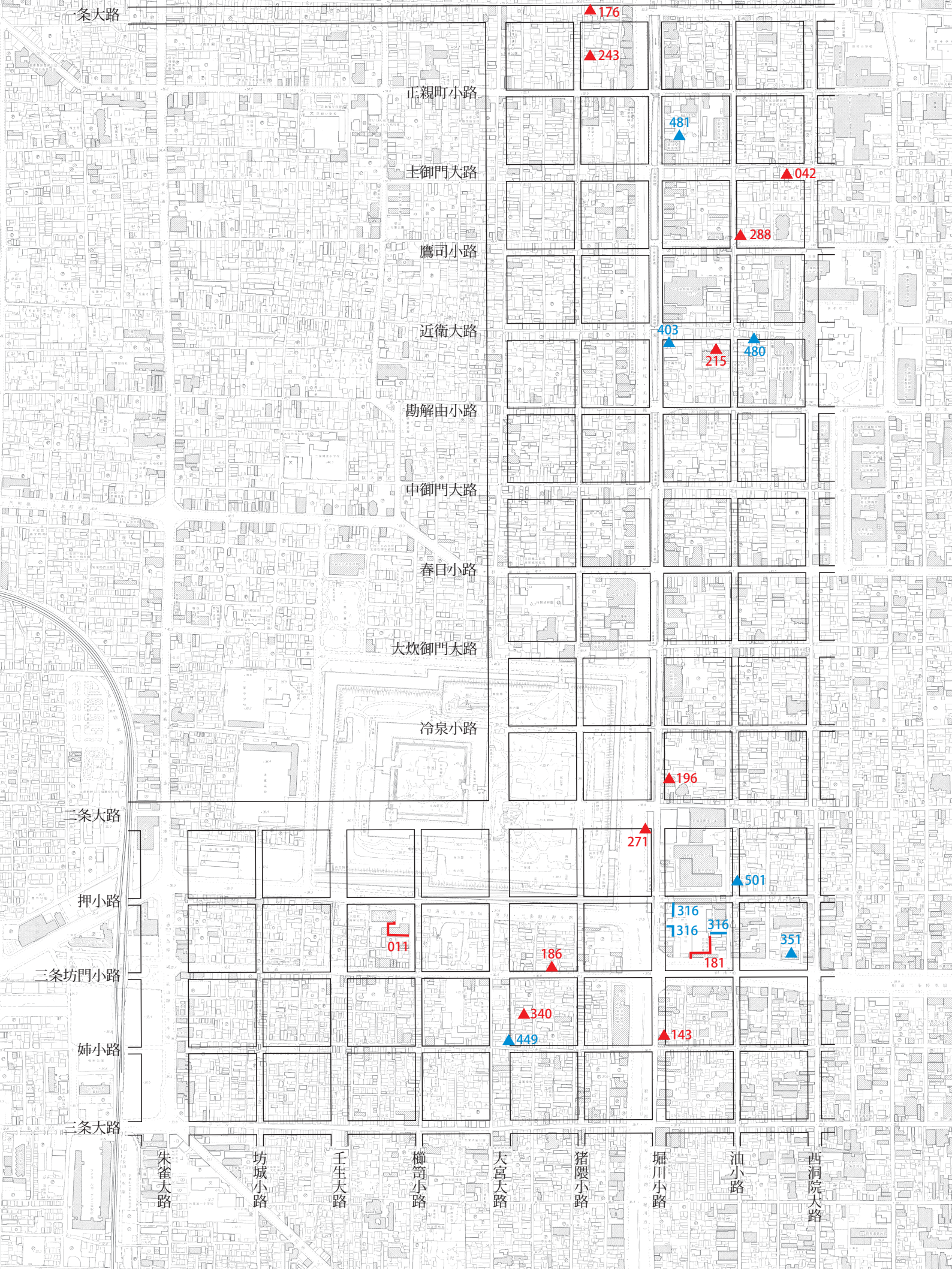
遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
松尾十三塚古墳群	西・松室追上ゲ町18-37	9/12	GL-0.35mまで盛土。	23S253	MK221	18-1
革嶋館跡	西・川島玉頭町11-1の一部	7/20、8/7	GL-0.22mで灰褐色砂泥の時期不明包含層、-0.46～-0.86mで黄色シルトの地山を切って灰黄褐色泥砂の時期不明ピット。	23S045	MK 146	18-2
革嶋館跡、革嶋遺跡	西・川島玉頭町37-3、37-70の一部	4/10・11・13	GL-0.1mでにぶい黄褐色細砂混シルトの時期不明包含層、-0.23～-0.43mで褐色微砂混粘土質シルトの時期不明包含層。	22S607	MK014	18-2
檜原遺跡	西・檜原釘貫町5-28、檜原里ノ垣外町7-1、14-1、46-1	4/13	GL-0.81mで黄褐色シルトの地山を切って黒褐色シルトの時期不明土坑、にぶい黄褐色シルト、灰黄褐色シルト、暗灰黄色シルト（炭化物含）の時期不明ピット3基。No.2；GL-0.14mで黒褐色泥砂の旧耕作土、-0.24mで浅黄褐色粗砂の地山を切って灰黄褐色粗砂（シルト混）の時期不明土坑、-0.66～-0.78mで黄褐色シルト。	23S019	MK024	28-2
上久世遺跡	南・久世上久世町140-4、140-6	4/17・18・20・21	GL-0.2～-0.44mでにぶい黄褐色細砂の弥生～古墳包含層（弥生土器）を切って灰黄色砂泥の古墳流路（弥生土器）と灰白色細砂、灰白色砂泥の時期不明柱穴。	22S633	MK032	18-3
上久世遺跡	南・久世上久世町663-1の一部	10/2・10	GL-0.14mで明黄褐色粘質土、-0.22～-0.3mでにぶい黄褐色粘質土の時期不明包含層（土師器）。	23S262	MK248	18-3
中久世遺跡	南・久世中久世町三丁目400-4	7/3・5・10	GL-0.3mで灰黄褐色砂泥、-0.5～-0.65mで黄褐色シルトの地山。	23S039	MK 124	18-3
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目45	9/8	GL-0.4mで明褐色粘質土の湿地状堆積、-0.85～-1.2mでにぶい褐色砂質土の地山。	23S177	MK210	18-3
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目81-2、82	12/11～14	GL-0.41～-0.6mで黄灰色シルトの旧耕作土。	23S313	MK334	18-3
中久世遺跡	南・久世殿城町453、454、456-1、832、456-1の一部	7/3・10・13	GL-1.25～-1.69mでにぶい黄褐色砂礫の地山。	23S127	MK 123	18-3
中久世遺跡、大藪遺跡、下久世構跡	南・久世殿城町453、454、456-1、463、831	7/19・24、8/25	GL-1.36mで灰白色泥砂の旧耕作土、-1.54mでにぶい黄褐色泥砂と黄灰色シルトの中世耕作土、-1.91mで黄灰色シルト、-2.17～-2.39mで灰色微砂（有機物・炭化物多量含）の湿地状堆積。	23S054	MK 142	18-3
大藪遺跡	南・久世大藪町234-12	4/4	GL-0.45mまで盛土。	22S276	MK006	18-3
福西古墳群	西・大枝東長町3-26	10/30	GL-0.24～-0.46mで明黄褐色シルトの地山。	23S352	MK285	25-4
福西古墳群	西・大枝東長町1-22、1-23の各一部	10/3・11	GL-0.23～-0.36mで明黄褐色シルトの近世包含層。	23S143	MK250	25-4
福西古墳群	西・大枝東長町1-455の一部	7/31	GL-0.15～-0.25mで赤褐色泥砂の地山。	22S154	MK 166	25-4
福西古墳群	西・大枝北福西町三丁目1-34	5/31	GL-0.3mまで盛土。	23S065	MK094	25-4
福西古墳群	西・大枝北福西町三丁目1-103 地先	10/10	巡回時掘削終了。	23S267	MK259	25-4

圖 版

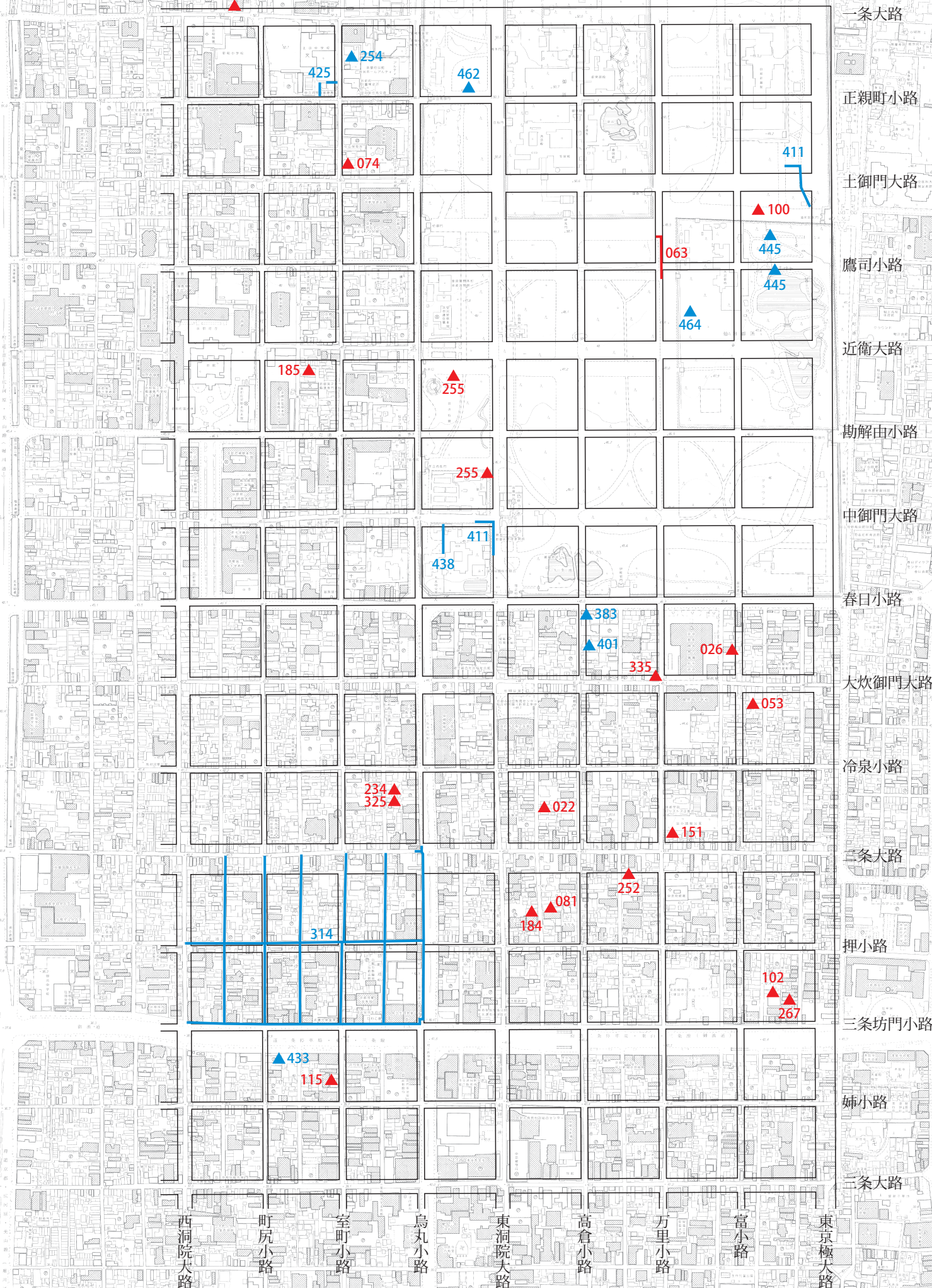
凡 例

- ▲ — 2023年1～3月期(令和4年度)詳細分布調査地点
- ▲ — 2023年4～12月期(令和5年度)詳細分布調査地点





平安京左京北辺～三条三・四坊

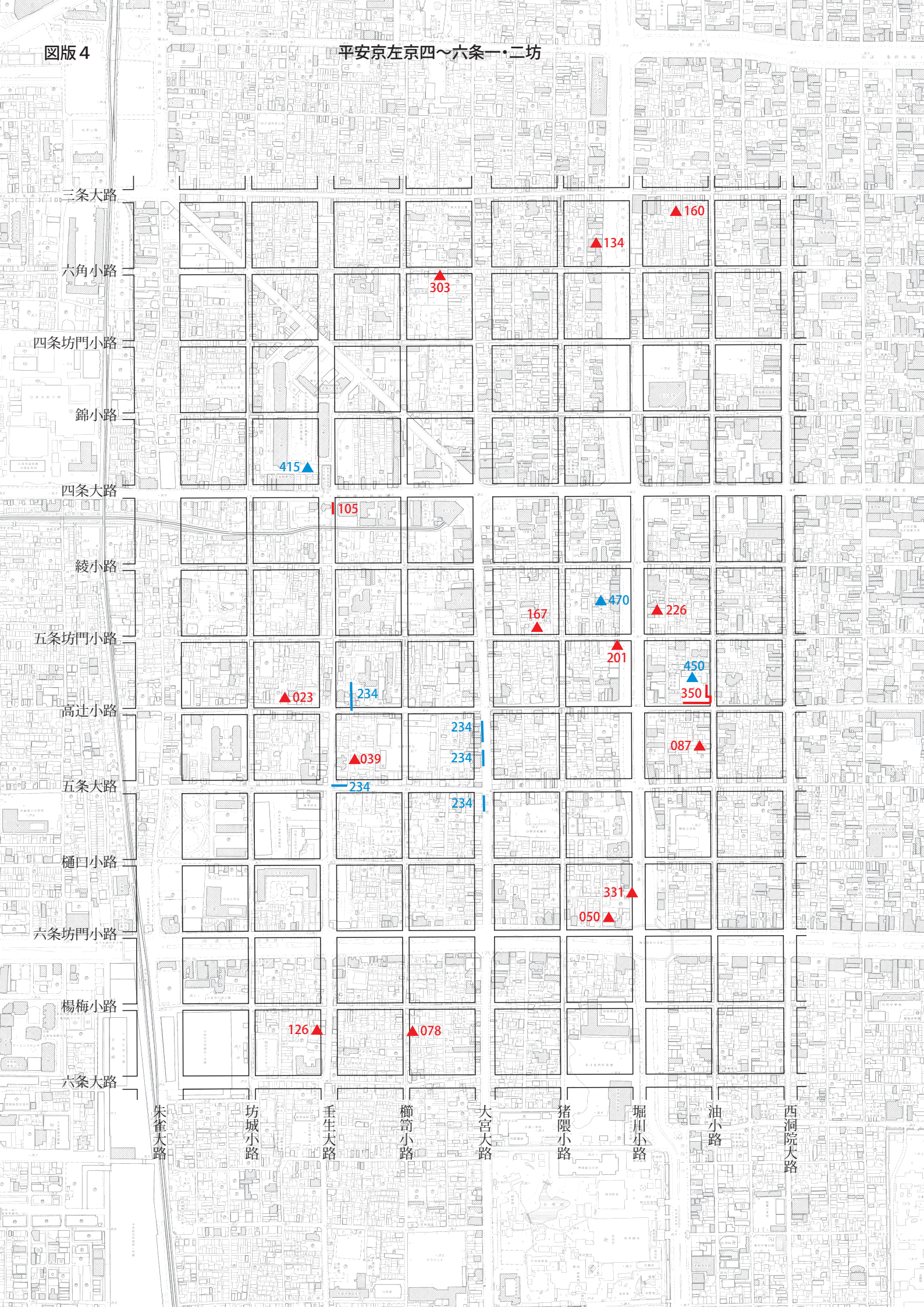


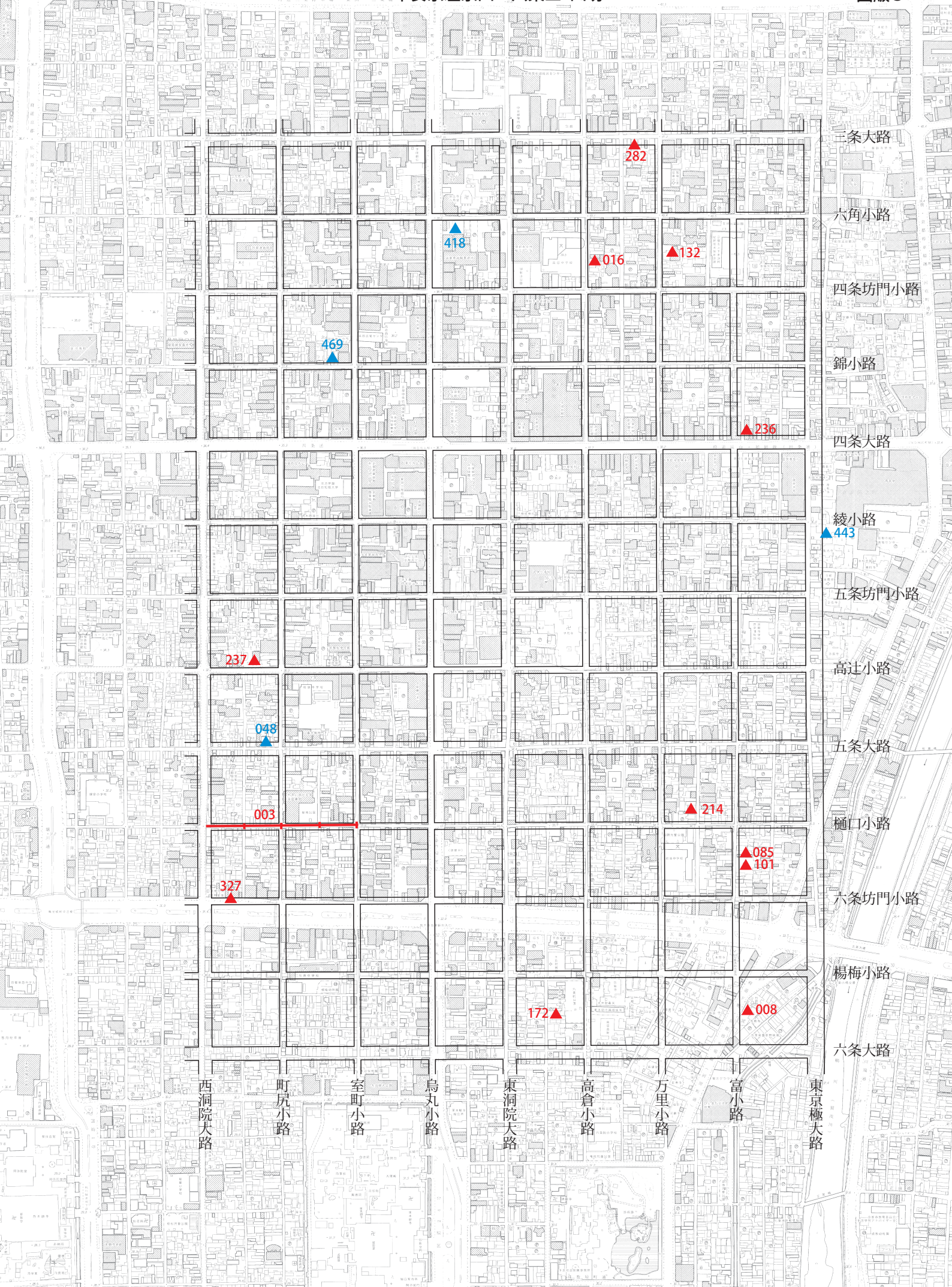
一条大路
 正親町小路
 土御門大路
 鷹司小路
 近衛大路
 勘解由小路
 中御門大路
 春日小路
 大炊御門大路
 冷泉小路
 三条大路
 押小路
 三条坊門小路
 姉小路
 三条大路

西洞院大路
 町尻小路
 室町小路
 烏丸小路
 東洞院大路
 高倉小路
 万里小路
 富小路
 東京極大路

図版4

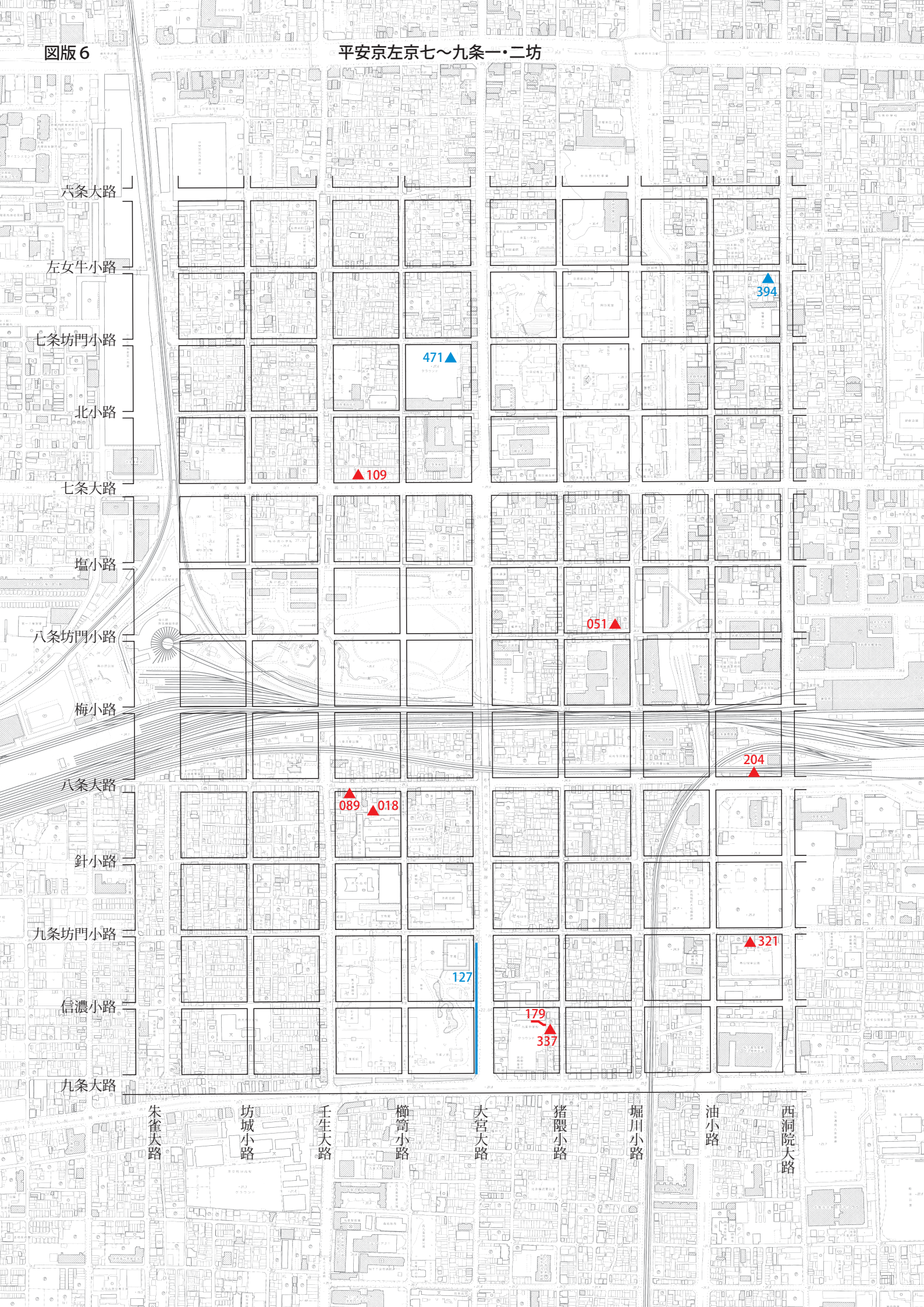
平安京左京四〜六条一・二坊





図版6

平安京左京七～九条一・二坊



六条大路

左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

塩小路

八条坊門小路

梅小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

信濃小路

九条大路

朱雀大路

坊城小路

壬生大路

櫛笥小路

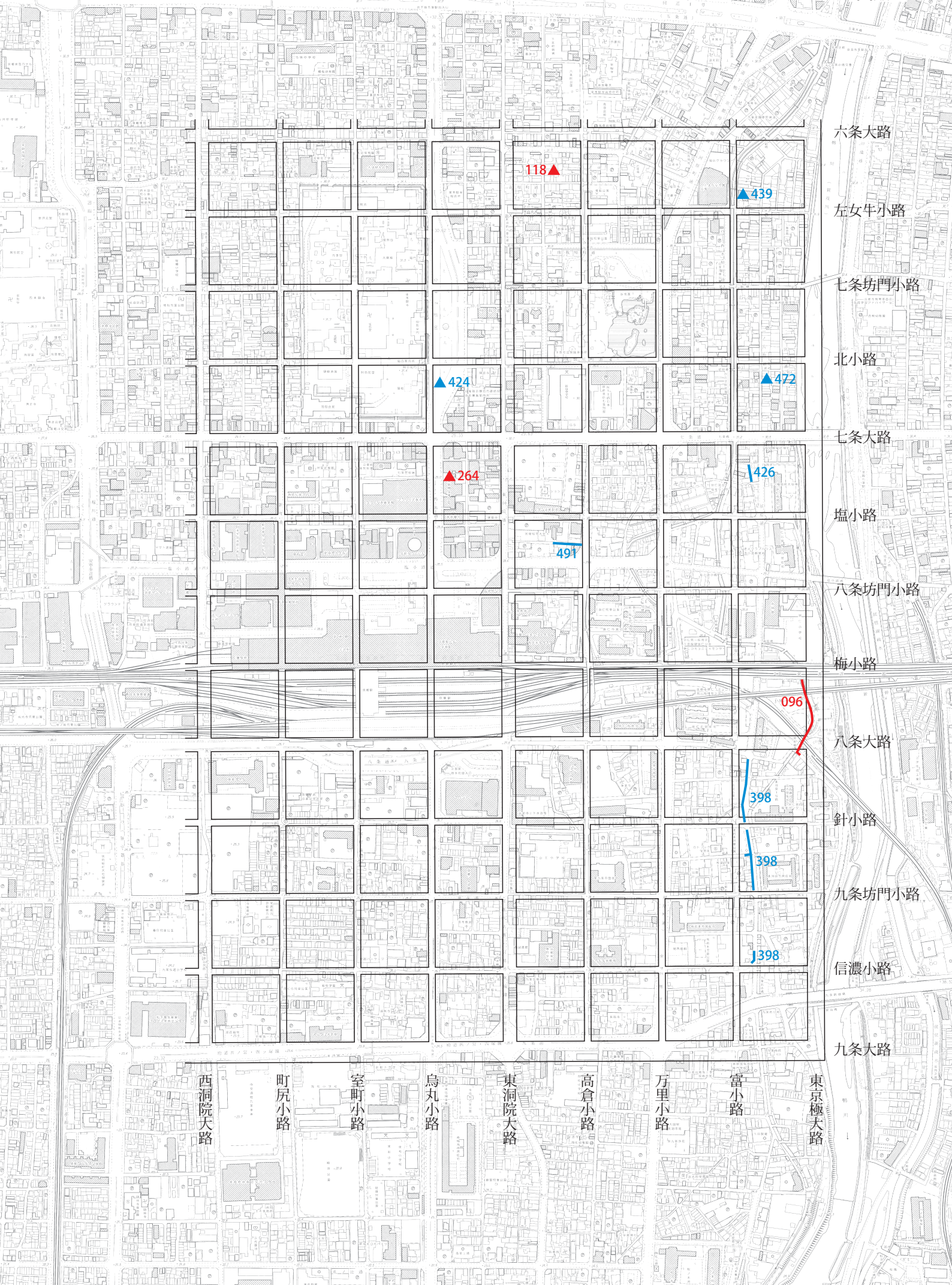
大宮大路

猪隈小路

堀川小路

油小路

西洞院大路



六条大路

左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

塩小路

八条坊門小路

梅小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

信濃小路

九条大路

西洞院大路

町尻小路

室町小路

烏丸小路

東洞院大路

高倉小路

万里小路

富小路

東京極大路

118▲

▲439

▲424

▲472

▲264

▲426

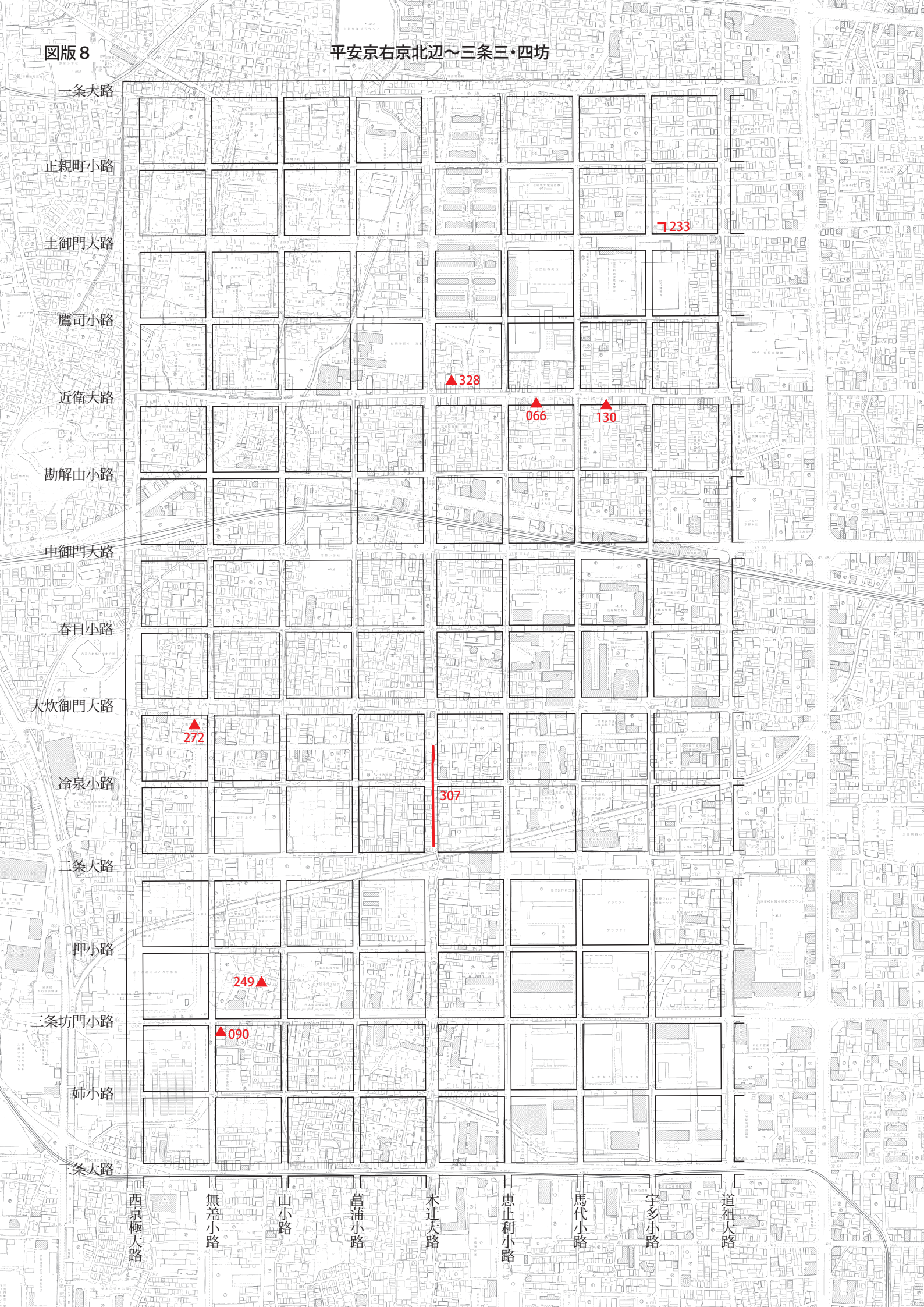
▲491

▲096

▲398

▲398

▲398



一条大路

正親町小路

土御門大路

鷹司小路

近衛大路

勘解由小路

中御門大路

春日小路

大炊御門大路

冷泉小路

二条大路

押小路

三条坊門小路

姉小路

三条大路

西京極大路

無差小路

山小路

菖蒲小路

木辻大路

恵止利小路

馬代小路

宇多小路

道祖大路

▲272

▲249

▲090

307

▲328

▲066

▲130

T233

一条大路

正親町小路

土御門大路

鷹司小路

近衛大路

勘解由小路

中御門大路

春日小路

大炊御門大路

冷泉小路

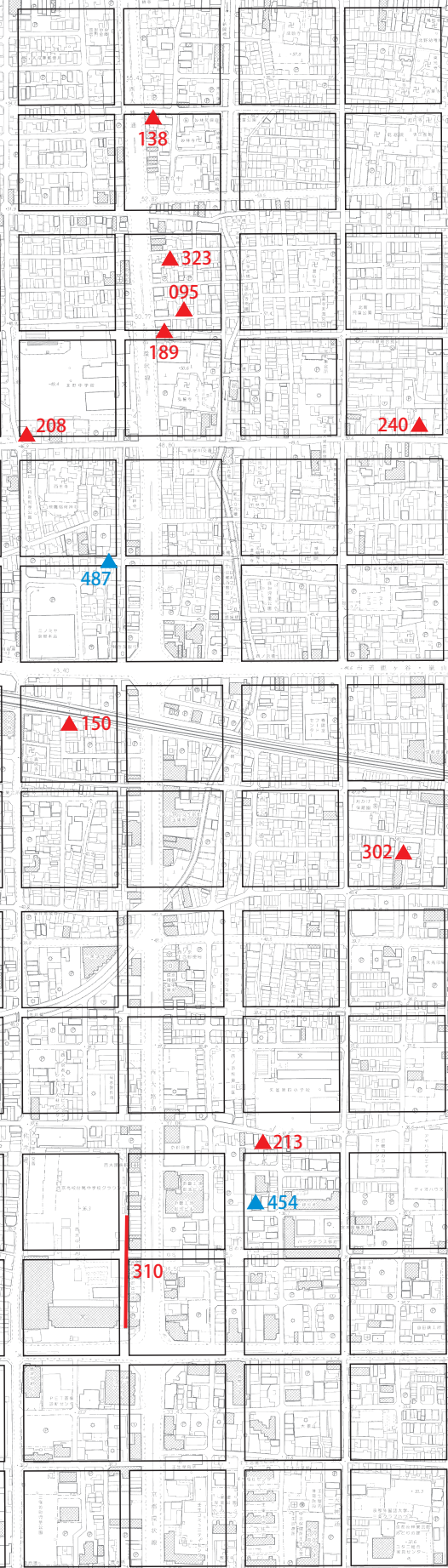
二条大路

二押小路

三条坊門小路

姉小路

三条大路



道祖大路

野寺小路

西堀川小路

西鞠負小路

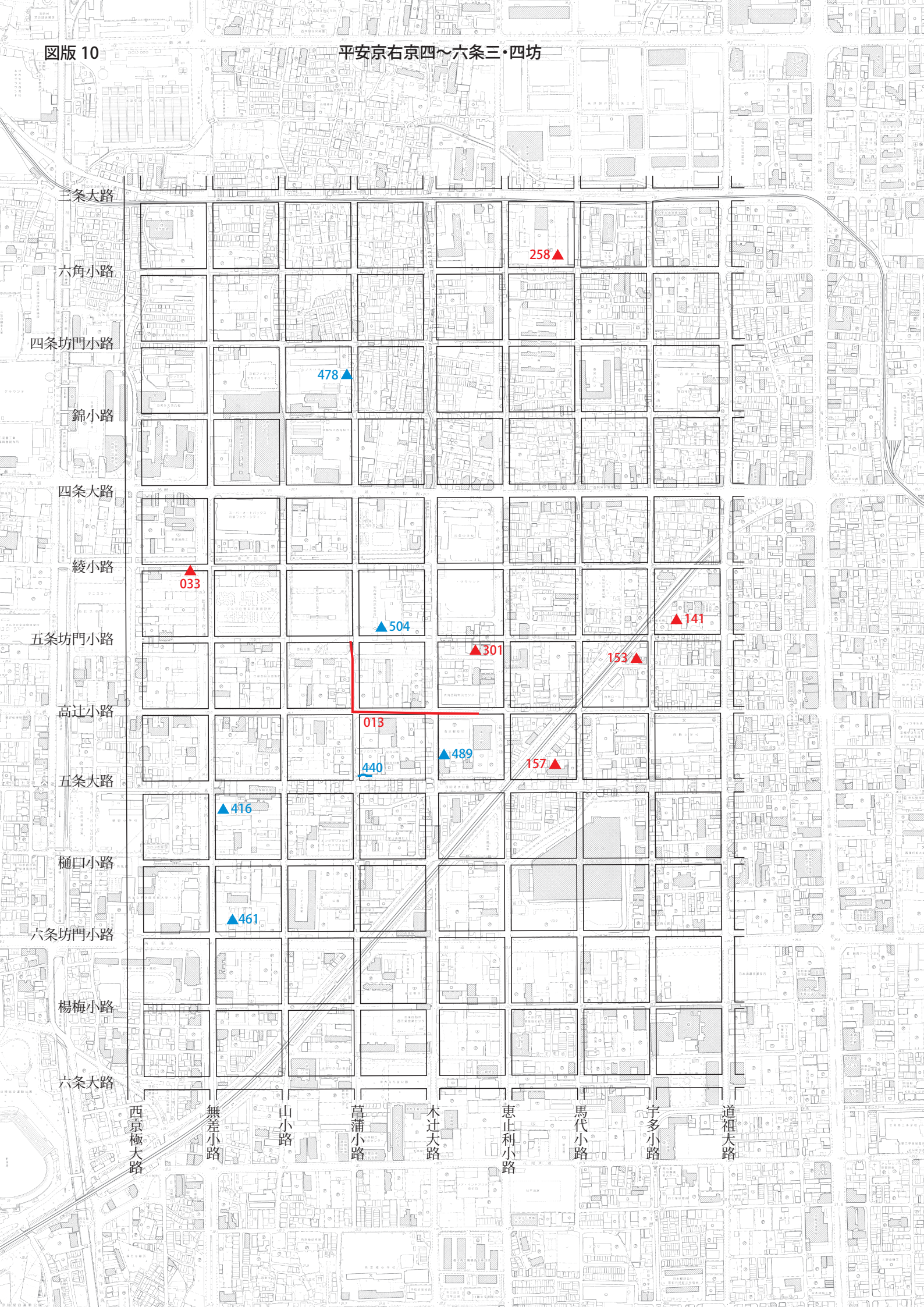
西天宮大路

西櫛笥小路

皇嘉門大路

西坊城小路

朱雀大路



三條大路

六角小路

四條坊門小路

錦小路

四條大路

綾小路

五條坊門小路

高辻小路

五條大路

樋口小路

六條坊門小路

楊梅小路

六條大路

西京極大路

無差小路

山小路

葛浦小路

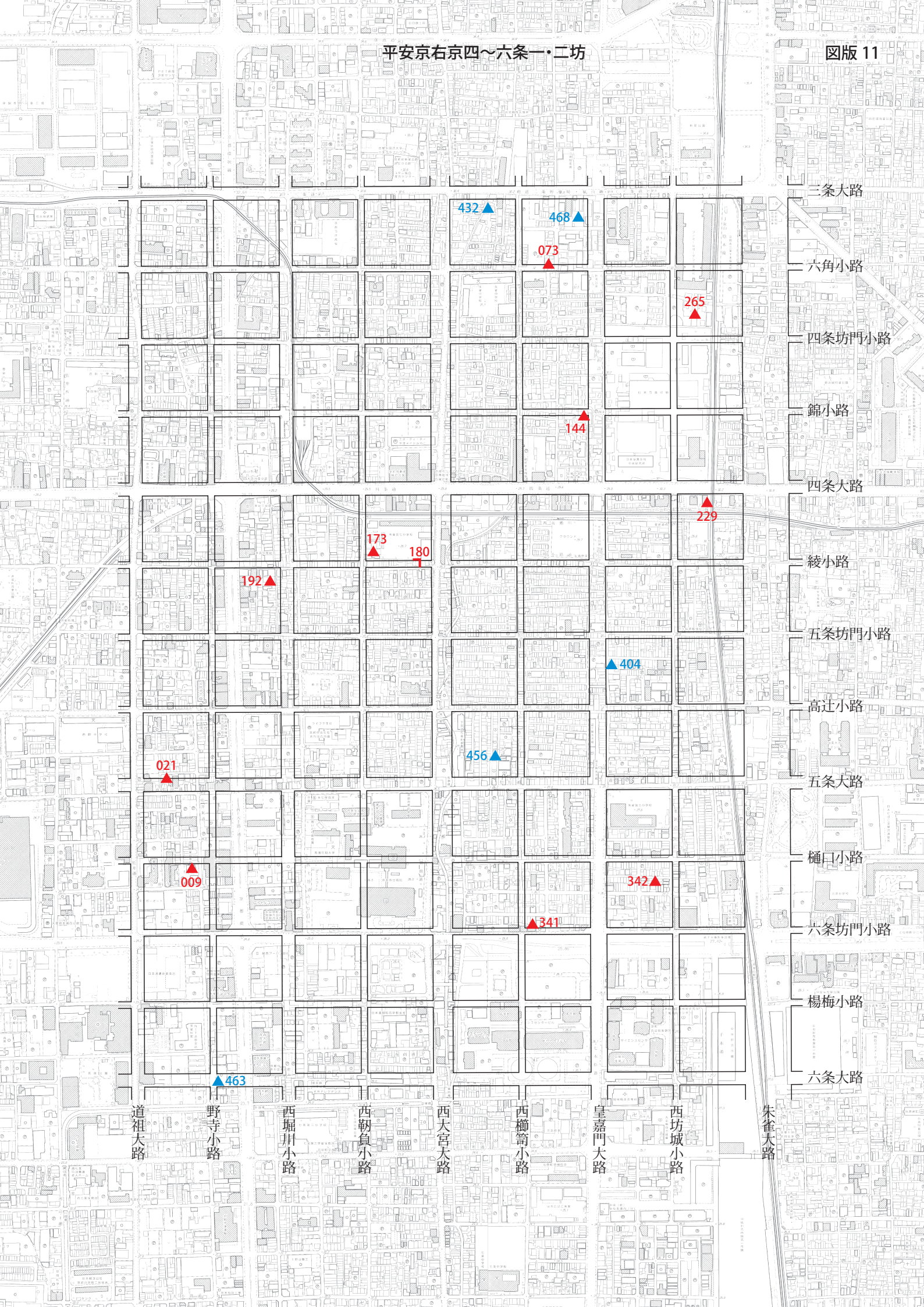
木辻大路

惠止利小路

馬代小路

宇多小路

道祖大路



三條大路

六角小路

四條坊門小路

錦小路

四條大路

綾小路

五條坊門小路

高辻小路

五條大路

樋口小路

六條坊門小路

楊梅小路

六條大路

道祖大路

野寺小路

西堀川小路

西朝負小路

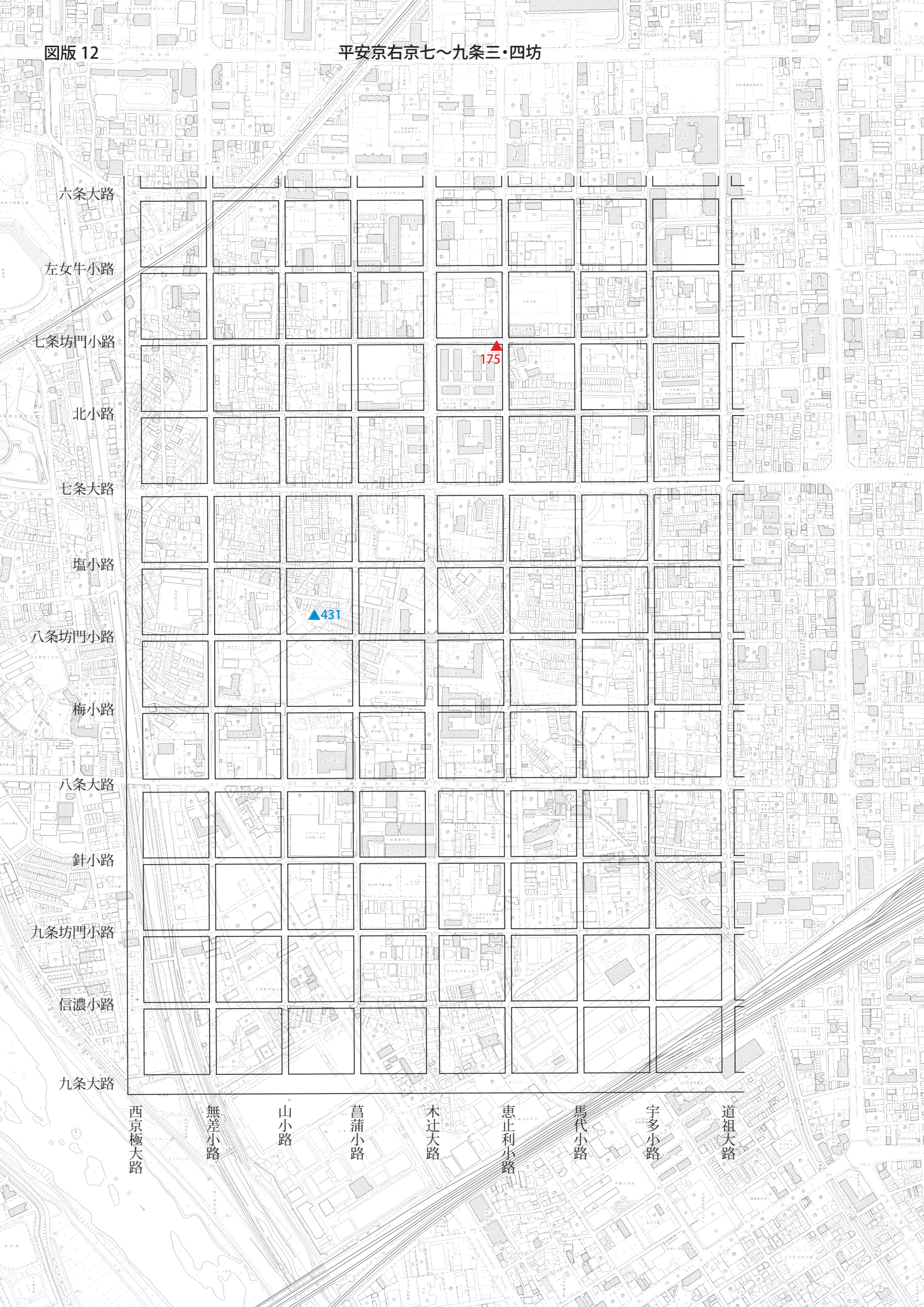
西大宮大路

西櫛笥小路

皇嘉門大路

西坊城小路

朱雀大路



六条大路

左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

塩小路

八条坊門小路

梅小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

信濃小路

九条大路

西京極大路

無差小路

山小路

菖蒲小路

木辻大路

惠止利小路

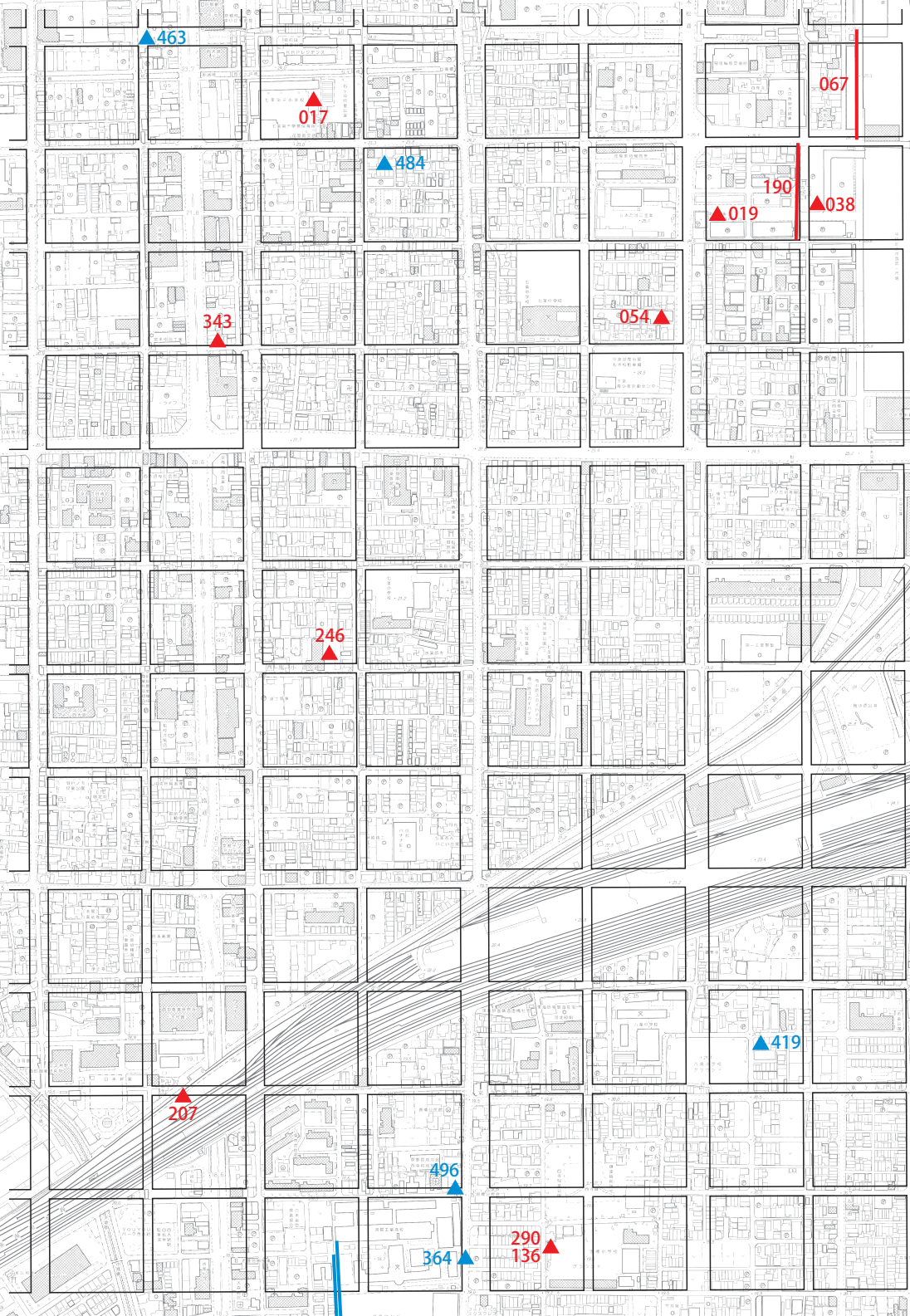
馬代小路

宇多小路

道祖大路

▲175

▲431



六条大路

左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

塩小路

八条坊門小路

梅小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

信濃小路

九条大路

道祖大路

野寺小路

西堀川小路

西朝負小路

西大宮大路

西櫛笥小路

皇嘉門大路

西坊城小路

朱雀大路

▲463

▲017

▲484

067

▲242

190

▲038

343

054▲

▲246

▲419

▲207

496

290

136

490

▲490

372

▲364